

## 国 語

### 1 原典教科書と分冊の方針

(1) 原典教科書

発行者：光村図書出版株式会社

書 名：国語 1～3

(2) 分冊と原典教科書との対応

各学年の分冊ページは、以下のとおりである。（ページは原典ページ）

学年	分冊	原点教科書の対応箇所等
第1学年	1-1 最初～60ページ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝のリレー・思考の地図・この教科書で学習するみなさんへ／主体的な学びのために</li> <li>【言葉に出会うために】・野原はうたう・声を届ける</li> <li>・書き留める／言葉を調べる・続けてみよう</li> <li>【1学びをひらく】・はじまりの風・季節のしおり 春</li> <li>・情報を聞き取り、要点を伝える・音声の仕組みや働き</li> <li>・話の構成を工夫しよう・漢字の組み立てと部首・漢字に親しもう 1</li> <li>【2新しい視点で】・ダイコンは大きな根？・ちょっと立ち止まって</li> <li>・情報整理のレッスン 比較、分類</li> <li>・情報を整理して説明しよう・指示する語句と接続する語句</li> </ul>
	1-2 61～126ページ	<ul style="list-style-type: none"> <li>【3言葉に立ち止まる】・空の詩 三編・詩の創作教室</li> <li>・さまざまな表現技法・比喩で広がる言葉の世界</li> <li>・言葉のまとまりを考えよう・語彙を豊かに</li> <li>【情報×SDGs】・情報収集の達人になろう</li> <li>・著作権について知ろう</li> <li>【いつも本はそばに】・読書を楽しむ・本の中の中学生(あと少し、もう少し／西の魔女が死んだ)・本の世界を広げよう</li> <li>・本との出会い・季節のしおり 夏</li> <li>【4心の動き】・大人になれなかった弟たちに・星の花が降るころに</li> <li>・項目を立てて書こう・[推敲]読み手の立場に立つ・方言と共通語</li> <li>・聞き上手になろう・漢字の音訓・漢字に親しもう 2</li> </ul>
	1-3 241～274ページ	<ul style="list-style-type: none"> <li>【学びを深める】・言葉の単位・文の組み立て・単語の分類</li> <li>・[練習]小学校六年生で学習した漢字・国語の力試し・語彙ブック</li> </ul>
	1-4 275～338ページ	<ul style="list-style-type: none"> <li>【資料編】・文学的な文章を読むために</li> <li>・説明的な文章を読むために・豊かに表現するために</li> <li>・発想を広げる—表現テーマ例集・読書感想文の書き方</li> <li>・文章の推敲、原稿用紙の使い方・敬語を使う・手紙の書き方</li> <li>・幻の魚は生きていた・坊っちゃん・言葉としぐさの伝統芸能—古典落語・百人一首を味わう</li> </ul>
	1-5 127～174ページ	<ul style="list-style-type: none"> <li>【5筋道を立てて】・「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ</li> <li>・思考のレッスン1 意見と根拠・根拠を明確にして書こう</li> <li>・漢字に親しもう 3・言葉の関係を考えよう・大阿蘇</li> <li>・季節のしおり 秋</li> <li>【6いにしへの心にふれる】・古典の世界・いろは歌</li> <li>・蓬萊の玉の枝・古典の言葉・今に生きる言葉・漢文を読む</li> </ul>
	1-6 175～240ページ	<ul style="list-style-type: none"> <li>【7価値を見いだす】・「不便」の価値を見つめ直す</li> <li>・思考のレッスン2 原因と結果・漢字に親しもう 4</li> <li>・話し合い(進行)進め方について考えよう・季節のしおり 冬</li> <li>・話題や展開を捉えて話し合おう</li> <li>【いつも本はそばに】・研究の現場によろこそ(四百年のスローライ</li> </ul>

		フ／はやぶさ2 最強ミッションの真実) ・本の世界を広げよう 【8自分を見つめる】 ・少年の日の思い出・漢字に親しもう5 ・二十歳になった日・単語の性質を見つけよう ・構成や描写を工夫して書こう・漢字の成り立ち ・一年間の学びを振り返ろう・ぼくが ここに
第2学年	2-1 最初～60ページ	・見えないだけ・思考の地図・この教科書で学習する皆さんへ／主体的な学びのために・続けてみよう 【1広がる学びへ】 ・アイズプラネット・漢字に親しもう1 ・意見を聞き、整理して検討する・単語をどう分ける？ ・魅力的な提案をしよう・枕草子・季節のしおり 春 【2多様な視点から】 ・クマゼミ増加の原因を探る ・情報整理のレッスン 思考の視覚化・情報を整理して伝えよう ・熟語の構成・漢字に親しもう2
	2-2 61～120ページ	【3言葉と向き合う】 ・短歌に親しむ・短歌の創作教室 ・短歌を味わう・言葉の力・類義語・対義語・多義語・語彙を豊かに 【情報×SDGs】 ・メディアの特徴を生かして情報を集めよう ・デジタル市民として生きる 【いつも本はそばに】 ・読書を楽しむ・翻訳作品を読み比べよう (星の王子さま) ・「わからない」は人生の宝物・本の世界を広げよう ・季節のしおり 夏 【4人間のきずな】 ・ヒューマノイド・字のない葉書・表現を工夫して書こう・[推敲]表現の効果を考える・敬語・聞き上手になろう ・同じ訓、同じ音をもつ漢字・漢字に親しもう3
	2-3 239～274ページ	【学びを深める】 ・一年生の復習・自立語・用言の活用・付属語 ・[練習]小学校六年生で学習した漢字・国語の力試し・語彙ブック
	2-4 275～338ページ	【資料編】 ・文学的な文章を読むために ・説明的な文章を読むために・豊かに表現するために ・発想を広げる—表現テーマ例集・インタビューをする ・インターネットの活用・グラフの見方／引用・出典 ・いろいろな通信文・盆土産・形・古典芸能の世界一能・狂言 ・敦盛の最期—「平家物語」から
	2-5 121～164ページ	【5論理を捉えて】 ・モアイは語る—地球の未来 ・思考のレッスン1 根拠の吟味・適切な根拠を選んで書こう ・月夜の浜辺・季節のしおり 秋 【6いにしえの心を訪ねる】 ・音読を楽しむ 平家物語（「平家物語」の世界／「平家物語」の主な登場人物たち） ・扇的・漢字に親しもう4 ・仁和寺にある法師・係り結び・漢詩の風景・律詩について
	2-6 165～238ページ	【7価値を語る】 ・君は「最後の晚餐」を知っているか ・「最期の晚餐」の新しさ・思考のレッスン2 具体と抽象 ・季節のしおり 冬・[話し合い(進行)]話し合いの流れを整理しよう ・走る。走らない。走ろうよ。 ・漢字に親しもう4 【いつも本はそばに】 ・「自分らしさ」を認め合う社会へ(父と話せば／六千回のトライの先に) ・本の世界を広げよう 【8表現を見つめる】 ・走れメロス・漢字に親しもう5 ・一字違いで大違い・描写を工夫して書こう ・話し言葉と書き言葉・送り仮名・国語の学びを振り返ろう・鍵
第3学年	3-1 最初～75ページ	・世界はうつくしいと・学習の見通しをもとう・思考の地図 ・この教科書で学習する皆さんへ／主体的な学びのために ・続けてみよう

		<p>【1 深まる学びへ】・握手・漢字に親しもう1・意見を聞き、適切さを判断する・「走って」いるのは誰?・説得力のある構成を考えよう・相手や場に応じた言葉遣い・学びて時に之を習ふ・漢文の訓読・季節のしおり 春</p> <p>【2 視野を広げて】・作られた「物語」を超えて</p> <p>・思考のレッスン 具体化、抽象化</p> <p>・論理の展開を意識して書こう・熟語の読み方・漢字に親しもう2</p> <p>【3 言葉とともに】・俳句の可能性・俳句の創作教室・俳句を味わう</p> <p>・言葉の釣り糸を垂らす・和語・漢語・外来語・語彙を豊かに</p>
3-2	76~128ページ	<p>【情報×SDGs】・実用的な文章を読もう</p> <p>・報道文を比較して読もう・情報整理のレッスン 情報の信頼性</p> <p>【いつも本はそばに】・読書を楽しむ・[私の一冊]を探しにいこう(羊と鋼の森)・本の世界を広げよう・ためになるってどんなこと?</p> <p>・季節のしおり 夏</p> <p>【4 状況の中で】・挨拶一原爆の写真によせて・故郷</p> <p>・聞き上手になろう・[推敲]論理の展開を整える</p> <p>・慣用句・ことわざ、故事成語・漢字の造語力</p>
3-3	227~254ページ	<p>【学びを深める】・一、二年生の復習・文法を生かす</p> <p>・文法のまとめ・国語の力試し・語彙ブック</p>
3-4	255~334ページ	<p>【資料編】</p> <p>・文学的な文章を読むために・説明的な文章を読むために</p> <p>・豊かに表現するために・発想を広げる一表現テーマ例集</p> <p>・グラフの見方/引用・出典・話し合いの方法・二つの悲しみ</p> <p>・高瀬舟・古典芸能の世界一歌舞伎、浄瑠璃</p> <p>・古典・近代文学の名作・日本文学の流れ・郷土ゆかりの作家・作品</p> <p>・(発展) 文語の活用・常用漢字表について</p>
3-5	129~170ページ	<p>【5 自らの考えを】・複数の意見を読んで、考えよう一正解が一つに決まらない課題と向き合う・考えを効果的に伝えよう</p> <p>・漢字に親しもう3・「ない」の違いがわからない?</p> <p>・初恋・季節のしおり 秋</p> <p>【6 いにしへの心を受け継ぐ】・和歌の世界・古今和歌集 仮名序</p> <p>・君待つと一万葉・古今・新古今・和歌の表現技法・夏草</p> <p>・俳句と俳諧・つながる古典・古典名作選</p>
3-6	171~226ページ	<p>【7 価値を生み出す】・それでも、言葉を・漢字のまとめ</p> <p>・漢字に親しもう4・話し合いを効果的に進めよう</p> <p>・季節のしおり 冬・合意形成に向けて話し合おう</p> <p>【いつも本をそばに】・本は世界への扉(天、共に在り/極夜行)</p> <p>・本の世界を広げよう</p> <p>【8 未来へ向かって】・温かいスープ・アラスカとの出会い・律儀な桜・わたしを束ねないで・三年間の歩みを振り返ろう・初日</p> <p>・漢字に親しもう5</p>

### (3) 分冊の考え方

1学年を6分冊とし、各学年の第3巻には、「学びを深める」、第4巻には、「資料編」を掲載した。なお、「一年生(二年生、三年生)で学習した漢字」「一年生(二年生、三年生)で学習した音訓」は、各教材末の「新出漢字」の箇所に分割して掲載してある。

また、各学年の第3巻の資料編に、【資料1】【資料2】として点字表記の学習教材「点字の書き方」「書き方の形式」を記載した。

## 2 編集の具体的方針

編集にあたっては、基本的には原典教科書に大きな変更を加えることなく、点字を常用して学習する生徒(以下、「生徒」という。)の障害の特性に応じるため、視覚的な情報保障が不十分なため活動として

成り立ちにくいものや理解しにくい等の題材及び教材（以下、「教材等」という。）について、(1)、(2)の特性を踏まえ「変更」「差し替え」「追加」「削除」しながら点字化を行う。

#### (1) 認知の特性

視覚からの映像による情報処理は、全体の情報を一度で把握することや一部分を詳しく把握すること、全体と部分と比較しながらとらえることが容易である（即時的把握）。一方、言葉（音声の聴取）による情報処理は、一つ一つの情報をつなぎ合わせて理解することから、距離や方向などは、初めから終わりまでの全ての情報を得てから記憶をたどりながら全体像をとらえることとなる（継時的把握）。

このように認知の特性があることから、即時的把握により理解を深める教材等において、継時的把握に必要な情報を補足するとともに、触覚の弁別は視覚に比べ低いため、触知覚で認知しやすいよう本質的な内容を選び出し情報を省略したり、図や表等を文章化、数値化したり、必要に応じて補足の情報を加えたりする場合がある。そのため、できるだけ比較しやすい配置の工夫を行うこと、題材の本質的な理解を促すために他の保有する感覚を総合的に活用するために工夫することなど必要な場合がある。

- ・視覚以外の保有する感覚に依存した学習に基づいた配慮
- ・視覚的な情報に依存する認知処理に基づいた理解を促す教材等にかかる困難さが生じる場合の配慮など

#### (2) 文字処理や点字表記上の特性

原典教科書のレイアウトから内容の関係性や順序など文章の流れがわかりやすくなるよう考慮するとともに、情報量の調整や配置の調整など適宜行う必要がある。また、原典教科書は、文字の大きさにより項目の重要度を表している場合、色や字体で重要項目や強調の意味で使用されている場合、図形や線等を原典教科書に書き込む場合等があるため、通常の文字（墨字）と同等に理解できるよう点字表記の工夫が必要な場合がある。

- ・表音文字である点字表記上の特性にともなう配慮など

### 3 編集の具体的内容

- (1) 点字表記及びレイアウト等は、『日本点字表記法 2018年版』（日本点字委員会編集・発行）に準じて行った。
- (2) 各学年の巻頭にある「学習の見通しをもとう」及び「中扉」の教材名以外、巻末の「学習のための用語一覧」「ICT活用のヒント」は、触読での全体像の把握になじまないために削除した。
- (3) 各学年P9～10に折り込まれている「思考の地図」は、点字での学習活動に参考となるものに精選して編集した。各学年に共通する箇所も多い為、第1学年のみ資料として掲載している。
- (4) 「この教科書で学習するみなさんへ」は、マーク類は原則削除し、マークを言語化して示した上で分冊ごとに掲載した。
- (5) 「主体的な学びのために」下段の「主な記号など」は「この教科書で使われる主な用語」と見出しを変更し、記号を言語化して掲載した。「ICT機器の活用」についての説明の部分及び「書体について」は削除した。また、最後に「原典ページを利用しよう」と見出しを加え、次のように追加した。  
原典ページを利用しよう 原典ページは、 で囲んでページ行左の端に示してある。
- (6) 全学年を通して、原典の教材で全文を削除したものはない。また、できるだけ原典にしたがって点字化するよう配慮したが、細かい点では次のような変更を行った。
  - ① 墨字の表記を点字化するにあたっては、点字表記の特性を踏まえて、可能な範囲で対応した。
  - ② 表・図・グラフ等は、点字表記の可能性、点字による理解の方法を考慮して、変更したり、削除したりしたものがある。指導の際には、適切に内容の読解ができるよう配慮することが大切である。
  - ③ 文字の形、漢字の部首等の教材は、生徒の理解度を考慮して、変更を加えた上で必要に応じて点線文字で掲載した。
  - ④ 地図は、内容を読み取る上で不可欠なものに限り、変更を加えた上で点図化した。
  - ⑤ 「右の」「左記の」「上の」「下の」などの表現をそれぞれ「これらの」「次の」「前の」「後の」などの表現に変更した。
  - ⑥ 「注」は原則として、見開き2ページ分を奇数ページ末に掲載した。また、読みを妨げないように掲載箇所に配慮をし、教材末にまとめて掲載したものもある。
  - ⑦ 「注意する語句」は、課題の提示を添えて、見開き2ページ分を偶数ページ末に掲載した。

- ⑧ 記号等の変更は、読解を助ける場合に限り行い、原則として原典どおりとしたが、箇条書きの行頭に用いられる中点（・）は削除し、必要に応じて全体の構造を明確にするための適切な記号に変更した。
- ⑨ 生徒のイラストに吹き出しが付いた会話や台詞類は、特に必要のない限りはAさん、Bさん・・・と便宜的な名前を付して会話や台詞であることを明らかにしたうえで、二マス空けてその内容を掲載した。人物以外のイラストに吹き出しが付いた台詞は、名前を付さずに第1カギで示した。
- ⑩ SDGsの17のアイコンは、1学年の「情報×SDGs」（原典教科書p78-79）にあるものは言語化して掲載したが、他の教材では割愛した。
- ⑪ 視覚の活用を表す語句は、「録画」を「録音」または「録音や録画など」と変更するなど、視覚以外の感覚を用いた学習を表す語句に変更した。活動内容や機器等活用の段階に応じた効果的な学習方法について配慮されたい。
- (7) 各教材末の「新出漢字」は、新出漢字部分を第1カギで囲み、欄外の漢字を見出し語として、「教材末の音訓」と熟語、及び「付録」の用例の順に掲載した。また、漢字の訓を示す場合、送り仮名は第2つなぎ符を用いて示した。また、漢字ごとに行を替えて掲載した。  
〔第1学年 原典22ページの例〕  
「えが」く（びょう□えが □□く□か □□く）□□「びょう」しゃ□□そ「びょう」□□  
てん「びょう」□□えんを□「えが」く□□えを□「か」く。
- (8) 各教材末の「新出音訓」は、第1カギで示し、常用漢字表の音訓を第1カッコで示した。  
〔第1学年 原典39ページの例〕  
みょう じょう （せい しょう ほし）
- (9) 古典教材は、次のように点訳した。
- ① 日本点字表記法にしたがい、和語は歴史的仮名遣い、漢語は現代語の表記で点訳した。また、原典において、漢語に歴史的仮名遣いによる振り仮名がつけられている場合、特に必要がない限りは生徒の理解度を考慮して削除した。
- ② 和語に添えられた読み方は、本文の読みを阻害しないように、第1・第2学年では偶数ページの欄外に掲載したが、学習進捗にしたがい、触読による読みやすさを優先して削除した場合もある。
- ③ 現代語は、（現代語訳）として、本文の後に掲載した。
- ④ 各学年掲載の「季節のしおり」については、第1学年は現代仮名遣いで掲載し、古典の学習が進んだ第2学年以降は作品の仮名遣いにしたがって掲載している。
- ⑤ 漢文は、日本点字表記法にしたがい、書き下し文に直して書き表した。漢文は表意文字である漢字だけで構成されており、基本的に点字による学習にはなじまないからである。そのため、点字では書き下し文で学習する。
- (10) 表現課題などで字数制限があるものについては、一応の目安として、墨字200字を点字32マス11行と対応させた。  
「例」400字（原典）→ 400字（点字32マス22行）
- (11) 「漢字」は、字形に関するものは生徒の理解度を考慮して変更を加え、必要に応じて点線文字で示した。同音異義語や同訓異字については、漢字を音と訓とで併記するか、同様の意味を持つ別の熟語を挙げたり言葉を補ったりして漢字を特定できるようにした。その際、漢字の音訓は、原典付録「常用漢字表」によった。
- (12) 教材として添えられている2次元コードは、原則として割愛した。必要に応じて授業で活用する場合には、指導者が原典教科書を用いて補助することが望ましい。
- (13) 全学年第3巻の「点字の書き方」は、表記法の主な内容を精選して掲載してある【資料1】。また、同じく全学年第3巻の「書き方の形式」では、点字による学習に移行する生徒等にとって学習活動の参考となるように意図した内容を掲載した【資料2】。
- (14) 編集の具体的な変更箇所・変更事項は以下の表のとおりであるが、大幅な差し換えやレイアウト上の工夫を行った箇所については、【資料1-1】以降、学年ごとの通し番号で掲載した。
- (15) 文部科学省発行「点字学習指導の手引（令和5年改訂版）」を参照いただきたい。  
（「点字学習指導の手引（令和5年改訂版）」文部科学省ホームページリンク）



学年	原典 ページ	行	変更	変更事項	備考

			事項		
1年 1巻	9～10		変更	「思考の地図」【資料1-1】	2 編集の具体的方針(1)
	10	下	追加	吹き出しは「」で囲まず掲載。	2 編集の具体的方針(2)
	11		変更	本編、学びを深める、資料編の順に掲載。	2 編集の具体的方針(2)
	12	下	変更	主な記号など→この教科書で使われる主な用語など	2 編集の具体的方針(2)
	12		追加	原典ページを利用しよう。原典ページは、⋮ ⋮で囲んで、ページ行左の端に示している。	2 編集の具体的方針(2)
	12～13	上	変更	主体的な学びのために【資料1-2】	2 編集の具体的方針(2)
	12～13	下	削除	「ICT機器（パソコン・タブレット）の活用」「書体について」を削除。	2 編集の具体的方針(2)
	14～15	上	変更	これまで～大きくなる。→原文通りに改行。	2 編集の具体的方針(2)
	17	上6	変更	聞いている人の方を見て→聞いている人の方を向いて	2 編集の具体的方針(2)
		上12	変更	相手を見て→相手の方を向いて	2 編集の具体的方針(2)
	18	上10 ～ 15	削除	線を引く。色で印を付ける。図にする。を削除。	2 編集の具体的方針(2)
			変更	記号やマークを付ける。→符号を使う。	2 編集の具体的方針(2)
			変更	ノート例【資料1-3】	2 編集の具体的方針(2)
	19	上	変更	【辞典・事典】→【ジテン】	2 編集の具体的方針(2)
		上5	削除	つめを削除。	※国語辞典は、点字辞典の表記に合わせた
		上6	変更	柱→柱—点字辞典ではページ行にある。	
		上	変更	国語辞典の例【資料1-4】	
		中	変更	漢和辞典の例【資料1-5】	
		中3	変更	調べたいときに使う。→調べたいときに使われる。	
	22	下	削除	(目標)「図を用いて」を削除。	2 編集の具体的方針(2)
	28	3	削除	「図を用いて」を削除。	2 編集の具体的方針(2)
		13		「図などを使って」を削除。	
		18		Bさん「図に書き足しても」の「図に」を削除。	
	15 21～ 22	変更	整理した図を→整理した内容を 図で表してみよう。→整理してみよう。	2 編集の具体的方針(2)	
	29	下	変更	心情の変化を図で整理した例【資料1-6】	2 編集の具体的方針(2)
	31	上	削除 変更	二次元コードのマークは削除して、文の後に(二次元コード)と掲載。	2 編集の具体的方針(2)
			変更	下の問題→次の問題	2 編集の具体的方針(2)
下		変更	線を引いたり、丸で囲んだりして→番号や符号を用いるなどして	2 編集の具体的方針(2)	
32	上	削除	要点の傍線は削除。	2 編集の具体的方針(2)	
	下	削除	「大事なところに線を引いたり」を削除。	2 編集の具体的方針(2)	

33	上1	変更	橋のたもとに次のように書かれた立て札がある。を1行目に掲載。	2	編集の具体的方針(2)
	上	変更	A 橋 (川に架かる橋) B 端 (中央や中心からいちばん離れた部分)	2	編集の具体的方針(2)
	下	削除	日本語と英語のちがいの図を削除。	2	編集の具体的方針(2)
	下	変更	アクセントによるちがい イントネーションによるちがい【資料1-7】	2	編集の具体的方針(2)
34	2 5	変更	一枚の写真を→私の一面が伝わるものを 伝わる写真を→伝わるものを (集める・整理する) 写真を用意する。→資料を用意する。	2	編集の具体的方針(1)
		変更	(組み立てる) 録画を見たりして→録音を聴いたりして	2	編集の具体的方針(1)
		変更	練習の様子を録画して→練習の様子を録音して	2	編集の具体的方針(1)
35	上	変更	300字程度→300字(点字32マス17行)程度	2	編集の具体的方針(2)
	下	変更	最初の構成案、改善案【資料1-8】	2	編集の具体的方針(2)
		変更	スピーチの例の上段と下段は、例文の後に段落を加えて掲載する。【資料1-9】 (323字)は削除。	2	編集の具体的方針(2)
36	上	変更	視線や表情→顔の向きや表情 初めの言葉を書く。→初めの言葉を「」に書く。	2	編集の具体的方針(2)
	下	変更	「休」は→「休(やす-む)」は 人 木→休は点図にする。 漢字の組み立て部分は点図にする。 漢字の組み立て【資料1-10】	2	編集の具体的方針(1)
38	上	変更	にんべん、ひとやね、ひとは点図にする。	2	編集の具体的方針(1)
39	下	変更	練習問題【資料1-11】	2	編集の具体的方針(1)
40		変更	漢字に親しもう1【資料1-12】	2	編集の具体的方針(1)
45	16	削除	比較、図などの図を削除。	2	編集の具体的方針(1)
	下	変更	一字下げる→2マス空ける。	2	編集の具体的方針(2)
46~47	3 6,8	変更	「ルビンのつぼ」を点図にした上で、文章を変更。 上の→該当ページの 白い→中央の 黒い→周りの	2	編集の具体的方針(1) ※視点(見方)を変えることの意味を読み取る説明文
47	3	削除	目からつぼの絵が→つぼの絵が 目からを削除。		
	17	変更	上の図の場合はどうであろうか。→ここに1枚の図がある。		
48	8	変更	上の図を見てみよう。化粧台の前に座っている女性の絵が見えるであろう。→別の図がある。化粧台の前に座っている女性の絵である。	2	編集の具体的方針(2)
50	上	削除	「文章と図との対応に注意し、」を削除。	2	編集の具体的方針(1)
51	下	削除	「注目の度合いや、見る時間の長さの順に整理してみよう」を削除。	2	編集の具体的方針(2)
		変更	慣用句を抜き出し、→慣用句を抜き出してみよう。		
52	上	変更	イラストの吹き出しを書店員とする。	2	編集の具体的方針(1)

	52	中	変更	表の形に整理すると→整理すると 表は「国語辞典の比較」として掲載。【資料1-13】	2	編集の具体的方針(2)
	53	上 中	削除 変更	「付箋などに」を削除 手紙とメールの共通点と相違点【資料1-14】 新聞を作る手順【資料1-15】	2	編集の具体的方針(2)
	54	中	変更	300～400字程度→300～400字（点字32マス17～22行） 程度	2	編集の具体的方針(2)
	55	中下	削除 変更	情報の取捨選択の赤い二重線を削除し、言葉の後に（ 不要）を掲載。	2	編集の具体的方針(2)
	56	上	削除 変更	近くで見てみたらを削除。 手に取ってみたら（使ってみたら）……どうか。を最 初に掲載。	2	編集の具体的方針(2)
		中	変更	気づいたことを書き出す【資料1-16】	2	編集の具体的方針(2)
			変更	まとまりごとに囲む。→まとめる。	2	編集の具体的方針(2)
	57	上	変更	説明の例の上段(初め)(中)(終わり)と下段は、例文の 後に段落を加えて掲載する。【資料1-17】	2	編集の具体的方針(2)
	58	下	変更	「指示する語句」の表は点図で示す。	2	編集の具体的方針(1)
	59	上	変更	傍線と矢印を削除した文を書き、2行目に（指示する 語句→指示内容）の順で書き表す。	2	編集の具体的方針(2)
	59	下7	変更	必要に応じて言葉を補う→必要に応じて言葉を補うー 砂漠化「の」	2	編集の具体的方針(2)
1年 2巻	67	上	削除	美術の教科書や写真集で見た空の絵や写真から。	2	編集の具体的方針(1)
		下	変更	自分だけの「写真詩集」を作る→自分だけの詩集を作 る	2	編集の具体的方針(1)
			削除	お気に入りの写真に詩をそえて、写真詩集を作ろう。	2	編集の具体的方針(1)
	69	上8 ～9	変更	客一蜂	2	編集の具体的方針(2)
		下3	変更	赤い部屋ーチューリップの花 (例) 第1連		
		下15	変更	(例) 1行目と2・3行目		
	70	上	変更	俳句と詩は現代仮名遣いで表記する。		
	72	上	削除	図は削除	2	編集の具体的方針(1)
		11	変更 変更	図のような形の部品を→真ん中に穴の空いた丸い形の 部品がある。この部品を 真ん中に穴の空いた丸いドーナツを→ドーナツを	2	編集の具体的方針(1)
	74	中	変更	図を点図で示す。右の図を→次の図を	2	編集の具体的方針(1)
	75	下1	変更	「。（句点）」→句点（。）	2	編集の具体的方針(2)
	76	下	変更	様子を表す言葉、慣用句、擬音語・擬態語の順に掲載	2	編集の具体的方針(2)
	77	下	変更	使う場面の違いで整理した例【資料1-18】	2	編集の具体的方針(2)
	78～79		変更	情報収集の達人になろう【資料1-19】	2	編集の具体的方針(2)
	80	上	変更	日本十進分類法—0から9の数字を使って本をグループ 分けしている。を掲載。日本十進分類法【資料1-20】	2	編集の具体的方針(2)
80	下	削除	インターネットの検索サイトの図を削除。「1字空け る」を削除。【資料1-21】	2	編集の具体的方針(2)	
82	下	変更	一、二字下げるかして→書き出し位置を下げるかして	2	編集の具体的方針(2)	
83	下	変更	○→（まる） ×を付けよう→（ぱつ）と書こう	2	編集の具体的方針(1)	

	83	下	削除	「書写の」を削除。	2	編集の具体的方針(1)
	85	上	変更	ポップの例【資料1-22】	2	編集の具体的方針(2)
	94	上	変更	はつ松魚(はつがつを)→はつ松魚(はつがつお)	2	編集の具体的方針(2)
	105	中	変更	左→B 右→Aとし、それぞれの囲みの前にA、Bを加える。	2	編集の具体的方針(1)
	105	下	変更	「ヒロユキ」や「ヒロシマ」「ナガサキ」を片仮名表記であることの→「ヒロユキ」や「ヒロシマ」「ナガサキ」は、墨字では片仮名で表記されている。	2	編集の具体的方針(2)
	106	3	削除	「図などを用いて」を削除。	2	編集の具体的方針(2)
	114		削除 変更	「図などを用いて」「図などを使って」「図を用いて」を削除。 整理した図を→整理したノートを	2	編集の具体的方針(2)
	115	中	削除	変化のきっかけとなる出来事を一つだけ掲載。	2	編集の具体的方針(2)
	117	下	変更	上の例→該当ページの例	2	編集の具体的方針(2)
	118	上	変更	下記のとおり→下記のとおり 楽みたい→楽しみたい 願っています→誤った分ち書きで掲載する。	2	編集の具体的方針(2) ※推敲し点字表記を書き改める活動となるように表記した。
		下2	変更	漢字や仮名づかい、送り仮名の誤りはないか。 →分ち書きや仮名づかいの誤りはないか。	2	編集の具体的方針(2)
		下	変更	B→「記」に説明された部分	2	編集の具体的方針(2)
		下	変更	…線部を→2 当日の流れを	2	編集の具体的方針(2)
		下	変更	二重線で消そう。→削除しよう。	2	編集の具体的方針(2)
	119		変更	方言分布図を表で示す。【資料1-23】	2	編集の具体的方針(1)
	120	上7	変更	方言による「雨が降る」の発音の違いを点図で表す。	2	編集の具体的方針(1)
	124	上	変更	「月」という漢字は、「ガツ」という音、 →満「ゲツ」と九「ガツ」の「」で示した部分は、 同じ漢字の音で	2	編集の具体的方針(2)
	124～ 125		変更	漢字の読み方の例は、熟語と例文のみ傍線を第一カギで囲んで掲載する。 間…カン(空間)・ケン(世間)→空「間」・世「間」	2	編集の具体的方針(2)
	125	下	追加	練習問題【資料1-24】	2	編集の具体的方針(2)
	126		変更	漢字に親しもう2【資料1-25】	2	編集の具体的方針(2)
1年 3巻	242	中 下 下	変更 変更 変更	○印→(マル)、×印→(バツ) ▼印→練習(これ以降、同じ処理) 「不自然なところに線を引き」→「不自然なところを抜き出し」	2	編集の具体的方針(2)
	243	上	変更	一字下げる→二マス下げる	2	編集の具体的方針(2)
	243	中	削除 挿入	「文章と段落」の図は削除し、上段に次の文を挿入。 「段落」は、いくつかの段落が結び付いて、大きなまとまりを作る場合もある。	2	編集の具体的方針(2)
	244	上2	変更	何(だれ)が→何が(だれが)	2	編集の具体的方針(2)
	244	中6 ～12	変更	×印→(バツ)、○印→(マル)	2	編集の具体的方針(2)
	244	中10	変更	「文」を「例文」と変更し、傍線をつないで「山の上	2	編集の具体的方針(2)

			にすずしい風が吹く」を分かち書きせず提示。 (以降、文節分かち書きの課題は同様に示す。)	
244	中13	変更 挿入	「文節」を削除して、(正しい区切り方)を挿入。 山の(ね)上に(ね)…と(ね)を挿入した文を示した後、「→山の上にすずしい風が吹く。」を挿入。	2 編集の具体的方針(1)
245	下13	変更	「待ち合わせる」の傍線を取り、「一線部は」を「待ち合わせるは」に変更。	2 編集の具体的方針(1)
246～248	中	変更	水色に白抜き文字の図は、連用修飾語と連体修飾語の部分以外は削除。	2 編集の具体的方針(1)
246～247		変更	文の組み立ては、もとの文、文の組み立て説明の順に掲載。【資料1-26】	2 編集の具体的方針(2)
246	下5 ～6	変更	何(誰)か→何か(誰か) 何(誰)が→何が(誰が)	2 編集の具体的方針(1)
247	下8	変更	一線部の→「」で示した	2 編集の具体的方針(1)
249	上7	変更	平仮名で書かれることが多い。→墨字では平仮名で書かれることが多い。	2 編集の具体的方針(2)
248～249	下	変更	文節に線を引こう→文節を抜き出そう (文法について、以下同様に課題を変更)	2 編集の具体的方針(2)
250	上	変更	【資料1-27】のように変更	2 編集の具体的方針(1)
251	9	変更	例文は以下のように変更し、付属語の後に掲載 空に輝く太陽のように彼女は明るく笑った。 ⋮⋮ 自立語は(自)、付属語は(付)と示す。 空(自)に(付)輝く(自)太陽(自)の(付) ように(付)彼女(自)は(付)明るく(自) 笑っ(自)た(付)	2 編集の具体的方針(2)
251	下	変更	(例)父はよく本を読む。 文節— 父はよく本を読む 単語— 父はよく本を読む 自立語— 父よく本を読む	2 編集の具体的方針(1)
252	上	変更	空に輝く太陽のように、彼女は明るく笑った。 活用しない語— 空に太陽の彼女は 活用する語— 輝くように明るく笑った 「活用しない語」 後にどのような単語がついても、単語の形が変化しない。 空—「空」に「空」も「空」で 彼女—「彼女」は「彼女」も「彼女」の の—太陽「の」春「の」  「活用する語」 後に付く単語によって、単語の形が変化する。 輝く—「輝く」。「輝き」ます。「輝け」。 明るい—「明るく」笑った。「明るい」。「明るい」 未来。 ようだ—太陽の「ようだ」。太陽の「ような」暖かさ。	2 編集の具体的方針(1)
253		変更	「品詞分類表」を【資料1-28】のように変更	2 編集の具体的方針(1)
254	中	削除	体言・用言・自立語の説明を削除(上段に同じ記述があるため)。	2 編集の具体的方針(2)
257～		変更	練習 小学校六年生で学習した漢字	2 編集の具体的方針(1)

	259			【資料1-29】のように変更	
	260～261		削除	小学六年生で学習した漢字一覧は削除	2 編集の具体的方針(2)
	262		削除 変更 追加	上段の図は削除。 中段の問題の構成にA～Dの記号を付す。時間の目安は40分の1.5倍の60分に変更。 下段は1～9行目までを削除し、最後の行に(二次元コード)と追加。パソコン画面の図は削除。	2 編集の具体的方針(2)
	263		変更	▼を削除し、「次の文章は、微生物の働きについて述べたものである。これを読み、(該当) ページの問題1. 2. に取り組もう。」と変更。 2. の傍線部の内容と該当ページ行を再掲。 二十五字→二十五字(点字56マス) 三十字程度→三十字(点字50マス)程度	2 編集の具体的方針(2) ※正解が決まっているものはそのマス数、正解が決まっていないものは、字数の1.6～1.8倍のマス数で示す。
	264	1  下2	変更  変更 削除	「…グループで話し合っている。」の後に「次の会話文を読み、(該当) ページの問題1. 2. に取り組もう。」と変更。 「次のうち」を「次のア.～エ.のうち」とし、選択肢に付されている□を削除して、ア.～エ.とする。	2 編集の具体的方針(2)
	265	1	変更	「…案内状を作成している。」の後に「次の案内状を読み、(該当) ページの問題1. 2. に取り組もう。」と変更。案内状の日時を(1)、場所を(2)とナンバリングする。 1. の傍線部の内容を再掲し、該当ページ行を付す。 2. □で囲まれた部分→項目(2)(p〇〇)の部分 「別の項目を立てて」→「別の項目を新たに立てて」 「表に整理してみよう」→「整理してみよう」 (2) 場所 南中グラウンド  ㊦㊧ …  (3) …	2 編集の具体的方針(2)
	266	上	変更	「…見つけた場面である。これを読み、あとの問題1. に取り組もう。」と変更。 …現代仮名遣いに直し、全て平仮名で書こう。→現代仮名遣いに直して書こう。	2 編集の具体的方針(2) ※「いふやう」は古文の点字表記では「イフヨー」である。
	266	下	変更 削除	「…使われている。これを読み、あとの問題2. 3. に取り組もう。」と変更。 次の中から→次の三つから 選択肢の□を削除。	2 編集の具体的方針(2)
	267	下	削除	下段の表を削除。	2 編集の具体的方針(2)
	271	上10	削除	聞く(聴く・きく)→きく	2 編集の具体的方針(2)
	274		削除	空欄は削除して、他にもあることを示すために…を付す。	2 編集の具体的方針(2)
1年 4巻	276～279	中段 下段	削除	上段をナンバリングし、それ以外を削除。2学年・3学年の「学びのカギ」一覧も同様にする。	2 編集の具体的方針(2)
	281	上8	変更	ポイントを文字や図で書き出したり、→ポイントを書き出したり、	2 編集の具体的方針(2)
	282 283	上9 下6	変更	「家の近くで見た鳥の種類」→「家の近くにいる鳥の種類」	2 編集の具体的方針(2)
	282	削除	削除	「体育祭のポスター」を削除	

		削除	「教科書で出会った文章・絵」の「絵」を削除	
284～285		変更	書く手順、感想文、書き方の工夫の順に掲載。 書き方の工夫に対応する傍線部は第三指示符で示し、 下段には該当するページ行を抜き出して掲載。	2 編集の具体的方針(2)
286		変更	タイトルを「文章の推敲・書き方の形式」に変更。	2 編集の具体的方針(2)
286	上3	変更	原稿用紙の使い方→書き方の形式	2 編集の具体的方針(2)
286	6-7	削除	「原稿用紙の上で推敲するときは、左の例のような記号を使うとよい。」を削除	2 編集の具体的方針(2)
286	図	変更	原稿用紙例は、推敲前と推敲後のそれぞれを点線枠で 囲み、見開きで比べ読みできるように掲載。 図の最後の行の「ベーター」を「ベーターヴェン…」 に変更	2 編集の具体的方針(2)
286	下9	変更	漢字や仮名遣い、送り仮名→分かち書きや仮名遣い	2 編集の具体的方針(2)
286	下11	変更	原稿用紙の使い方→書き方の形式 【資料1-30】	2 編集の具体的方針(2)
287		変更	例文の傍線を削除し、敬語、敬語の種類順に掲載。	2 編集の具体的方針(2)
288	上	変更	封筒のイラストを削除し、以下の文章を記載。 3. 封筒の記入例 封筒の表面には相手の郵便番号、住所、名前を書く。裏 面には差出人の郵便番号、住所、名前を書く。点字で 書かれた手紙を出す際は、封筒の表面の右端の一部を 開封し、切手を貼る位置に「点字用郵便」と書く。	2 編集の具体的方針(2)
289	下	変更	①…横書きの書式では、後付けが先に入ることもある。 →横書きの書式や点字で書く場合は、後付けが先 に入り、「前付け」とすることもある。 ④…横書きでは冒頭におかれる。→横書きや点字で 書く場合では冒頭に置かれる（前付け）。	2 編集の具体的方針(2)
289	下	変更	⑥の後に次の文を補う。 ☺☺ 実用的な通信文は④⑤①②③⑥の順に書く。	2 編集の具体的方針(2)
290～293		削除	写真、地図、図を削除し、P292「産卵時期と産卵場所」 の表のみ掲載	2 編集の具体的方針(1)
303	上	追加	「漱石」という名前は→「漱石(くちすすぐ口いし)」	2 編集の具体的方針(2)
304～305		変更	写真を削除して、次の三つのみ掲載。 そばを食べる（閉じた扇子を箸に見立てる） いもを食べる（たたんで筒型にした手拭いをいもに見 立てる） 手紙を読む（開いた扇子を手紙に見立てる）	2 編集の具体的方針(2)
336		変更	常用漢字表 付表【資料1-31】	2 編集の具体的方針(1)
1年5巻	128～135	下 削除	写真や観察日記・実験などの絵は削除。	2 編集の具体的方針(1)
	131	下 変更	グラフ1～3は表1～3に変更。本文の該当箇所をグ ラフから表に変更【資料1-32】	2 編集の具体的方針(1)
	133	7 削除 変更 下	本文7行目「小枝を動かしました(図)。」→(図) を削除。 グラフ4・5を表4・5に変更。本文の該当箇所をグ ラフから表に変更。【資料1-33】【資料1-34】	2 編集の具体的方針(1)
	134	中 変更	鳴き声と意味の表 → 表6【資料1-35】	2 編集の具体的方針(1)
	136	中 変更	「表にまとめよう。」→「まとめよう。」	2 編集の具体的方針(2)
	137	下 削除	図にせずに掲載。【資料1-36】	2 編集の具体的方針(2)
	138～	上 削除	吹き出しは枠を削除し、「Aさん」「探偵」にする。	2 編集の具体的方針(2)

139	中	変更	図はイラストを削除し、「Aさん」「Bさん」とし、図にせず掲載。【資料1-37】	
141	下	変更	吹き出しは枠を削除し、「高木さん」とする。「図表の引用」→「統計資料の引用」に、帯グラフを表に変更。【資料1-38】	2 編集の具体的方針(2)
142	中	変更	表 →【資料1-39】	2 編集の具体的方針(2)
143	上 中	変更	「グラフや表で示すと」→「表などで示すと」、「図表や文章を」→「表などや文章を」に変更。	2 編集の具体的方針(2)
144～ 145		変更 削除	(資料ア) (資料イ) (資料ウ) は表で掲載し、(資料エ) は、年数と冊数のみ掲載。【資料1-40】	2 編集の具体的方針(1)
146	下	変更	3. 【資料1-41】	2 編集の具体的方針(1)
147	上  4・5 下	変更  削除	四角い枠を削除し(山田さんの感想文)とし、点線枠で囲む。吹き出しの点線枠を削除し、友だち(なんだかわかりにくいな。) 「上の」→「前の」「誰が(は)」→「誰が 誰は」 下欄の参照事項は削除し、該当ページのみ「文法2文の組み立て(該当ページ)」と掲載。	2 編集の具体的方針(2)
152～ 153	上	変更 削除	年表は、古典の作品名の記されている時代のみ掲載。【資料1-42】 絵は削除。	2 編集の具体的方針(1)
154～ 155	上 中 下	変更	仮名のみの原文、漢字と濁点を当てた歌をそれぞれ(原文)、(濁点などを当てた歌)とし、訳は(現代語訳)として掲載。	2 編集の具体的方針(2)
	上 中	変更	(原文)を分ち書きなしで掲載。 歴史的仮名遣いの部分の読みは、句の形で原文を抜き出して、脚注(偶数ページ)とする。 色はにほへど(色わにおえど)常ならむ(常ならん)けふ(きょう) ぬいも(えいも)	2 編集の具体的方針(2)
155		変更	(原文)の後に(現代語訳)を掲載する。	2 編集の具体的方針(2)
155	上	変更	有為(うい)の奥山 の注②に、墨字では「ウキ」と書き表す。 を追加。	2 編集の具体的方針(2) *点字では、和語は歴史的仮名遣いで、漢語は現代語に準じて書き表すことになっている。
156		変更	イラスト・図を削除 →【資料1-43】	2 編集の具体的方針(2)
159	下	変更	脚注 しろかね一ぎん。当時は「しろかね」と…。	2 編集の具体的方針(2)
160	下	変更	脚注 照りかかやく一照りかがやく。当時は…	2 編集の具体的方針(2)
164		削除 変更	ページ末の年表は削除し、出典の欄に「源氏物語」(平安時代中期の成立)と掲載。	2 編集の具体的方針(2)
165		変更	「竹取物語」が描かれた例 を追加し、作品を掲載。	2 編集の具体的方針(2)
166～ 167		変更	絵は削除。歴史的仮名遣いの読みは削除し、( )に現代仮名遣いを入れる。 「食べがた」→「食べがたし」「た(堪)へがた」→「たへがたし(たえがたし)」終止形で掲載。 p167の注①～④はp166～167下段の該当箇所、「仏の御石の鉢(仏教を開いた釈迦が使ったと……)」のように挿入。	2 編集の具体的方針(2)
169	下	変更	「・うみのおくやま… ・登るべきやうなし」を削除し、以下の文を追加する。 ☆ういの奥山(墨字では「うみのおくやま」と書き表す。)	2 編集の具体的方針(2) *点字では、和語は歴史的仮名遣いで、漢語は現代語に準じて書き表すこ

				☆登るべきよーなし（墨字では「登るべきやうなし」と書き表す。）	とになっている。
	171	下	変更 削除	下段の現代語訳を（現代語訳）とする。 絵は削除。	2 編集の具体的方針(1)
	173	上	変更	4. 200字→200字（点字32マス11行）	2 編集の具体的方針(2)
	174	上 下	削除 変更	送り仮名や返り点の墨字での書き表し方に関わる部分は削除。「白文」「漢文の訓読」は、点字では学習しないため削除。なお、点字では「書き下し文」で学習する。【資料1-44】を追加。	2 編集の具体的方針(1) ※点字では、漢文を書き下し文で学ぶことを指導の際に留意する。
1年 6巻	176～ 183		削除	図や写真を削除。	2 編集の具体的方針(1)
	184	中	変更	200字→200字（点字32マス11行）	2 編集の具体的方針(2)
	185	下	変更	（要約のしかたを考える） 図は【資料1-45】	2 編集の具体的方針(2)
	186	上 中	変更	吹き出しは、「先生」とする。 図は（原因と結果を時間の経過によって整理した例）とする。【資料1-46】	2 編集の具体的方針(2)
	187	上 中	変更	吹き出しは順に「Aさん Bさん Cさん」とする。	2 編集の具体的方針(2)
	190	上 下	変更	〔話し合いの様子〕の傍線部分は第3指示符で囲む。（よりよい話し合いにするために）役割——効果的な工夫。該当ページの（話し合いの様子）の第3指示符で示した部分。とする。	2 編集の具体的方針(2)
	192	中 下	変更	（録画）→（録音や録画） 「付箋を使って」→「ノートやメモを使って」 録画を→録音や録画を	2 編集の具体的方針(2)
	193	上 下	変更	文字や図で書き出したり→「文字や図で」を削除。 吹き出しは枠を削除し、「田村さん」とする。 下段の図中の4つの項目を右上・右下・左上・左下の順に番号を付して掲載。 1. 目的や話題を確認する 2. 他の人の意見を受ける 3. 話題を整理する 4. 話題を転換する	2 編集の具体的方針(2)
	194～ 195	上 中 下	変更	上段の番号と傍線や波線、点線が付された箇所は、番号と第3指示符で示す。 中段を（話題や展開を捉えて話し合うための確認事項）とし、上段の番号と第3指示符で示された該当箇所のページと行を（ ）内に掲載。原本で番号が前後している箇所は、番号順に並べ替えて掲載。 付箋を使って意見をまとめた例→ノートやメモに意見をまとめた例 【資料1-47】	2 編集の具体的方針(1) *「鉛筆」や「シャープペンシル」は、点字で学習する生徒が日常的に使用するものでないことに留意し適切に指導する。
	196～ 199		変更 削除	写真、年表など削除。（p197の動物の平均速度は掲載。）【資料1-48】	2 編集の具体的方針(1)
	221	下	変更	「語り手」の視点 【資料1-49】	2 編集の具体的方針(1)
	222	下	変更	漢字に親しもう5 3. →【資料1-50】	2 編集の具体的方針(2)
	223	上 上 下	変更	【資料1-51】 「行く」+「ます」→「行き・ます」→「行く」と「ます」で「行きます」 枠と枠内の参照事項は削除し、該当ページのみ本文下17行目「文法3 単語の分類（該当ページ）」と掲	2 編集の具体的方針(2)

			載。		
	225	8	削除	「考える」の傍点削除。	2 編集の具体的方針(2)
	228	中	変更	600～800字 → 600～800字(点字32マス33～44行)	2 編集の具体的方針(2)
	229	上 下	変更	吹き出しは、「中川さん」。 伝えたいこと 【資料1-52】	2 編集の具体的方針(2)
	230～ 231		変更	随筆の例のあとに、「導入—第1段落 具体的な体験 談—第2～第4段落 意味づけ—第5段落」を挿入。	2 編集の具体的方針(2)
	232	下	変更	漢字3 漢字を、点字と点線文字で掲載。 【資料1-53】	2 編集の具体的方針(1)
	233	上 下	変更	漢字3 漢字を、点字と点線文字で掲載。 【資料1-54】 練習問題 【資料1-55】	2 編集の具体的方針(1)
	234	中 下	変更	「スライドやフリップ」 → 「スライドやフリップ などの発表用資料」	2 編集の具体的方針(1) *スライドやフリップは 視覚的に捉える資料であ ることに留意し、指導す る。
	235	下	変更	学びのサイクル 【資料1-56】	2 編集の具体的方針(2)
	236	上 下	変更	カードに情報を → ノートやカードに情報を スライドやフリップ一枚につき → スライドやフリ ップなどの発表用資料1枚につき イメージしやすいように、図や写真などを効果的に使 う。 → イメージしやすいように表現を工夫する。 ノートの写真などを→ノートなどを (発表用資料の例)とし、発表用資料1・2を掲載。 絵は削除し、「ルビンのつぼ」(絵は省略)と掲載。 (発表用資料の例) 【資料1-57】	2 編集の具体的方針(2)
	237	上 中	変更	上段の「発表する」の傍線①～⑦は(1)～(7)と して第3指示符で囲む。(⑤は第3指示符なし) 中段の(発表の工夫)の①～⑦に、それぞれ上段の該 当の傍線箇所のページと行を( )に入れて掲載。 10行目「白い部分」→「中央の部分」	2 編集の具体的方針(2)
2年 1巻	9～10		変更	「思考の地図」第1学年の【資料1-1】参照	2 編集の具体的方針(1)
	12～13		変更	主体的な学びのために【資料1-2】	2 編集の具体的方針(2)
	16	3	削除	「図を用いて」を削除。	2 編集の具体的方針(1)
	26	上 下	削除 変更	「図を用いて」「図で」を削除。 吹き出しの「図で」を削除。 捉え、図に書き加えよう。→捉えよう。 「図で」を削除。	2 編集の具体的方針(1)
	27	下	削除 削除 変更	「図で」を削除。 人物相関図を削除。 レーダーチャートを点図化する。	2 編集の具体的方針(1)
	28		変更	漢字に親しもう1 【資料2-1】	2 編集の具体的方針(1)
	29	上 下	削除 変更 追加 変更	二次元コードは削除し、文の後に(二次元コード)と掲 載。 水島さんの前に「○(該当)ページの」を追加。 表で整理した例【資料2-2】	2 編集の具体的方針(2)
	30	上	変更	傍線部を削除し、(1)～(4)の番号を追加。	2 編集の具体的方針(2)
	31	上	変更	単語を、働きや性質によって分類してみよう。次の五 つの単語はどのように分類できるだろうか。 あらゆる 車 走る 速い きらきら	2 編集の具体的方針(2)

		下	変更	【資料2-3】	
32			変更	録画→録音や録画など	2 編集の具体的方針(1)
33	上	変更		写真やイラスト、図表などを活用して、視覚的にも→ 表などを活用して 資料を活用する【資料2-4】	2 編集の具体的方針(2)
	下	削除 変更 削除		「文字の大きさや色、」を削除 直感的に見て取れるよう、グラフや表で→表などで 「手で示す、資料と聞き手を交互に見るなど、」	
34			変更	進行案の例【資料2-5】	2 編集の具体的方針(2)
36~38			変更	現代語訳は、原文の後に(現代語訳)と表題を起こす。	2 編集の具体的方針(2)
36	下	変更		図を削除し、宮仕えの脚注に次の一文を追加。「なお、彰子には紫式部が教育係として仕えていた。」	2 編集の具体的方針(1)
39	上 中	変更		400字程度→400字(点字32マス22行)程度 年表は削除し、「枕草子」(平安時代中期の成立)、 「徒然草」(鎌倉時代末期の成立)を追加	2 編集の具体的方針(2)
42	下	削除		「図示するなどして」を削除。	2 編集の具体的方針(2)
43		変更		図1に～を示す。→ここに～示す図がある(図1省略)。	2 編集の具体的方針(1)
44			変更	(図2)→(図2省略)	2 編集の具体的方針(1)
45			変更	図3、4、5をグラフで表す。【資料2-6】	2 編集の具体的方針(1)
47			変更	図6を次のように変更。  セミの孵化の時期と雨の(2007年)日の割合(表) (概要) (セミの孵化の時期) ミンミンゼミ - 6月 ツクツクボウシ - 6月 アブラゼミ - 6~7月 クマゼミ - 7~8月 (雨の日の割合) ☆梅雨明けは7月半ば過ぎ 梅雨明け前 - 30~50% 梅雨明け後 - 20%前後	2 編集の具体的方針(1)
48		削除 変更		「図1に示した」を削除。 図7をグラフで表す。【資料2-7】	2 編集の具体的方針(1)
50	2 10 18 20	削除 削除 変更 削除 変更		「図示するなどして」を削除。 吹き出しの「図に」を削除。 図表や写真との→図表との 「図などを用いて」を削除 図表や写真は→図表は	2 編集の具体的方針(1)
51	上 下	削除 変更		「視覚的に…。→筆者の…伝える。」を削除 図6を削除し、「梅雨明け前後の雨の日の割合の変化」と「セミの孵化の時期」を重ねてみることで…に変更。	2 編集の具体的方針(1)
52~53	上	変更		表してみよう。→表してみると、 しやすくなる。→しやすくなることもある。 (整理の方法1)~(整理の方法4)【資料2-8】	2 編集の具体的方針(1)
54	1 9 13	変更		図や記号→番号や符号など 図や記号→番号や符号 「図・表、グラフ、写真」を削除	2 編集の具体的方針(1)
55	上	変更		図や記号→番号や符号	2 編集の具体的方針(2)

		削除 変更	「視覚的に」を削除 情報を整理するとき【資料2-9】		
	56	変更	職業ガイドの例【資料2-10】	2 編集の具体的方針(2)	
	57	上 変更 削除 削除 下 変更	図や写真を使って視覚的に→符号などを使って 「(図表や写真の)」を削除 「紙面構成の例(A4判)」「図表や写真などを組み 合わせる場合には、配置を工夫する。」を削除。 図や記号で→番号や符号などで	2 編集の具体的方針(1)	
	58	上	追加 強大(「強い」と「大きい」) 強弱(「強い」と「 弱い」 強敵(「強い」と「敵」)	2 編集の具体的方針(2)	
	58~59	変更	二字熟語の主な構成【資料2-11】	2 編集の具体的方針(2)	
	59	下	変更 練習問題【資料2-12】	2 編集の具体的方針(2)	
	60	変更	漢字に親しもう2【資料2-13】	2 編集の具体的方針(2)	
2年 2巻	62~64	脚注 変更	歴史的仮名遣い部分の読みは、句の形で原文を抜き出 して脚注とする。くれなみの(くれないの) 作者注は、本文末にまとめて掲載する。	2 編集の具体的方針(2)	
	65	変更	部分に線を引こう。→部分を書き出そう。	2 編集の具体的方針(2)	
	68	脚注 下段	変更 追加 作者注は、本文末にまとめて掲載する。 古称→古称(昔の呼び名)	2 編集の具体的方針(2)	
	72	上	変更 変更	図の中の→次の 「下」「隅」「真ん中」「中央」「端」「上」	2 編集の具体的方針(1)
		下8	変更	(例) 紙を□。 1. 裂く(二つ以上に切り離す。) 2. 破る(引きちぎってだめにする。) (例) 1. 戸を□。 2. 傘を□。 1. の場合は「あける」とも「ひらく」とも言えるが、 2. は「ひらく」とは言えても「あける」と言うことは できない。	2 編集の具体的方針(2)
	73	上図 変更	下記のように点図化する。 (対義語の例) 図の←→の関係は対義語である。 「男性」←→「女性」 「年上」 兄 姉 ↑           ↑ ↓           ↓ 「年下」 弟 ←→ 妹	2 編集の具体的方針(1)	
	74	上下	変更	【資料2-14】【資料2-15】	2 編集の具体的方針(2)
	75	下	変更	一線部の→「」の 目的と目標の使い分け【資料2-16】	2 編集の具体的方針(2)
	76	上	変更	左→これ ☆の数→それぞれ星の数(星一つから星三つ)	2 編集の具体的方針(2)
	76~77	変更	各メディアの情報発信の例【資料2-17】	2 編集の具体的方針(2)	
	78	下	変更	左ページの→次の ○×△→(まる)、(ばつ)、(さんかく) を付けよう。→と書こう。	2 編集の具体的方針(2)
82~83	上	変更	見せたり→説明したり	2 編集の具体的方針(2)	

	下	変更	感じたことをポスターに書き込む→感じたことを書いてポスターに貼る	
103	下	変更	伏線の例【資料2-18】	2 編集の具体的方針(2)
109	下	追加 変更	「(前半)と(後半)は対照的」を追加。 「威勢のいい赤鉛筆の大マル」 「情けない黒鉛筆の小マル」 これらの表現は違いが強調される。	2 編集の具体的方針(2)
111	左	追加 追加 追加	署名一行末をニマス程度残すように書く。 宛名一署名の次の行に、行頭から書く。 「後付け」の部分について、宛名の文に続けて次のように追加する。 ※ なお、点字の手紙では前付けとすることが多く、その場合は宛名・日付・署名の順に書く。	2 編集の具体的方針(2)
112	下	変更	一線部、…線部→「 」で示した	2 編集の具体的方針(1)
113～ 114		変更	敬語の種類各挿絵は、(例)として、次のように変更し掲載する。 (丁寧語) (例) 内田さんが歌い「ます」。 (尊敬語) (例) 来賓の方が「お話しになり」ます。 ※ 「お話しになります」の「ます」は、聞き手への丁寧語である。 (謙譲語) (例) 父が先生を「ご案内し」ます。 ※ 「ご案内します」の「ます」は、聞き手への丁寧語である。	2 編集の具体的方針(2)
114	下	変更	尊敬語と謙譲語の例【資料2-19】	2 編集の具体的方針(2)
115	上1- 3	変更	謙譲語の中には、*印の語のように・・・ → 謙譲語の中には、次にあげる語のように、動作・行為の向かう先ではなく、聞き手(読み手)への敬意を表すものがある。 参る、おる、申す、いたす、存じる 接頭語を付けた語 「愚」見、「弊」社、「拙」著、「粗」品 (例) 私は、明日から、・・・。	2 編集の具体的方針(2)
	上 8-13	変更	敬語の組み合わせの例文を次のように変更。 (例) 俳諧について研究されている西村先生から、ご著書をいただきました。関心のある方にお貸しします。 「研究され」「ご著書」→「西村先生」への尊敬語 「いただき」→「西村先生」への謙譲語 「まし」→丁寧語 「お貸しし」→「関心のある方」への謙譲語 「ます」→丁寧語	
	下	変更	○印は(適切)、×印は(不適切)として各例文の文末に掲載。	
118	上1- 5	変更	漢字には、「夏は暑い」「お湯が熱い」「厚い本」の「あつい」のように、同じ訓をもつものがある。また、同じ音をもつ漢字も多く、「お目にかかる機会」「性能のよい機械」の「きかい」のように、同じ読みの熟語もある。	2 編集の具体的方針(2)

		上	変更	<p>パソコンなどで漢字に変換するときには、使い分けに注意しよう。</p> <p>上段の図を削除し、次のように変更する。 (メールを作成しているAさんが、漢字をどのように変換するか考えている。)</p> <p>前回お会いしたのは、「あつい」夏の日でしたね。その後、お元気ですか。次にお会いできる「きかい」を楽しみにしています。</p>	2 編集の具体的方針(1)
	119	上	変更	「お目にかかる機会」「性能のよい機械」の「きかい」のように、同じ読みで意味の異なる熟語を「同音異義語」という。	2 編集の具体的方針(2)
		下	変更	練習問題【資料2-20】	
	120		変更	漢字に親しもう3【資料2-21】	2 編集の具体的方針(2)
2年 3巻	240		変更	文中のゴシック体は「」で囲む。(以降P253まで同様)各用語ごとに、下段の説明を分割して掲載する。	2 編集の具体的方針(2)
	240	上11	変更追加	「文節どうしの関係と文の成分」とし、その後に次の文を追加する。 * ( )内は連文節の場合をあらわす。	2 編集の具体的方針(2)
	240	16-18	変更	「文節どうしの関係」と見出しを付けて掲載【資料2-22】	2 編集の具体的方針(1)
	241	上1-9	変更	自立語と付属語、活用の有無とし、それぞれの語を掲載。【資料2-23】	2 編集の具体的方針(1)
	242		変更	動詞(他動詞・自動詞)・形容詞・形容動詞の中段の例を、それぞれ分割して掲載。	2 編集の具体的方針(2)
	243	中1	変更	(例)として、説明の後に掲載。	2 編集の具体的方針(2)
	243	中6-9	変更	中段は以下のように変更し、上段10行目の後に挿入。 (例)「友達」 「友達」が(主語)→来る。 「友達」は(主語)→来る。 「友達」も(主語)→来る。	2 編集の具体的方針(2)
	243	17	変更	形式名詞の(例)は以下のように変更。 (例)次の場合「こと」・「とき」など。 彼の「こと」を知っている。 一年生の「とき」に出会った。	2 編集の具体的方針(2)
	243	下	変更	「文の中での名詞の働き」は以下のように変更 「友達」と(連用修飾語) 友達と本を読む。 「友達」の(連体修飾語) 友達の本を借りる。 「友達」だ(述語) 彼と私は友達だ。 「友達」(独立語) 友達、それは人生の宝物だ。	2 編集の具体的方針(2)
	244	8	変更	(例)の※の文頭に「次のように」の語句を補う。	2 編集の具体的方針(2)
	244	下	変更	(「静かな」と「大きな」の品詞)の例は以下のように変更。 言い切りの形が「○○だ」。 静かな→静かだ—活用があるので形容動詞 「大きな」という形のみ。 大きな→大きだ—活用がないので連体詞	2 編集の具体的方針(2)
	245	下	変更	—線部 → 「」で示した部分	2 編集の具体的方針(2)
	246	表	変更	表に(動詞の場合の活用形と後に付く主なもの)と見出しを付けて掲載。【資料2-24】	2 編集の具体的方針(1)
	246	表	変更	活用表内の表記の仕方(以降P256まで同様) う→う(一) よう→よう(よ一) 。→(…)	2 編集の具体的方針(2)

247	表	変更	動詞の活用のローマ字部分はカナで表記。	2	編集の具体的方針(2)
248	右表	変更	動詞の活用の表を【資料2-25】のように変更。	2	編集の具体的方針(1)
248	左表	変更	次の動詞の活用を考え、表に書き込もう。 → 次の動詞の活用の種類と語幹、活用語尾を書いてみよう。 走る 走れる	2	編集の具体的方針(2)
248	下	変更	②話す人の目を見ろ。→2. 話す人の方を見ろ。	2	編集の具体的方針(2)
249	右表	変更	形容詞・形容動詞の活用の表を【資料2-26】のように変更。	2	編集の具体的方針(1)
249	左表	変更	次の形容詞・形容動詞の活用を考え、表に書き込もう → 次の形容詞・形容動詞の語幹、活用語尾を書いてみよう。 美しい(形容詞) 自由だ(形容動詞)	2	編集の具体的方針(2)
249	下 4-5 7-8	変更	「暑く」と「ございます」 →「あつー」 ございます 「楽しく」と ございます →「楽しゅー」 ございます	2	編集の具体的方針(2) *和語は音便変化の場合、点字では「一」と表記する。
251	下	変更	助動詞に線を引こう。→ 助動詞を抜き出そう。 問題は分かれ書きせずに書く。	2	編集の具体的方針(2)
253	下1	変更	一線を引いた助動詞のうち → 「 」で示した助動詞のうち	2	編集の具体的方針(2)
253	下11 -12	変更	助詞に線を引こう。→助詞を抜き出そう。 問題は分かれ書きせずに書く。	2	編集の具体的方針(2)
255	下1	変更	次の一線部の助詞の → 次の「 」で示した助詞の	2	編集の具体的方針(2)
256	欄外	変更	※は該当する欄にそれぞれに掲載する。	2	編集の具体的方針(2)
257~ 259		変更	練習 小学校六年生で学習した漢字【資料2-27】	2	編集の具体的方針(1)
262		削除 変更 追加	上段の図は削除。 中段の問題の構成にA~Dの記号を付す。時間の目安40分を1.5倍である60分に変更。12・13行目は削除。 下段は1~9行目までを削除し、最後の行に(二次元コード)と追加。パソコン画面の図は削除。	2	編集の具体的方針(1) (2)
263	上1	変更	「次の文章は、~その原文である。」の後に、以下の文を追加する。 あとの1. ~3. の問題に答えよう。	2	編集の具体的方針(2)
263	下2 下6	変更	三字で抜き出そう → 三マスで抜き出そう	2	編集の具体的方針(2)
263	下4	変更	一線部の後には → 「モチロン！」の後には	2	編集の具体的方針(2)
264	上2	変更	右下の二次元コードから動画を視聴し、問題に答えよう。→ 次の文章を読んで、(該当) ページの問題1. 2. に答えよう。	2	編集の具体的方針(2)
264	下4	変更	次の中から評価の観点を選び → 次の三つの評価の観点の中から一つを選び	2	編集の具体的方針(2)
265	上1	追加	「今西さんは~書いている。」の後に、以下の文を追加する。 (該当) ページの1. 2. の問題に取り組もう。	2	編集の具体的方針(2)
265	下	変更	問題を【資料2-28】のように変更して掲載。	2	編集の具体的方針(2)
266	上	変更	1. 次の文の傍線部(1)~(3)について、「 」で示し	2	編集の具体的方針(2)

			た敬語の種類をあとのア～ウからそれぞれ選ぼう。 (1) 始め「ます」 (2) 「伺い」ます (3) 「いらっしゃい」ますか ア 尊敬語 イ 謙讓語 ウ 丁寧語		
	266	下1	変更	次の二つの言葉は～違いがある。 → 2. 「予想」と「予期」は類義語だが、使い方には少し違いがある。次の(1)(2)の空欄について述べたものをあとのア～ウからそれぞれ選ぼう。	2 編集の具体的方針(2)
	266	下2 下5	削除	「「予想」と「予期」」を削除。 「①・②の空欄について～選ぼう。」を削除。	2 編集の具体的方針(2)
	268	中	変更	○で囲んである視 聴 嗅 味 触のマークを削除。	2 編集の具体的方針(1) (2) ※原典の掲載順による掲載・分類。生徒が保有する感覚の特性に配慮した表現指導をされたい。
	270		変更	【資料2—29】のように掲載。	2 編集の具体的方針(2)
	272	上	変更	図を【資料2—30】のように掲載。	2 編集の具体的方針(2)
	274	上	変更	【資料2—31】のように掲載。	2 編集の具体的方針(2)
2年 4巻	276～ 279	中段 下段	削除	上段をナンバリングし、それ以外を削除。	2 編集の具体的方針(2)
	280～ 281	上段	削除	上段の「資料作成のポイント」、「思いや考えを引き出す質問」、「討論の概要」を削除。	2 編集の具体的方針(2)
	280～ 281	下段	削除	文章をナンバリングし、それ以外を削除。	2 編集の具体的方針(2)
	285	上	削除	「プラスチックごみ 検索」の図を削除。	2 編集の具体的方針(1)
	285	9	変更	②→アドレス ③→ウェブサイトの名称・制作者	2 編集の具体的方針(2)
	285	中	変更	検索ボックスの図を削除。	2 編集の具体的方針(2)
	286	17	変更	1、2字下げて → 全体を2マス下げて	2 編集の具体的方針(2)
	287		削除	グラフは全て削除し、各グラフのタイトルを上段の該当するグラフの説明の後に、(例)として掲載。	2 編集の具体的方針(1) ※触読の特性に配慮。
	287	20	変更	文字の大きさや色で → 線の太さ等で	2 編集の具体的方針(2)
	288	上	変更	手紙の前に、(改まった手紙の例)と見出しをつけて掲載。	2 編集の具体的方針(2)
	288	上	変更	封筒のイラストを削除し、以下の文章を追加する。 (2) 封筒の記入例 「封筒の表面には、相手の郵便番号、住所、名前を書く。裏面には、差出人の郵便番号、住所、名前を書く。点字で書かれた郵便を出す際は、封筒の表面の右端の一部を開封し、切手を貼る位置に「点字用郵便」の文字を記載する。」	2 編集の具体的方針(1)
	289	上	変更	イラストは削除し、以下の文章を追加する。 (はがきの記入例) 「はがきの表面には、相手の郵便番号、住所、名前を書く。裏面には伝えたい内容を記す。差出人の郵便番	2 編集の具体的方針(1)

				号、住所、名前は、表面か裏面どちらかに書くようにする。」	
	289	上 変更 下		返信のときは・・・→墨字で返信するときは例の後に以下の文章を掲載。 ☆点字で返信する場合、出欠などの返事を書き、封書などで返信しても良い。 電子メールの図を削除し、資料のように掲載。 【資料2-32】	2 編集の具体的方針(1) (2)
	289		追加	教材末に、以下の文章を掲載。 墨字の書体について デザインされた墨字の文字の形を「書体」といい、目的に応じてさまざまな書体を使い分けられている。 明朝体—書籍などで広く使われる書体。 教科書体—手書きの文字に近い書体。 ゴシック体—強調したい部分に使われる書体。	2 編集の具体的方針(2) ※原典教科書「主体的な学びのために」の「書体について」の表現を変更し、記載した。
2年 5巻	124		変更	イースター島の地図は、図1図2として点図で表す。	2 編集の具体的方針(1)
	128	8	変更	表にまとめよう→まとめよう	2 編集の具体的方針(1)
	128	16	変更	200字程度で→200字(点字32マス11行)程度で	2 編集の具体的方針(2)
	129	中	変更	【論理の展開を吟味する観点】 【資料2-33】	2 編集の具体的方針(2)
	131	中	変更	【資料2-34】	2 編集の具体的方針(2)
	132	14	変更	600～800字(点字32マス33～44行)	2 編集の具体的方針(2)
	133～ 134	中	変更	【資料2-35】	2 編集の具体的方針(2)
	135	上	変更	(意見文の例) 本文の各部分の最初に(意見)、(根拠・理由づけ)、(意見)を加える。 欄外の説明を、点線枠の後に(各構成の説明)として記載する。	2 編集の具体的方針(2)
	138	11	変更	七夕の節句 — 七月七日、たなばた。	2 編集の具体的方針(2)
	140～ 151		変更	漢語は現代仮名遣いで表記し、漢語に添えられた読みは削除する。	2 編集の具体的方針(2)
	140	下	削除	琵琶法師＝・・・絵は「七十一番職人歌合」(部分)→「絵は・・・」から削除。	2 編集の具体的方針(1)
	141～ 144	下	変更	「主な出来事」 (1) 保元の乱、(2) 平治の乱、・・・(14) 建礼門院、死去 ※番号を振り直し、地図上に記載のあった年号をかつこで示す。	2 編集の具体的方針(1)
	141	中	変更	「平家物語の主な戦い」の地図は主な合戦地を×で示す点図で表し、番号を「主な出来事」合わせて示す。	2 編集の具体的方針(1)
	145	上	変更	「平家物語」の主な登場人物たち 【資料2-36】	2 編集の具体的方針(2)
		下	変更	「平家・天皇家略系図」「源氏略系図」を掲載。	2 編集の具体的方針(1)
	149	脚注	変更	かかやいたる—当時は、「輝く」を「かかやく」と清音で発音した。	2 編集の具体的方針(1)
	152 155	中 左	削除	年表 削除	2 編集の具体的方針(1)
156	13	変更	155ページ下段の絵を使って説明しよう。→説明しよう。	2 編集の具体的方針(2)	
157	上20	変更	三百字→三百字(点字32マス17行)程度	2 編集の具体的方針(2)	
158～ 161		削除	訓点符号付きの漢文は掲載しない。	2 編集の具体的方針(2) ※点字では漢文を書き下	

				し文で学ぶ。
	159	脚注 変更	一句が五文字のものを→一句が漢字五文字からなるものを 七文字のものを→漢字七文字からなるものを	2 編集の具体的方針(2)
	160	10 15 変更	「碧」は→「みどり(へき)」は 然=赤 → 然える(赤)	2 編集の具体的方針(2)
		13 削除	「然」は「燃」と同じ。	2 編集の具体的方針(2)
		15 変更	「二句十字」に、次のように注をつけ、P159「絶句」の脚注を参照するように示す。 (脚注) この詩は五言絶句である。(点字教科書該当ページの脚注参照)。	2 編集の具体的方針(2)
	164	11 変更	一句の字数が五字であるか七字であるか→一句の字数が漢字五字であるか七字であるか	2 編集の具体的方針(2)
2年 6巻	167～ 170		削除 写真のキャプションは削除する。	2 編集の具体的方針(1)
	171	19～ 20 削除	たくさんの手が描かれているが、試しに、その一つ一つのポーズを君もまねてみよう。→たくさんの手が描かれている。手のポーズは・・・	2 編集の具体的方針(2)
	175	12 削除	君もいつか・・・自分の目で見てほしい。	
	166	3 変更	「ルネサンス」の語に p 167 L2～3のキャプションを脚注としてつける。 (脚注) 14世紀頃にイタリアから始まった、古典文化を理想として文化の革新を目指した運動をルネサンスという。人間や自然をありのままに表現した芸術作品が数多く生み出された。	2 編集の具体的方針(2)
	174	13 変更	「最後の晚餐」の修復」の語に p 168 L2～4のキャプションを脚注としてつける。 (脚注) レオナルドの「最後の晚餐」には、1977年から1999年にわたって、大規模な修復が施された。かびやほこりなどの汚れや、後世の画家による加筆部分が取り除かれた結果、描かれた当初の状態にかなり近づいたとされている。	
	176	下1 変更	(目標) 表などを用いて、→観点ごとに	2 編集の具体的方針(2)
	176	上11 下5 削除 変更	年表、写真のキャプションは削除する。 過去の作品①②を見て→6世紀に作られた作者不詳のモザイク画や14世紀初めに描かれたジョットの作品を見て カスターニョの作品③に→15世紀中ごろに描かれたカスターニョの作品に	2 編集の具体的方針(1)
	178	3 7 右14 22 変更	(目標) 表などを用いて、→観点ごとに ① 本文に印を付けながら→ノートやメモに書き出すなどしながら 表にして比較すると→観点ごとに比較すると 情報を表で整理→観点ごとに整理	2 編集の具体的方針(2)
	179	2 変更	見えないものが見えてくる→意識していなかったものに気づく	2 編集の具体的方針(2)
	179	下 変更	二つの文章を比較する例【資料2-37】	2 編集の具体的方針(2)
180	上 変更	具体と抽象の説明を下記のように点図化する。 (抽象) 中学生が抱く夢 ↑   ものづくりに携わりたい。	2 編集の具体的方針(1)	

			<p>↓ 人の役に立つ仕事がしたい。</p> <p>↓</p> <p>(具体) 大工になりたい。デザイナーになりたい。 料理人になりたい。ゲームを作りたい。 消防士になりたい。NPOで働きたい。看護師になりたい。 弁護士になりたい。</p>	
180	中	変更	【資料2-38】	2 編集の具体的方針(2)
182	14	変更	追儼 — 悪鬼(おに)や	2 編集の具体的方針(2)
183	下8	変更	184ページ下段の→P〇〇の(話し合いの流れを整理するために)で示される	2 編集の具体的方針(2)
185	上	変更	吹き出し部分を、うさぎA・B・C・D、かめとし、2行目と3行目の間に掲載。	2 編集の具体的方針(2)
	下		活用の表【資料2-39】	
187	下	変更	【資料2-40】	2 編集の具体的方針(2)
187	中	変更	授業の動画を→授業の録音や動画を	2 編集の具体的方針(2)
189	上		授業は動画で配信し→録音や動画を配信し	
189		変更	【資料2-41】	2 編集の具体的方針(2)
190~191		変更	漢字に親しもう4【資料2-42】	2 編集の具体的方針(2)
192~194		変更	文中の中国語(台湾語)は、外国語引用符を付し原語の点字表記で表す。	2 編集の具体的方針(2)
210	脚注	変更	信実—「しん」は「しんらい」のしん。正直、真心。真実(「しん」は「まこと」)は、本当のこと。	2 編集の具体的方針(2)
221	中	変更	※吹き出しは以下のように変更 ☆注意点 どの場面で、何をきっかけに、どのように変化したのかを捉えよう。	2 編集の具体的方針(2)
222		変更	漢字に親しもう5【資料2-43】	2 編集の具体的方針(2)
223	上	変更	Aチーム(負けたほう)「次□、がんばろう！」 Bチーム(勝ったほう)「次□、がんばろう！」	2 編集の具体的方針(2)
225	下	変更	手触り(触覚)→手触り・形(触覚)	2 編集の具体的方針(2)
228	上	変更	音声で伝える→音声で伝える場合 文字で伝える→文字で伝える場合	2 編集の具体的方針(1)
229	上18 下	変更	漢字・平仮名・片仮名、句読点を適切に用いる。 →分かち書きに注意し、句読点を適切に用いる。  (メッセージアプリでのやり取り)を付記	2 編集の具体的方針(2) ※書き言葉の性質を学ぶ教材として、点字で学ぶ生徒にとって必要な内容にとどめた。
230	上2 ~3	変更	付け方の主な原則と例外を覚えておき、文章を読むときや、書くときに活用しよう。 →付け方には、主な原則と例外がある。	2 編集の具体的方針(2)
230	上5 ~8	変更	下記のように変更し、1行目の前に掲載。 学校の前をバスが通る。 バイオリン教室に通う。 「とおる」と「かよう」には同じ漢字が用いられている。	2 編集の具体的方針(2)
230	下	変更	活用語尾を書き込もう。の欄は次のように変更 かよ「わ」ない かよ「い」ます かよ「う」 かよ「え」ば かよ「え」(命令) かよ「お」う 例外の×の例は削除 ※動詞から形容動詞まで同じ	2 編集の具体的方針(2)
231	下	変更	練習問題【資料2-44】	2 編集の具体的方針(2)
232	上16	変更	200~300字(点字32マス11~17行)	2 編集の具体的方針(2)

	233	上6 下	変更	書いた文章や写真、録画などを→書いた文章や、録音や録画などを 「学びのサイクル」は【資料1-26】と同じ	2 編集の具体的方針(2) 2 編集の具体的方針(1)
	235	上	変更	【資料2-45】	2 編集の具体的方針(2)
3年 1巻	9~10		変更	「思考の地図」第1学年の【資料1-1】参照	2 編集の具体的方針(2)
	14		変更	評価メモ、アンソロジーの例【資料3-1】	2 編集の具体的方針(2)
	27		変更	回想を織り込んだ展開のしかた【資料3-2】	2 編集の具体的方針(2)
	28		変更	漢字に親しもう1【資料3-3】	2 編集の具体的方針(2)
	29	上	変更	坂本さんの練習相手になったつもりで、(該当)pのスピーチを聞き、次の問題に取り組もう。(二次元コード)	2 編集の具体的方針(2)
	29	下	変更	聞き取りメモの例【資料3-4】	2 編集の具体的方針(2)
	31	上3	削除	「左のような」を削除。	2 編集の具体的方針(2)
		上	変更	イラストを削除し、説明文を追加。 Aさんー走っているのは「弟」 Bさんー走っているのは「姉」	2 編集の具体的方針(1)
	32		変更	3. 録画する→録音や録画をする 4. 録音や録画をしたものを視聴し、	2 編集の具体的方針(1)
	33		変更	構成メモの例【資料3-5】	2 編集の具体的方針(2)
	34		変更	吹き出し内「録音や録画を見返し、…」	2 編集の具体的方針(1)
	34	中	変更	⑥離れた場所にいる聞き手にも、顔を向けながら訴える。	2 編集の具体的方針(2)
	35	中		⑩聞き手全体に顔を向けながら。	
	36	上	変更	吹き出しの言葉の前に、説明を追加。 A 友人と話す場合ー B 面接官と話す場合ー	2 編集の具体的方針(1)
	37	上10	変更	左の→次の	2 編集の具体的方針(2)
	37	下	変更	(言葉の選択の例) (くだけた表現) → (改まった表現) あした → あす すぐ → 直ちに すごく → かなり、たいへん いろんな → いろいろな → さまざまな やる → する → 行う	2 編集の具体的方針(2)
	38~40		削除	訓点符号付きの漢文は掲載しない。	2 編集の具体的方針(2) ※点字では漢文を書き下し文で学ぶ。
	39	下	変更	学而の注「各篇の初めの漢字二字または三字」に変更	2 編集の具体的方針(2)
	41	上4	変更	漢字だけで「縦に」書かれた…に変更。	2 編集の具体的方針(2)
	41	下8 ~9	削除	なお、「温故而知新」の「而」や、「可以為師矣」の「矣」などのように、を削除。	2 編集の具体的方針(2)
44	図	変更	「ゴリラの生育域」の図を点図化する。ただし、原典の図の中の国境線は描かない。	2 編集の具体的方針(1)	
51	中	変更	(論理の展開を捉える)【資料3-6】	2 編集の具体的方針(2)	
53	中	変更	(抽象) ← 1 2 3 → (具体) 1. 努力することは大切だ。 2. 僕は、水泳部の練習を通して、努力することの大切さを学んだ。 3. 2年生のときにスランプに陥り、・・・	2 編集の具体的方針(2)	
54		変更	グラフを基に→グラフや表を基に	2 編集の具体的方針(2)	
56	1	変更	グラフを読み取る→グラフや表を読み取る	2 編集の具体的方針(2)	

	56	上3	変更	四百～五百字（点字32マス22～28行）程度	2	編集の具体的方針(2)
	56	下3	変更	（グラフの場合）→（グラフや表の場合）	2	編集の具体的方針(2)
	56		変更	資料1は、折れ線グラフで表す 資料2, 3【資料3-7】	2	編集の具体的方針(2)
	58	上4	削除	（音は片仮名、訓は平仮名で表している。）	2	編集の具体的方針(2)
	58	上図	変更	イラストを削除して、以下のように変更した。 朝食（チョウ ショク）－ともに音読み 朝日（あさ ひ）－ともに訓読み 毎朝（マイ あさ）－「マイ」は音読み、「あさ」は訓読み 朝晩（あさ バン）－「あさ」は訓読み、「バン」は音読み	2	編集の具体的方針(1)
	59	上	変更	複数の読み方をする熟語【資料3-8】	2	編集の具体的方針(2)
	59	下	変更	練習問題【資料3-9】	2	編集の具体的方針(2)
	60		変更	漢字に親しもう2【資料3-10】	2	編集の具体的方針(2)
	65		変更	200字（点字32マス11行）程度	2	編集の具体的方針(2)
	71		変更	200字（点字32マス11行）程度	2	編集の具体的方針(2)
	72	上1	変更	（ ）に→次の□に	2	編集の具体的方針(2)
	72	下11	変更	「ぼく」（僕）のように、→「僕」という漢字が	2	編集の具体的方針(2)
	74	上	変更	平安時代の人「いとをかし」 明治時代の人「帳面」	2	編集の具体的方針(2)
	74	下	変更	年配の人「かっぱ」 若い人「レインコート」	2	編集の具体的方針(2)
	75	上6	変更	左の文章→後の文章	2	編集の具体的方針(2)
	75	下	変更	年配の人「クッキーのさくさくした食感。」 若い人「作業がさくさく進む。」	2	編集の具体的方針(2)
	75	下	変更	子どもに向かって話す場面 「アーティストが一堂に会するんだって。」	2	編集の具体的方針(2)
3年 2巻	76	中	削除	識別マーク「（右）」を削除	2	編集の具体的方針(2)
	76		変更 削除	Aの資料内 下記の種類ごとに分け→次の種類… 2. 「上記の」を削除。	2	編集の具体的方針(2)
	77	上6	変更	吹き出し内 部分に印をつけておこう→部分を抜き出しておこう。	2	編集の具体的方針(2)
	79	中	変更	（写真）－4島の主な固有種 鹿児島県奄美大島－アマミノクロウサギ 鹿児島県徳之島－トクノシマトゲネズミ 沖縄県沖縄島（北部）－ヤンバルクイナ 沖縄県西表島－イリオモテヤマネコ	2	編集の具体的方針(1)
	82	上2 上4	削除 変更	「表に」を削除 三百字（点字32マス17行）程度	2	編集の具体的方針(2)
	82	下	変更	観点【資料3-11】	2	編集の具体的方針(2)
	85	上5	変更	左は→次の文章は	2	編集の具体的方針(2)
	88	下	変更	文の後に「星五つ」を追加。	2	編集の具体的方針(2)
	105	欄外	追加	脚注に追加。 ルントウー「ルン」は「うるうづき」の「うるう」、 「トウ」は「五行」の「土」の意味。	2	編集の具体的方針(2)
	121	上	変更	（文章を推敲するための訂正の仕方の例）に変更し、 訂正方法を以下の文章に変更。 （訂正の例） キキ 数1パツ→キキ イッパツ（文字の修正）	2	編集の具体的方針(1)

			一本ほどの差の→一本ほどの僅かな差の（語の追加）		
	121	下7	変更	Aから→第三段落から	2 編集の具体的方針(2)
	121	下10	変更	上の文章は→森さんの文章は	2 編集の具体的方針(2)
	121	下12	変更	百字（点字32マス6行）程度	2 編集の具体的方針(2)
	123	下6	削除	（□は本来の意味、■は本来とは異なる意味。）を削除。	2 編集の具体的方針(2)
	124	下5	削除	「や表情」を削除。	2 編集の具体的方針(2)
	127～128		変更	練習問題【資料3-12】	2 編集の具体的方針(2)
3年3巻	228		変更	1 言葉の単位、2 文の組み立ては、2年3巻の資料参照。	2 編集の具体的方針(2)
	229	中4-9・下	変更	自立語と付属語、活用の有無とし、それぞれの語と例文を【資料3-13】のように掲載。	2 編集の具体的方針(2)
	229		変更	「品詞分類表」は1年3巻の資料参照。	2 編集の具体的方針(1)
	230	中	変更 削除	文頭の×印→（バツ）、○印→（マル）。 ↓印の後の×印・○印は削除。 ㊦・㊧は、（主部）（主語）・（述部）（述語）の別を書く。	2 編集の具体的方針(2)
	231	中1～6	追加	例文の前行に（意味のまとまりが分かりにくい例）を、6行目に（推敲の例）を補う。	2 編集の具体的方針(2)
	232	上7～11	変更	△印→（3カク）、○印→（マル）、×印→（バツ）	2 編集の具体的方針(2)
	232	下	変更	練習【資料3-14】俳句は現代仮名遣いで書く。	2 編集の具体的方針(2)
	233	上2～5	変更	1 言葉の単位 次の文を、(例)にならって(文節)、(単語)ごとに区切って書こう。 (例) 明け方に雨が降った。 (文節) 明け方に 雨が 降った (単語) 明け方 に 雨 が 降っ た とし、(1)～(5)の文を分ち書きせずを書く。	2 編集の具体的方針(2)
	233	下	変更	3 単語の分類 次のa. b. の2文の単語ア. ～チ. について、後の(1)～(4)の問いに記号で答えよう。 a. 手をきれいに洗い、それから昼食を取った。 b. ああ、あの美しい山にいつか登りたい。 ア. 手           イ. を ウ. きれいに   エ. 洗い オ. それから   カ. 昼食 キ. を           ク. 取っ ケ. た           コ. ああ サ. あの       シ. 美しい ス. 山           セ. に ソ. いつか      タ. 登り チ. たい	2 編集の具体的方針(2)
	234	上	変更	▼印は1. 2. とし、リード文を変更。 1. (1)～(8)がそれぞれ同じ品詞のグループになるように、□に入る単語を後の（語群）から選ぼう。 2. 次のア. イ. の「 」で示した語の品詞をあとのa. b. から選んで、記号で答えよう。	2 編集の具体的方針(2)

	235	上下上	変更	▼印は1. 2. とし、リード文を変更。 1. 次の「 」で示した…後の語群から選んで…。	2 編集の具体的方針(2)
	235	下	変更	2. 次の「 」で示した語について、形容詞か形容動詞かを答えよう。また、活用形を後のア. ~オ. から選んで、記号で答えよう。 ▼印は1. ~3. とし、1. のリード文を変更。 1. 次の文から助詞と助動詞をそれぞれ抜き出そう。	2 編集の具体的方針(2)
	239		変更	主な助詞について【資料3—15】	2 編集の具体的方針(2)
	242		削除 変更 追加	上段の図は削除。 中段の問題の構成にA~Dの記号を付す。時間の目安は40分の1.5倍の60分に変更。 下段は1~9行目までを削除し、最後の行に(二次元コード)と追加。パソコン画面の図は削除。	2 編集の具体的方針(2)
	243	1 下3	変更 変更	次の文章は、言葉について述べた随筆である。これを読み、(該当) ページの問題1. 2. に取り組もう。 最後の五字を→最後の二文節を 2. の傍線部の内容と該当ページ行を再掲。	2 編集の具体的方針(2)
	244		変更	「…何をテーマにするかを話し合っている。」の後に「次の会話文を読み、(該当) ページの問題1. 2. に取り組もう。」 「次から」→「次のア. ~オ. から」	2 編集の具体的方針(2)
	245	上	変更	南中学校の…。次のA. とB. は、ポスターに入れる図と説明の案である(図は省略)。これを読み、(該当) ページの問題に取り組もう。 「正しい鉛筆の持ち方をするように」→「鉛筆を持つように」	2 編集の具体的方針(1)
	245	下2	変更	20字程度で→20字(点字35マス)程度で	2 編集の具体的方針(2)
	245	下8	変更	どちらの図を→どちらを	2 編集の具体的方針(1)
	246	上2 上7 上	削除 変更	「次の文を読んで、問題に答えよう。」→削除 「①~③の…選ぼう。」→「次の(1)~(3)の□に入る、…四字熟語をそれぞれあとのア. ~エ. から選ぼう。」と変更。 指示文のあとに(1)~(3)の文を掲載。	2 編集の具体的方針(2)
	246	下1 下5 下7	変更 変更 変更 削除	「次の和歌の問題に答えよう。」→「次の和歌を読んで、あとの問題2. 3. に答えよう。」 「一線部を、現代仮名遣いに直し、全て平仮名で書こう。」→「傍線部〈にほふ〉を現代仮名遣いに直して書こう。」 「次から」を「次のア. ~エ. から」とし、選択肢に付されている□を削除して、ア. ~エ. とする。	2 編集の具体的方針(2)
	250		変更 削除	「精を出す」「骨身を惜しまない」…「順風満帆」を削除し、例文を資料【3—16】のように変更。	2 編集の具体的方針(1)
	253	上下	変更	【資料3—17】のように変更。 【資料3—18】のように変更。	2 編集の具体的方針(1)
	253	下16 ~20	変更	「写真や絵を基に伝える…□□が伝わる」→「写真や絵などを基に伝える…□□が伝わる」	2 編集の具体的方針(1)
	254	下	削除	「言葉とあなた…年月日」を削除。	2 編集の具体的方針(1)
3年 4巻	263	下1 ~3	削除	「昔の日本の景色を写した写真を見て」を削除 「一度は見てみたい世界の絶景」を削除	2 編集の具体的方針(1)
	264~ 265		削除 変更	グラフの見方/引用・出典は、2年4巻の資料参照。	2 編集の具体的方針(1)

	266		削除	座席表は削除（以降P267まで同様）。	2	編集の具体的方針(1)
	267	上	変更	話し合いの方法【資料3-19】	2	編集の具体的方針(2)
	268～297		削除	写真、挿絵、地図は削除。	2	編集の具体的方針(1)
	285	上9～10	削除 変更	「上演風景を見比べてみよう。」→「あらすじを読んでもみよう。」	2	編集の具体的方針(1)
	297	上	削除	(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)を削除	2	編集の具体的方針(1)
	298		削除	(〈人マーク〉は作者の出身地、〈本マーク〉は作品の舞台となっていることを示す。)の一文とそれぞれの記号を削除（以降P301まで同様）。	2	編集の具体的方針(1)
	302～303		変更	文語の活用表は、口語助動詞の活用表に準ずる。	2	編集の具体的方針(2)
	304～305		変更	常用漢字表について【資料3-20】	2	編集の具体的方針(1)
	304	上8	変更	頻繁に目にする→頻繁に用いる	2	編集の具体的方針(1)
	304	上10	削除	(一線部の漢字は、この教科書の新出漢字として扱われていないもの。)の1文。	2	編集の具体的方針(2)
	305	上8	変更	常用漢字表の読み方と比べてみよう。→(該当)ページからの「常用漢字表付表」で調べてみよう。	2	編集の具体的方針(1)
	305	上10	変更	叔父(伯父)→叔父(父母の年下の兄弟) 伯父(父母の年上の兄弟) 叔母(伯母)→叔母(父母の年下の兄弟) 伯母(父母の年上の兄弟)	2	編集の具体的方針(2)
	305	上17-19	変更	漢字一字で書き表すと「凧」となる。→一字で書き表す漢字がある。 「かぜ」と「木」→「部首のかぜ」と「木」	2	編集の具体的方針(2)
	305	下2	変更	国字の例は音と訓で表す。 「どう(はたら__く)」「こ__む」「はたけ」「とうげ」「わく」	2	編集の具体的方針(2)
	305	下17	削除	※印の1文	2	編集の具体的方針(1)
3年 5巻	134	中	削除 追加	表を削除し、 ①観点を決めて文章を比較し、それぞれの特徴を明確に捉えよう。の文末に、以下の文を追加。 (観点の例 提言の要旨、取り上げている事例など)	2	編集の具体的方針(1)
	135	中	変更	レイアウトを変更。【資料3-21】	2	編集の具体的方針(1)
	136	中	変更	600～800字(点字32マス33～44行)程度	2	編集の具体的方針(2)
	137	下	変更	下半分の説明図に、タイトルをつけて表記。 タイトル「批評文の例(p )の展開や表現の工夫」 説明図のレイアウトは【資料3-22】。	2	編集の具体的方針(1)
	138	上	変更	題材の例(ポスター広告)の内容を変更。【資料3-23】	2	編集の具体的方針(1)
	138	下	変更	「観点ごとに問いと考えを書き出す」の表をレイアウト変更。【資料3-24】	2	編集の具体的方針(1)
	139		追加	該当傍線部には第3指示符。指示部分の説明には、PLの追加。	2	編集の具体的方針(2)
	140		変更	漢字に親しもう3【資料3-25】	2	編集の具体的方針(2)
	146		削除	写本の画像を削除。	2	編集の具体的方針(1)
	147	左	削除	年表を削除。	2	編集の具体的方針(1)
	147	右	削除 変更	絵を削除。絵のキャプションは、次のように変更し、本文の後に1行空けて挿入。 「三十六歌仙図」鈴木其一 絵は省略	2	編集の具体的方針(1)

			三十六歌仙とは、平安時代中期の歌学者藤原公任が・ ・	
	153	下 変更	唐紅とも書かれる。→もとうたの漢字は、「から」が 「かんこく」の「かん」だが、「けんとし」の「と 一」で書かれることもある。	2 編集の具体的方針(2)
	155	下 変更	掛詞－聞く（耳で聞く）と菊（花）、待つ（人を待つ） と松（樹木）、眺め（眺望）と長雨（長い雨）	2 編集の具体的方針(2)
	156～ 163	変更	掲載順は 原文（p156 157分）→現代語訳（p156 157分）→ 注（p156 157分）→原文（p162 163分）→注（p162 1 63分）→俳句地図説明→俳句地図→地図に関連する俳 句→芭蕉の旅（p158下部） なお、注には、本文中のページ行をPL表記する。	2 編集の具体的方針(1)
	158～ 161	追加	俳句地図の説明文は【資料3-26】のように記載。	2 編集の具体的方針(1)
	158～ 161	変更	おくのほそ道「俳句地図」は点図にし、本文の後に挿 入。関連する俳句は解説とともに、深川から順を追っ て番号を付ける。	2 編集の具体的方針(1)
	158	下 変更	「芭蕉の旅」は【資料3-27】のようにレイアウト等 を変更。	2 編集の具体的方針(1)
	162	追加	脚注の「三代の栄耀」の後に補足説明を入れる。 「えよう」は「えいよう」が転じたもの。	2 編集の具体的方針(2)
	166- 167	変更	古典作品の振り返りの図表を、資料【3-28】のよう に記載した。	2 編集の具体的方針(1)
3年 6巻	179	下 変更	ピラミッド状の概念図の内容を、本文へ次のように挿 入した。 ・ピラミッド状の概念図の右側の内容は、本文「言い かえから意味を類推する。」の後に挿入。 ・ピラミッド状の概念図の右側の内容は、本文「課題 や提案を多角的に検討する。」の後に挿入。	2 編集の具体的方針(1)
	180～ 181	変更	漢字のまとめ【資料3-29】	2 編集の具体的方針(2)
	182	変更	漢字に親しもう4【資料3-30】	2 編集の具体的方針(2)
	183	上 変更	話し合いの様子を視聴し→後の話し合いの様子を読み 下の→次の P184の台本を、問題に取り組もうの前に挿入。	2 編集の具体的方針(1)
	184	下 変更	表を文章表記。【資料3-31】	2 編集の具体的方針(1)
	187	下 変更	座標軸で整理した例を、点図化。	2 編集の具体的方針(1)
	188 189	上中 追加	該当傍線部には第3指示符及び文中注記符を挿入。注 記符の説明には、PLの追加。	2 編集の具体的方針(2)
	193	下 変更	注「沙漠」-砂漠には、…「砂」という漢字を使わず に、「さんずい」に「すくない」という漢字を用いる 場合がある。墨字本文中の表記は原典によった。	2 編集の具体的方針(2)
	194	変更	レイアウトの変更【資料3-32】	2 編集の具体的方針(1)
	221	下 変更	レイアウトの変更	
	222	上 変更	レイアウトの変更【資料3-33】	2 編集の具体的方針(1)
	222	左上 変更	見出しや文章、イラストなどの配置を →タイトルの行頭位置の調整や小見出し符の使用、実 線・点線で囲むなど、レイアウトを	2 編集の具体的方針(1)
	222	下 変更	レイアウトの変更【資料3-34】	2 編集の具体的方針(1)
	226	変更	漢字に親しもう5【資料3-35】	2 編集の具体的方針(2)

## 4 参考資料

【資料1】「点字の書き方」(全学年の第3巻に掲載)

### 1 点字について(「日本点字表記法 2018年版」より)

#### 1. 点字の考案

目の不自由な人のための文字は、古くからいろいろと試みられてきたが、現在用いられている6点点字が考案されたのは、1825年のことである。フランスのルイ・ブライユによって考案された。当時、ブライユは、世界で最初の盲学校であるパリ盲学校の生徒であった。ブライユが16歳の時のことである。

ブライユが点字に初めて触れたのは、パリ盲学校の校長からシャルル・バルビエの12点点字を紹介されたときのことである。ブライユは、自分自身で読み書きすることのできる新しい文字に触れ、抑えがたい感動を覚えたという。

彼は、このバルビエの12点点字にまず習熟し、その欠点を批判し、2年あまり後には、この12点点字を二つに分けた6点点字の構想をまとめるに至った。時に1823年、ブライユは14歳の少年であった。この後、2年の歳月をかけて、1825年に現在の6点点字を完成した。

フランス政府が、このブライユの点字を目の不自由な人の公式文字として認めたのは、1854年のことである。ブライユの点字が、我が国で初めて盲学校の生徒に紹介されたのは、1887(明治20)年のことである。当時、東京盲啞学校の教師であった小西信八が、アルファベットを用いたローマ字式の点字を生徒に教えたのである。この生徒は1週間ほどで自由に読み書きができるようになったという。

点字の有用性に自信をもった小西信八は、早速東京盲啞学校の職員や生徒に、ブライユの点字を日本語に翻案することを呼びかけた。これに応じて翻案に努力したのが、同じ東京盲啞学校の教師であった石川倉次であり遠山邦太郎であった。また当時、東京盲啞学校の生徒であった伊藤文吉や室井孫四郎らは、先生方に劣らぬ1案をまとめ上げている。そうしたものの中から、石川倉次のまとめ上げたものが、1890(明治23)年に、日本の点字として選ばれ制定されたのである。

ブライユ少年がフランスで点字の考案に努力したことや、我が国において伊藤・室井などの生徒が点字の翻案に努力した事実は、深く心に留めておきたいことである。

#### 2. ブライユの点字配列表

6つの点の組み合わせからなる点字は、点の組み合わせの数からすると63通りの組み合わせができる。次の一覧表は、その63通りの組み合わせに規則性を持たせて配列したもので、ブライユの点字配列表と呼ばれている。

ブライユは、この表を元にしてアルファベット・数字・アクセント・句読点・楽譜などを決めた。我が国の点字も、基本的にはこの配列表にならっており、石川倉次の翻案になる50音の配列の仕方も、原理的にはこの配列表の原則にならって作成されている。

ブライユの点字配列表

⠠	⠡	⠢	⠣	⠤	⠥	⠦	⠧	⠨	⠩
⠪	⠫	⠬	⠭	⠮	⠯	⠰	⠱	⠲	⠳
⠴	⠵	⠶	⠷	⠸	⠹	⠺	⠻	⠼	⠽
⠿	⠺	⠻	⠼	⠽	⠿	⠺	⠻	⠼	⠽
⠿	⠺	⠻	⠼	⠽	⠿	⠺	⠻	⠼	⠽
⠿	⠺	⠻	⠼	⠽	⠿	⠺	⠻	⠼	⠽

⠠ ⠡ ⠢ ⠣ ⠤ ⠥ ⠦

### 3. 点字仮名

#### (1) 直音 (清音・濁音・半濁音)

日本の点字の考案者である石川倉次は、ブライユの点字配列表の1行目から、5の点 (⠠) を含むものを除いて、「ア行」にあてた。さらにこのア行に、3 5 6の点 (⠠⠠⠠) の組み合わせを加えて、「カ サ タ ナ ハ マ ラ」の各行を表した。つまり、清音について母音は1 2 4の点 (⠠⠠⠠) の組み合わせで、子音は3 5 6の点 (⠠⠠⠠) の組み合わせで表している。なお、例外としてワ行は、ア行と同じ形を最も下の位置に下げて表し、ヤ行はワ行に4の点 (⠠) を加えて表している。

濁音は、清音に濁点を表す5の点 (⠠) を前置し、半濁音は、清音に半濁点を表す6の点 (⠠) を前置して、それぞれ二マスで表している。

(清音)

(濁音・半濁音)

⠠	⠡	⠢	⠣	⠤					
⠠	⠡	⠢	⠣	⠤	⠠⠠⠠	⠠⠠⠠	⠠⠠⠠	⠠⠠⠠	⠠⠠⠠
⠠	⠡	⠢	⠣	⠤	⠠⠠⠠	⠠⠠⠠	⠠⠠⠠	⠠⠠⠠	⠠⠠⠠
⠠	⠡	⠢	⠣	⠤	⠠⠠⠠	⠠⠠⠠	⠠⠠⠠	⠠⠠⠠	⠠⠠⠠
⠠	⠡	⠢	⠣	⠤	⠠⠠⠠	⠠⠠⠠	⠠⠠⠠	⠠⠠⠠	⠠⠠⠠
⠠	⠡	⠢	⠣	⠤					
⠠	⠡	⠢	⠣	⠤					
⠠	⠡	⠢	⠣	⠤					
⠠	⠡	⠢	⠣	⠤					

#### (2) 拗音・拗濁音・拗半濁音

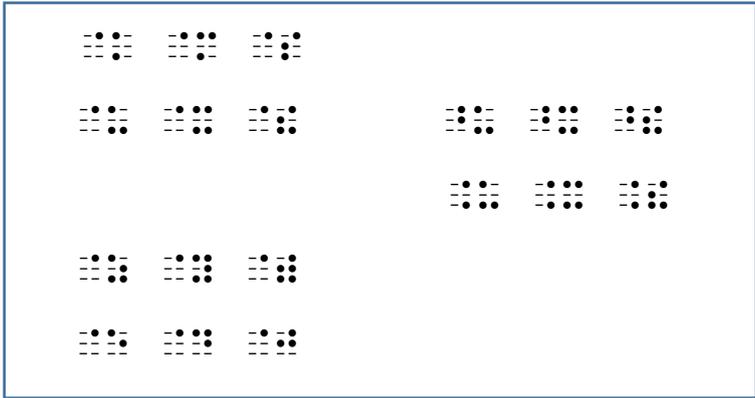
拗音は、主となる子音とヤ行の音から成り立っていて、墨字では、拗音のある列のイ段の音に小書きでヤ行の音を組み合わせる。点字では、各列のア段ウ段オ段の音に拗音を表す4の点 (⠠) を前置して、それぞれ二マスで表している。

また拗濁音は、4の点 (⠠) に濁音を表す5の点 (⠠) を加えた4 5の点 (⠠⠠) を前置して示し、拗半濁音は4の点 (⠠) に半濁音を表す6の点 (⠠) を加えた4 6の点 (⠠⠠) を前置してそれぞれ示す。

(拗音)

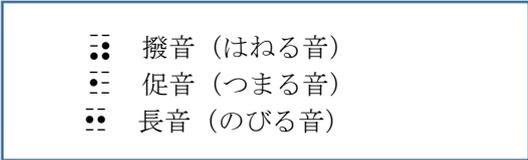
(拗濁音・拗半濁音)

⠠⠠	⠠⠠	⠠⠠	⠠⠠	⠠⠠	⠠⠠
⠠⠠	⠠⠠	⠠⠠	⠠⠠	⠠⠠	⠠⠠
⠠⠠	⠠⠠	⠠⠠	⠠⠠	⠠⠠	⠠⠠



(3) 撥音・促音・長音

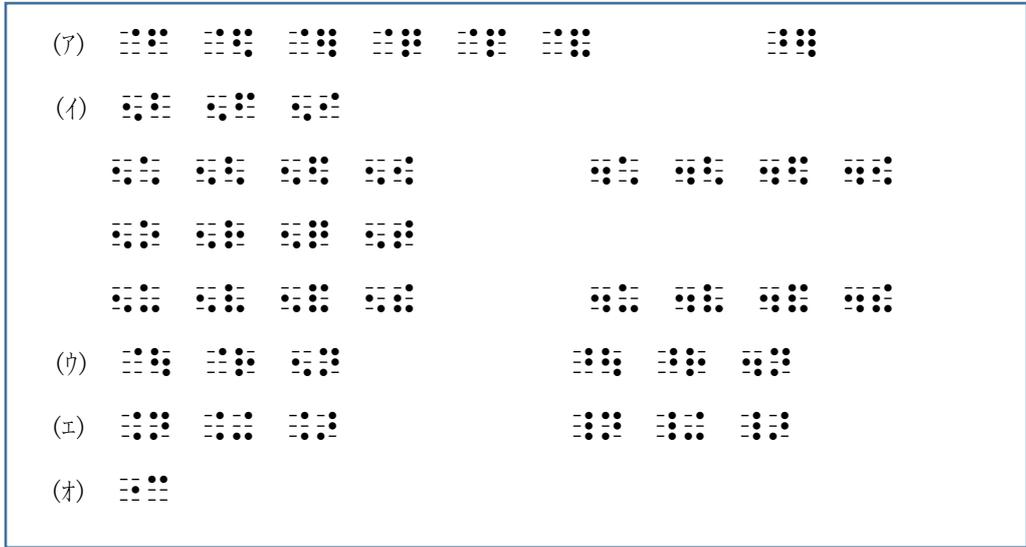
促音は墨字では「ツ」の小書きで表すが、点字の促音符は「ツ」の形とは無関係である。



(4) 特殊音

外来音などに用いられる特殊音も清音の仮名に前置点を付けて表している。墨字表記との対応から五つのグループに分類できる。

- (ア) イ列の仮名に小書きの「エ」を添えて表す音は、拗音に発音が近いので4の点(ㄱ)を前置する。
  - (イ) 「ウ ク ツ フ」にア行の小書きの仮名を添えて表す音には、2 6の点(ㆁ)を前置する。
  - (ウ) 残りのア行の小書きの仮名を添えて表す音のうち、「ス テ」には4の点(ㄱ)、  
「ト」には2 6の点(ㆁ)を前置する。
  - (エ) ヤ行の小書きの仮名を添えて表す音には、4 6の点(ㆁ)を前置する。
- ※ 以上の音が濁音化する場合には、それぞれの前置点に濁点を加える。
- (オ) 「ヴ」は墨字と同様にㆁㆁと表す。





(2) 囲みの符号

囲みの符号の内側は続け、外側は囲まれた部分とその前後との分かち書きの原則に従う。

 第1 カギ  
 ふたえカギ  
 第2 カギ

 第1 カッコ  
 二重カッコ  
 第2 カッコ

 第1 指示符  
 第2 指示符  
 第3 指示符

 点訳挿入符  
 第1 段落挿入符  
 第2 段落挿入符

(3) 関係符号

つなぎ符類と波線は、前後を続けて表す。

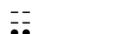
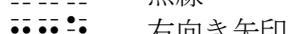
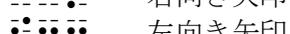
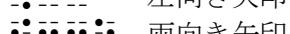
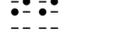
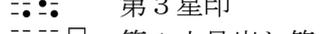
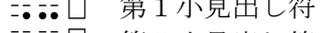
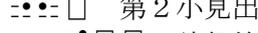
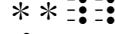
棒線（ダッシュ）・点線・矢印類は、前後を一マスあけて書き表す。棒線と点線は、増やすことは可能だが減らすことはできない。矢印類は長さの増減が可能である。

空欄符号や文中注記符の前後は、分かち書きの規則に従う。空欄符号は、長さを増減することができる。

星印類・小見出し符のあとは、一マスあけて書く。

小見出し符類は前に続け、後ろは一マスあける。

詩行符類は前に続け、後ろは二マスあけて書く。

 第1 つなぎ符  
 第2 つなぎ符  
 波線  
 棒線  
 点線  
 右向き矢印  
 左向き矢印  
 両向き矢印  
 空欄符号  
 文中注記符  
 第1 星印  
 第2 星印  
 第3 星印  
 第1 小見出し符  
 第2 小見出し符  
 詩行符  
 二重詩行符（連の変わり目）  
 スラッシュ

(4) 伏せ字とマーク類の符号

伏せ字やマーク類を点字で用いる場合は、それらの符号の用法に従って、適切に用いる必要がある。また、マーク類も同様で、適切な場所に説明とともにそれらの符号を使うなど十分な配慮が必要である。

- ⠠⠠⠠ 伏せ字の○
- ⠠⠠⠠ 伏せ字の△
- ⠠⠠⠠ 伏せ字の□
- ⠠⠠⠠ 伏せ字の×・数字の伏せ字
- ⠠⠠⠠ その他の伏せ字
- ⠠⠠⠠ パーセント
- ⠠⠠⠠ アンドマーク
- ⠠⠠⠠ ナンバーマーク（井桁）
- ⠠⠠⠠ アステリスク
- ⠠⠠⠠ アットマーク

## 2 語の書き表し方

### 1. 現代語の書き方

現代語の書き方は、原則として「現代仮名遣い」に基づいているが、次の2点で現代仮名遣いとは異なる書き方をする。

- (1) 助詞の「は」「へ」は、点字では「わ」「え」を用いる。  
せんせい わ やさしい。  
がっこーえ いく。
- (2) ウ列・オ列の長音のうち、「現代仮名遣い」で「う」と書き表す長音は、長音符を用いて書き表す。  
くーき すーじ こーえん おとーさん

※ 「楽しいことを思う」「道草を食う」「無理を言う」などの「思う」「食う」「言う」の「う」は、長音ではなく、動詞の活用語尾であるので「う」を用いて書く。

※ オ列の長音のうち、次に挙げる語、及びその派生語は、墨字の仮名遣いと同様に「お」を用いて書く。これらは、歴史的仮名遣いでオ列の仮名に「ほ」または「を」が続くものである。

おおかみ おおせ おおばこ おおやけ こおり こおろぎ ほお ほおずき ほのお とお  
いきどおる おおう こおる しおおせる とおる とどこおる もよおす よそおう  
いとおしい おおい おおきい とおい  
おおむね おおよそ

※ 「ごーごー」「きーきー」「ごーごー」「びゅーびゅー」などの擬声語の長音は、点字では長音符を用いて書き表す。

※ その他、「現代仮名遣い」では、「はなぢ」「みかづき」のように2語の連合によって「ち」「つ」で始まる言葉が濁音化した場合(連濁)、および「ちぢむ」「つづく」のように「ち」「つ」が連呼されて濁音になった場合には、「ぢ」「づ」を用いている。点字で書き表す時には、特に正しい音で書き表せるように、十分注意する必要がある。

### 2. 外来語や外国語、外国の地名や人名の書き方

外来語や外国語、外国の地名や人名の書き方は、できるだけもとの音に近く、しかも平易な書き方になるようにする。また長音は、長音符を用いて書き表す。

コンピュータ パーティー ケーキ シェークスピア ウィーン ディスク スウェーデン  
モーツァルト ボランティア ファイル カリフォルニア プロデューサー ヴァイオリン

### 3. 数字や数字を含む語の書き表し方

ひとまとまりの数は、数符を前置して4桁までは数字で続けて書き表すが、千の位で終わる数は「千」と仮名で書いてもよい。「万」「億」「兆」などの位は、4桁までの数字の後ろに仮名で書き表す。

⠠⠠⠠⠠⠠ 2025 ⠠⠠⠠⠠⠠ 2千円  
⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ 1億2345万6789

大きな数字を全て数字で書き表す必要がある場合には、3桁ごとに位取り点を添えて書き表す。

1 2 3、4 5 6、7 8 9

小数は小数点を用いて2.5のように書き、分数は一般書では読み上げる順に書き表す。

およその数で数字が重なるときは、それぞれに数符を付けてマスあけをせずに書き、読点や中点は省略する。

1.25      1と3分の2

2、3日      34、5さい

4百5、60人

「2・26事件」のように月と日の省略を表す場合も、数字を重ねて続けて書き、中点などは用いない。

5・1      5・4運動

数字の後に続く単位などはマスあけをせずに続けて書くが、その最初の文字がア行またはラ行の時には、数字との間に第1つなぎ符を挟んで書く。

2回      3割引      15才

10円      5リットル

数字を含む言葉の書き方は、数字で書き表す場合と、仮名で書き表す場合の二通りに分けられる。一般的には、数量や順序の意味がある場合には数字を用いて書き、それらの意味が薄くなった慣用句では仮名を用いて書くことが多い。従って、同じ文字の語句でも、数量や順序の意味の有無によって数字と仮名に書き分けることになる。

(1円玉)      関東 (1円)

リレーは      が      よい

数量や順序を表す語でも、和語の場合には仮名で書く。

一つ (ひとつ)      三日 (みっか)      七草 (ななくさ)

人名や地名などの固有名詞は、数字を用いずに仮名で書き表す。

一郎      九州      三宮

ただし、地番など、数量や順序の意味を明らかにする必要がある場合には、固有名詞であっても数字を用いて書き表す。

1丁目3番地      町立第一中学校

#### 4. アルファベットと外国語の書き表し方

文字として用いるアルファベットは、外文字を前置して書き表す。略称などで2字以上の場合も、最初の外文字に続けて書く。その時、それらのアルファベットが大文字である場合は、外文字の後に大文字符を付け、2字以上大文字が続く場合は、二重大文字符を付けて書き表す。

A      SNS      NHK

1語中のアルファベットと数字との間は、マスあけせずに一続きに書く。

A4サイズ      ビタミンB6

ひと続きに書く1語中の仮名と、アルファベット・数字の間は、続けて書き表す。また、アルファベットと仮名の間は、第1つなぎ符を挟んで続けて書き表すが、助詞や助動詞が続く場合には一マス空けて書き表す。

数kg      初V      40度C

T字路      B型

CDを聴く      PTAの総会

僕が見たのはUFOだった

外国の語句や文を日本語の文章中に引用する場合には、その前と後ろを外国語引用符で囲む。

点字のことを、 (braille) という。

外国語引用符と外文字とを混同して用いないように十分注意が必要である。例えば、 $\text{IT}$  (IT) なら、情報技術の略称になるが、 $\text{it}$  (it) とすると、3人称単数の人称代名詞となる。ホームページやEメールのアドレス、SNSのアカウントなどを書き表す場合は、その前後ろをアドレス囲み符号  $\text{it}$  ～  $\text{it}$  で囲む。

## 5. 古文の書き方

古文の書き方は、原則として、和語は歴史的仮名遣いで書き表し、漢語は現代語に準じて書き表す。しかし、目的や必要によっては、すべてを現代仮名遣いで書き表したり、すべてを歴史的仮名遣いで書き表したりするなど、きめ細かく書き分けてもよい。

ただし、文語文法は現代文の文法とは異なる部分があるので、注意が必要である。

(原則に従った書き方)

ハルハ アケボノ。 ヤウヤウ シロク ナリユク ヤマギハ、 スコシ アカリテ、ムラサキダチタル クモノ ホソク タナビキタル。

(現代仮名遣いに直した書き方)

アヤシガリテ ヨリテ ミルニ ツツノ ナカ ヒカリタリ。 ソレヲ ミレバ3ズンバカリナル ヒト、イト ウツクシューテ イタリ。

## 6. 漢文の書き方

漢文は、書き下し文に直して書き表す。点字では、書き下し文で学習する。

漢文の構造や漢詩の句の文字数などを明確にする必要がある場合には、訓点符号等を用いて書き表すこともできるが、これは参考例である。

(通常の見方 — 書き下し文)

しゅんみん あかつきを おぼえず  
しよしよ ていちょうを きく  
やらい ふううの こゑ  
はな おつる こと する たしょう

(参考例 — 訓点符号を用いた書き方)

しゅん みん ず $\text{it}$  おぼ $\text{it}$ え $\text{it}$  あかつき $\text{it}$ を  
しよ しよ き $\text{it}$ く $\text{it}$  てい ちょう $\text{it}$ を $\text{it}$   
や らい ふう う $\text{it}$ の こゑ  
はな お $\text{it}$ つること し $\text{it}$ る た しょう

## 3 分かち書きと、自立語内部の切れ続き

### 1. 分かち書き

墨字で書かれた文章には、仮名文字で書かれた文章と漢字仮名交じりの文章がある。幼児用の本などは前者であり、一般の小説や評論文などの文章は後者である。

仮名だけで書かれている文章は、文を読みやすくするために語のひとまとまりごとに区切って間をあけて書かれている。こうした書き方を「分かち書き」という。これに対して漢字仮名交じりの文章では、漢字によって語の区切りが比較的分かりやすくなっているために分かち書きをしないのが普通である。

点字は、仮名と同様に音を表す文字であるために、分かち書きをして、読みやすく、意味も分かりやすくする必要がある。そこで点字で文章を書く場合には、分かち書きをする。

点字の分かち書きの仕方は、一般に「文節分かち書き」と呼ばれているもので、文節の句切れ目ごとに区切って、間（マス）をあけていく方法である。この時、文節ごとに間をあけた部分のことを「マスあけ」と呼んでいる。

点字の分かち書きは、文節分かち書きであるので、原則的には、自立語はその前をあけて書き、付属語は自立語に続けて書く。しかし、マスあけの中には、文節の感覚が捉えにくいなどの理由で以下のような誤りやすいものがあるので、注意が必要である。

(1) 補助動詞・補助形容詞

花が 咲いて いる。→「サイテイル」は誤り。  
雨が 降って くる。→「フツテクル」は誤り。  
話を 聞いて みよう。→「キイテミヨー」は誤り。  
本を 読んで もらう。→「ヨンデモラウ」は誤り。  
我が輩は 猫で ある。→「ネコデアル」は誤り。  
今日は 寒く ない。→「サムクナイ」は誤り。  
君が きて くれたので さびしく なく なる。→「キテクレタノデ」「ナクナル」は誤り。

(2) 形式名詞

よむ ときに  
かく ことを  
ぼくの おもう ところでは  
こんな ふうに  
ドアを あけた まま

(3) 意味の違いによって書き分ける必要があるもの

このあいだ（先日）彼にあったよ。  
この 間に 挟んで おいたよ。

どうして（なぜ） 答えないの？  
どう したら 答えるの？

風が 強まって きた。 そのうえ、 あめも ふりだした。  
提出物は その うえに おいて ください。

2. 自立語内部の切れ続き

自立語はひと続きに書くのが原則であるが、長い複合語などの場合は、自立語内部も区切ってある方が読みやすくなる。そこで、和語・漢語・外来語を通して、3拍以上の独立性の強い意味のまとまりが二つ以上あればその境目で区切り、2拍以下の意味のまとまりはそのどちらかに続けて書き表すことを原則とする。

(1) ひと続きに表す自立語の例

ア. 区切ると意味の理解を妨げる短い複合語や略語

朝日 水たまり 綱引き 鼻風邪 読み書き  
学割 国連 マスコミ パソコン

イ. 接頭語や接尾語などを含む語

真夜中 裏番組 大歓迎 子どもたち 効果的 散歩がてら モノカルチャー パートナースhip

ウ. 助詞などを含んでも、1語としてまとまっている複合語

髪の毛 床の間 手のひら 山の手

エ. 区切ると理解を妨げる動植物名や理化学用語

水芭蕉 柊南天 ムカシトシボ ポリエチレン

オ. 複合動詞や複合形容詞（動詞の連用形や形容詞の語幹に接続する動詞や形容詞）

笑いこぼる 歩き回る 近寄る 重苦しい

カ. サ変の動詞のうち、以下のような語

a. 促音化・撥音化などの音韻変化をしたり、連濁を起こしたりしたもの

達する 接する 発する  
重んずる 軽んずる 先んずる  
応ずる 命ずる 信ずる

b. 独立性の弱い1字漢語について一体化したもの

関する 比する 有する 与する

c. サ変以外の活用を持つもの

愛する 死する 属する 感ずる 演ずる

キ. 2語の連合により連濁を起こしたもの

株式会社 目覚まし時計 湯飲み茶碗 鏡開き

## (2) 区切って書く自立語の例

ア. 3拍以上の独立性の強い意味のまとまりが二つ以上ある複合名詞

内閣□総理□大臣 国語□辞典 入学□試験 自由□研究 ガイド□ブック 曇り□ガラス

イ. 2拍以下でも独立性が強く語の意味の理解を助ける複合名詞

歯科□医師 夏季□休業 土地□改良 県□体育館 彼□自身

ウ. 接頭語など独立性の弱い要素であっても意味の理解を助ける場合や、発音上の切れ目がある場合

満□3歳 丸□1日 非□人道的 超□現実的

国語や□数学□等々

エ. 名詞や副詞に続くサ変の複合動詞

勉強□する 具体化□する いらいら□する しっかり□する

一致□団結□する 自画□自賛□する 意味□する 損□する

オ. 年月日などはその段階ごとに区切り、その後続く語も意味を明確にする必要がある場合

2025年□4月□4日

午前□1時□23分□56秒

12月□31日□18時□19分□発

1メートル□60センチメートル□強

15キログラム□減

カ. 二つ以上の独立性の強い意味のまとまりからなる繰り返し言葉

むかし□むかし 遠い□遠い ぱちり□ぱちり ぽつり□ぽつり

## 3. 固有名詞内部の切れ続き

固有名詞内部の切れ続きは、原則として自立語内部の切れ続きと同じであるが、特に、次のような点に注意する必要がある。

(1) 人名の名字と名前の間は区切って書き表すが、外国の人名の内、2拍以下の名字や名前は他と続けるか、つなぎ符類をはさんで続けて書いても良い。

夏目□漱石 松尾□芭蕉 李□太白 杜甫

レオナルド□ダ□ビンチ (レオナルド□ダビンチ、レオナルド□ダ<sub>二</sub>ビンチ)

(2) 人名の後に敬称・尊称・官位などが続く場合、それが独立した意味のまとまりを持っている時は区切って書き表す。ただし、愛称・短縮形・一族を表す氏名(うじな)などは続けて書き表す。

小林□さん 田中□様 鈴木□殿 佐藤□君 石川□倉次□氏

お月さま 魚屋さん 真奈ちゃん むっちゃん 藤原氏

(3) 地名・国名・組織または団体名・会社名などは、3拍以上の意味のまとまりごとに区切る。ただし、2拍以下でも独立性が強い場合は、区切って書き表す。

大和□郡山市 土佐□清水市

アメリカ□合衆国 中華□人民□共和国

襟裳□岬 三浦□半島 十国□峠 華厳の□滝

社会□福祉□協議会 大阪□市役所 全国□盲学校長会 東京□ドーム

## 4 表記符号の使い方

表記符号とは、語句や文の関係を明らかにしたり、語句の引用、強調、説明あるいは文の省略などを明らかにしたりして、文章を読み取りやすくする符号のことである。この符号を用いる場合は、点字の触読性に配慮した上で、墨字との対応を図る必要がある。

### 1. 句読符の用法

- (1) 文の終わりには句点を続けて書き、次の文との間を二マスあける。句点の後にかぎ類や括弧類の閉じ符号がくる場合には、句点と閉じ符号との間は続ける。

雨が降った。風も吹いた。

後ろから「おーい。」と呼ばれて、(だれだろうか。)と思った。

- (2) 会話文や脚本・小説などで、表現を豊かにするために用いられる疑問符や感嘆符は、句点と同様、文の終わりにくる場合には後ろを二マスあけ、文中にくる場合には、後ろを一マスあける。疑問符や感嘆符の後ろにかぎ類や括弧類の閉じ符号がくる場合は、これらと閉じ符号との間は続けて書く。

「どうしてこうなったの？君は知っている？」

「しまった！おそかったか。」

「えっ？」と聞いて、彼はげげんそうな顔のまま見つめていた。

あっ！と思わず息を飲み込んだ。

- (3) 読点は、文の構成を明らかにして誤読を避けるために、次のような場合の後につけ、その後ろを一マスあける。

ア. 副詞的語句や形容詞的語句の前後

やはり、思っていたとおりでした。

静かな、明るい、春の日のことでした。

イ. 語や意味が付着して誤読のおそれがある場合

よく晴れた夜、空を見上げました。

ウ. 読みの間を示したい場合

カン、カン、カンと半鐘が鳴りました。

エ. 対話や引用文を示すカギの開き符号の前など

その時、「気が進まないよ。」と彼は言いました。

- (4) 中点は、対等な関係で並ぶ語句の区切り目に書き、その後ろを一マスあける。ただし、墨字において、地名や肩書きなどの段階の区切り、重ね数字や略称を表すアルファベットの間、外来語などの複合語の内部の切れ続きを表す中点は、点字では原則として用いない。(カッコ内は、墨字での表記を表したものである。)

春の七草とは、せり・なずな・ごぎょう・はこべ・ほとけのざ・すずな・すずしろのことである。

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (東京・神田の町並み)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (主人公・光源氏)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (5・7・5)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (5・15) 事件

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (テーブル・スピーチ)

## 2. 囲み符号の用法

### (1) カギ類

第1カギやふたえカギは、会話または引用する文や語句の前と後ろを囲んで用いる。カギ類の内側は続け、外側は分かち書きの原則に従う。

先生は、「みんなの前で話すには『伝えようとする気持ち』が何より大切である。」とお話しになった。

### (2) カッコ類

語句や文の直後に注記をする必要がある場合には、第1カッコを用いる。第1カッコの中でさらにカッコを必要とする場合には、二重カッコを用いる。カッコ類の内側は続け、外側は分かち書きの原則に従うが、直前の語句の説明である場合には、開きカッコの前は原則としてその語に続ける。

2040年は、点字制定150周年⠠⠠⠠⠠⠠⠠ 1890年⠠⠠⠠⠠⠠⠠ 明治23年⠠⠠⠠⠠⠠⠠に石川倉次の案が採用されたため⠠⠠にあたる。

### (3) 指示符類

文や語句の一部を強調したり指定したりする場合に指示符類を用いる。試験問題などに用いられている下線などは、この指示符類によって書き表すことが多い。

☐☐☐☐それは☐☐☐☐ 困ったと、彼は眉をひそめた。

(4) 点訳挿入符

同音異義語などで、点字では意味がわかりにくいと思われる語句の直後に、点訳上の説明を加えたことを明確にする場合に用いる。点訳挿入符の用法は、カッコ類と同様である。

(5) 段落挿入符

本文の要約や前文、詳細な説明やト書き、または段落単位の引用文などを本文とは段落を変えて書き表す場合に用いる。この場合、行頭から二マスあけて3マス目から開き符号を書き表し、符号の内側は一マスずつあける。終わりが句点などの場合でも、一マスあけるだけで良い。

3. 関係符号の用法

(1) つなぎ符

本来ひと続きに書くべき言葉の中に、数字やアルファベットが含まれていて、しかも誤読される恐れのある場合には、数字やアルファベットの後に、第1つなぎ符を入れて書き表す。また、漢字の訓読みなどで、漢字と送り仮名部分とを区別したいときには、第2つなぎ符を入れて書き表す。

100 ☐☐円玉 ☐☐☐ ☐☐線  
あか☐☐☐るい よ☐☐☐む

(2) 波線

場所・数量・時間などの範囲を表す場合に用い、範囲を表す語句の間に挟み込み、マスあけをしないで書き表す。

2025年☐☐☐2030年  
東京☐☐☐大阪  
10時☐☐☐12時

(3) 棒線（ダッシュ）

次のような場合に用い、符号の前と後ろを一マスずつあける。ただし、棒線の後に句読点や区切り符号が続く場合は、マスあけはしない。

ア. 対等な関係にある文や語句の対照

のれんに腕押し ☐☐☐ 糠に釘

イ. 前の文や語句の補足説明

明日 ☐☐☐ こどもの日 ☐☐☐ 私たちは遊園地に出かける。

ウ. 挿入句

いよいよ明日はこの子牛 ☐☐☐ 今私のそばですやすやと眠っている ☐☐☐ と、お別れだ。

エ. 感情の余韻や時間的隔たり、または漠然とした省略

まあ！ なんとということ ☐☐☐。

(4) 点線

感情の余韻や時間的隔たり、または漠然とした省略などを表現しようとする場合に用いる。ただし、点線の後に句読点や区切り符号が続く場合は、マスあけはしない。また、語頭または語中の省略に点線を用いる場合には、点線の後ろはマスあけをしなくても良い。

そうはいつでも☐●●●●☐  
●●●●的考え

(5) 空欄符号

試験問題などにある、隠された語句や文または記号などを表す場合に用いる。空欄符号の前と後ろは、分から書きの規則や他の表記符号の用法に従う。墨字で空欄の中や傍に記号等が添えてある場合には、それらを空欄の前に出し、空欄符号に続けて書き表す。

次の☐☐☐☐☐に適切な語を入れよ。

「舞姫」の著者は、(ア)☐☐☐☐☐ 時代の(イ)☐☐☐☐☐である。

(6) 矢印類

文や語句を対照させたり、時間の流れや変化の方向を表す場合に用いる。符号の前と後ろは、一マスあけて書き表す。

かき □ ≡ ≡ ≡ ≡ □ きく □ ≡ ≡ ≡ ≡ □ くるま □ ≡ ≡ ≡ ≡ □ まり  
つるつる □ ≡ ≡ ≡ ≡ □ ざらざら

(7) 文中注記符

欄外の注を必要とする語句につけて用いる。その注に番号が付く場合には、注記符の間に数字を挟んで書き表す。注記符を置く位置は語句や文の直後を原則とするが、注記があることをいち早く知らせる必要がある場合等では、語句や文の直前に置く。

欄外の注は、該当ページの下部に線を引いて置いたり本文末に置いたりして本文と区別して挿入する。

(8) 星印類

特に注意を喚起する必要がある段落の始まりや箇条書きの前に用いる。段落や箇条書きが本来始まる位置から書き表し、符号の後ろは一マスあけて書き表す。

□ □ ≡ ≡ ≡ □ 次のことに気をつけて読もう。

(9) 小見出し符類

見出し語の後ろに小見出し符類をつけ、一マスあけて本文を書き表すか、または小見出し符類をつけた後、行替えをして本文を書き表す。

(10) 詩行符類

一般の文章の中に、詩を引用したり、紙面を節約したりするために詩行符を添えて詩行の変わり目を示し、行を替えずに追い込んで書き表すことができる。また、二重詩行符を添えて、連の変わり目を示すことができる。詩行符類の前は続け、後ろは二マスあける。

(11) スラッシュ

対等関係やその他の区切りを表すスラッシュは、前後ろをマス空けしない。

外文字で書き表すひと続きのアルファベットの間に用いる。スラッシュの後ろにも外文字の効力が持続する。

数字の間に用いてもよいが、その場合は、スラッシュの前に56の点(≡)を置く。

血圧は ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ (血圧は 125/60)

※ 日付の略記には用いない。

4. 伏せ字とマーク類

(1) 伏せ字類

語句の一部をあえて伏せて書く場合に用いる。伏せ字は○△□×の形そのものを示しているわけではないので、伏せ字ではない部分に同じ形だからといって用いることはできない。例えば、墨字では問題の正誤や選挙の信任・不信任等に○や×の記号をよく用いるが、それらに使用してはならない。

○○ 学校 △△ 市 □□ 町  
内線 20×× 番 (数字の伏せ字)

(2) マーク類

ア. % (パーセント) は、数字などの後に続けて書き表す。後ろに助詞や助動詞などが続く場合は、一マスあける。ひと続きに書き表す語の場合には、第1つなぎ符をはさむ。

100 ≡ ≡ ≡ ≡ ダッタ (100%だった) 20 ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ビキ (20%引き)

イ. ≡ ≡ ≡ ≡ & (アンドマーク) は、andの意味を表す符号に対応する。符号の前と後ろを一マスあけて書き表す。

≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ (Q&A)

ウ. ≡ ≡ ≡ ≡ # (ナンバーマーク) は、電話のプッシュボタンや順位数を表すとき、シャープや井桁、ハッシュマークに対応する。後ろに助詞や助動詞などが続く場合は、一マスあける。ひと続きに書き表す語の場合には、第1つなぎ符をはさむ。

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ノ ソーサ (3 # の操作)

テンジニ カンスル トーコーニワ ⠠⠠⠠ テンジ か ⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ノ  
ハッシュタグヲ ツケテ クダサイ。(点字に関する投稿には「#点字」か「#braille」のハッシュタグを付けてください。)

エ. ⠠⠠⠠ \* (アスタリスク) は、電話のプッシュボタンで 0 の左側のボタンを表すマークなどに対応する。後ろに助詞や助動詞などが続く場合は、一マスあける。ひと続きに書き表す語の場合には、第1つなぎ符をはさむ。

墨字で文中注記符や星印を意味するアスタリスク符号には、それらを意味する点字記号を用いる。

オ. ⠠⠠⠠ @ (アットマーク) は、価格の表示や「・・・で」の意味に対応して用いる。前後ろを一マスあけて書き表す。

ショーヒン 5 コ ⠠⠠⠠ 200 エン (商品 5 個@200 円)

タベモノ フェスタ ⠠⠠⠠ マクハリ メッセ (食べ物フェスタ@幕張メッセ)

## 【資料2】 書き方の形式 (全学年共通)

### 書き方の形式

#### 1. 作文一般

題は、1行目に書く。題の書き出しは、通常は5マス目であるが、題の長さによって、7マス目、あるいは9マス目から書いてもよい。なお、2行以上にわたる場合には、2行目以降を1行目の書き始めからさらに二マス下げて書く。

名前は、題を書いた次の行の行末か、1、2マスあくように書く。

ページは、点字用紙の表の右上に書く。32マス点字盤であれば、紙押さえにページを入れるマスがある。

本文は、名前を書いた次の行の行頭3マス目から書き始める。段落の変わり目では「行替え」をし、3マス目から書き始める。

本文の1行を書き進み、行末から次の行に移って一マス目から書き続けることを「行移し」という。行移しは、マスあけの箇所で行うことを原則とする。行末にゆとりがあっても、一続きに書くべき語句や符号がその行に入りきらないときには、次の行に移して書く。ただし、括弧類や点訳挿入符の開き符号の前、波線やつなぎ符類の後ろ、助動詞の「ようだ・ようです」、「そうだ・そうです」(伝聞)、「ごとし」、「らしい」、「みたいだ」、「です」、「だ」などから、次の行に移して書いても差し支えない。また、行を移すときに、行末にマスあけをするゆとりがなくなった場合でも、行移しをすることによって一マスあけか二マスあけの役割を果たすので、次の行の行頭でマスあけをしてはならない。

行移しにあたっては、特に次の事柄に注意する必要がある。

(1) 2行にまたがって書いてはならないもの

ア. 一続きに書き表すべき数字やアルファベット

イ. 濁音や拗音のように二マスで構成されている文字

ウ. ふたえカギ、指示符類などのように二マス以上で構成されている符号類

(2) 行頭に書いてはならないもの(これらの符号が、もし行末に書ききれない時には、その符号の直前の語句とともに次の行に移して書く。)

ア. 句点・疑問符・感嘆符・読点・中点など

イ. 囲み符号(カギ類・指示符類・カッコ類・点訳挿入符・段落挿入符・外国語引用符・発音記号符など)の閉じ符号

ウ. つなぎ符・波線・小見出し符・詩行符類など

(3) 行末に書いてはならないもの

ア. 数符・外字符などの前置符号

イ. 囲み符号(カギ類・指示符類・カッコ類・点訳挿入符・段落挿入符・外国語引用符・発音記号符など)の開き符号—これらの符号は、行末に余裕があっても、その符号に続く語句がその行に書ききれないときには、開き符号から次の行に移して書く。

#### 2. 詩・短歌・俳句など

自由詩は3マス目から書き始めるが、定型詩は5マス目から書き出してもよい。

行や連によって、書き出し位置に変化をつける場合は、2マス又は4マスを単位として差をつけて書き表す。詩の1行が点字で2行にわたるときには、2行目は書き始めの行と二マスを単位として差をつけて書き表す。

短歌は、書き下しの場合3マス目から書き始め、その行に書ききれない部分は次の行の一マス目から書く。上の句と下の句を分けて2行に書き分ける場合には、上の句は3マス目から、下の句は5マス目からというように、行の書き出しに差をつける。3行書きの短歌は、1行ごとに行を改めて書き表す。

俳句や川柳は、3マス目または5マス目から書き始める。

(定型詩の例)

□□□□ナノハナバタケニ□イリヒ□ウスレ、  
□□□□ミワタス□ヤマノハ□カスミ□フカシ。  
□□□□ハルカゼ□ソヨフク□ソラヲ□ミレバ、  
□□□□ユーズキ□カカリテ□ニオイ□アワシ。  
(タカノ□タツユキ) □□

(自由詩の例)

□□□□オレワ□カマキリ  
(カマキリ□リュージ) □□

□□オー□ナツダゼ  
□□オレワ□ゲンキダゼ  
□□アマリ□チカヨルナ  
□□オレノ□ココロモ□カマモ  
□□ドキドキ□スルホド  
□□ヒカッテルゼ

□□オー□アツイゼ  
□□オレワ□ガンバルゼ  
□□モエル□ヒラ□アビテ  
□□カマヲ□フリカザス□スガタ  
□□ワクワク□スルホド  
□□キマッテルゼ

(詩行符を用いて書いた例)

□□ユーヤケ、コヤケノ≡□□アカトンボ≡□□オワレテ□ミタノワ≡□□イツノ□ヒカ。≡≡□□

(短歌の例)

リョーカン□  
□□カスミ□タツ□ナガキ□ハルヒニ□コドモラト□テマリ  
ツキツツ□コノ□ヒ□クラシツ

キタハラ□ハクシュー□□  
□□イシガケニ□コドモ□7ニン□コシカケテ  
□□□□フグラ□ツリオリ□ユーヤケ□コヤケ

イシカワ□タクボク□□  
□□ナガク□ナガク□ワスレシ□トモニ  
□□アウゴトキ  
□□ヨロコビヲ□モテ□ミズノ□オト□キク

(俳句の例)

マサオカ□シキ□

□□イクタビモ□ユキノ□フカサヲ□タズネケリ□

カワヒガシ□ヘキゴト一□□

□□□□アカイ□ツバキ□シロイ□ツバキト□オチニケリ

### 3. 脚本

人物名を3マス目から書き、その後ろに小見出し符類を付ける、または人物名の後ろを二マスあけて台詞を書く。台詞が2行以上にわたるときは、次の行は行頭から書く。台詞に第1カギをつける必要はない。また、人物名を行頭から書き、次の行からは3マス目から書く方法もある。人物名は繰り返して何回も出てくるので、頭文字などによる略称を用いるのもよい。

情景の説明は、第1段落挿入符で囲んで書き表し、ト書きは、第1カッコで囲んで書き表す。

(例1) 第2小見出し符使用

□□□□□リヤオー□モノガタリ

□□□□ダイ1マク□□リヤオーノ□キューデン

□□☺☺□アイズノ□ラッパガ□スイソー□サレル。□□リヤオーヲ□セントーニ

3ニンノ□ムスメ☺☺ゴナリル、□リーガン、□コーディーリア☺☺、□ソノタ、

ジューシン□ケントヲ□ハジメ□オオゼイノ□カシंगा□トージョー□スル。□☺☺☺

□□リヤオー☺☺☺□ミナノ□モノモ□シッテ□イル□トオリ、□フランスオート

バーガンディコーガ□コーディーリアヲ□ヨメニ□ホシイト□イッテ□キテ

オラレル。□□ソノ□ゴヘンジヲ□スル□マエニ、□コンゴ□ダレガ□ワシニ

モットモ□コーヨーヲ□ツクシテ□クレルカ□ハナシテ□モラオー。□□ココロガケノ

ヨイ□モノニワ□ソノ□ブンニ□オージテ□リョーチヲ□サズケタイ。

□□ゴナリル☺☺☺□ワタシワ□コトバデワ□イエナイホド□オトーサマノ□コトヲ

オモッテ□イマス。

□□コーディーリア☺☺☺□☺☺ドクハク☺☺□□ワタシワ□ナント□イオー。

ココロカラ□オツカエ□シタイノダケド。

(例2) 行頭から

リヤ□□☺☺チズヲ□サシナガラ☺☺□□ヨク□イッタ。□□オマエニワ、□□コノ

□□キョーカイセンノ□ナカノ□リョーチヲ□ヤロー。□□サア□リーガン、

□□オマエヲ□ドーダ。

リーガン□□オヤニ□コーコー□スルノワ□□コノ□タノシミ、□□ソノ□タノシミ

□□イガイノ□モノワ□ミナ□ワタシノ□テキデ□ゴザイマス。

コーディ□□☺☺ドクハク☺☺□□コンドウ□ワタシノ□バンダワ。□□ワタシノ

□□キモチワ□コトバデワ□イエナイ。□□ソーダ、□□ワタシワ□ダマッテ

□□イヨー。

### 4. 手紙

点字の手紙は、宛名や日付及び差出人名などを前付けとして最初に書くのが一般的である。この場合、まず1行目に相手の名前を書く。日付は、次の行に、相手の名前より2マスまたは4マス程度下げて書く。自分の名前は3行目に書くのが普通であるが、日付と同じ行に書いても差し支えない。名前の後は、行末まで二マスくらいあくようにする。

また、墨字の手紙のように、宛名、日付、差出人名を手紙の後付けとして最後に書くこともある。その場合には、日付、差出人名、宛名というように書く順序が変わるので注意する。

内容の書き方は自由であるが、前文（時候の挨拶、相手の安否を尋ねるなど）、本文、末文（終わりの挨拶など）と分けられる場合には、それぞれ行を改めて書くとよい。

なお、手紙を折って封筒に入れる場合は、封筒の大きさに合わせて、25の点（☺☺）を1行入れると点を傷めずに折ることができる。たとえば、32マスの点字盤では、点字用紙の裏面の4・9・14行目に入れて四つ折りにするか、裏面の5・12行目に入れて三つ折りにするとよい。

点字の郵便物は、切手を貼らずに、その位置に墨字で「点字用郵便」と書き、右肩3分の1程度を開封にすると、無料で郵送することができる。





□□ ≡ ≡ ≡ □□ 「アスリート」を主に使う人の  
 □□□□ □割合が最も高いのは、いちばん  
 □□□□ □年齢の低い16歳から  
 □□□□ □19歳までの年代である。  
 □□ ≡ ≡ ≡ □□ 「アスリート」を主に使う人の  
 □□□□ □割合は、50代以下の全ての  
 □□□□ □年代で、半数を超えている。  
 □□ ≡ ≡ ≡ □□ 「アスリート」を主に使う人と、  
 □□□□ □「運動選手」を主に使う人の  
 □□□□ □割合は、50代と60代の  
 □□□□ □間で逆転する。

## 9. 目次

目次は、見出しの項目が少ない場合でも、1ページを使用する。

目次は、1行目の中程に目次と書き、次の1行をあけて見出し語を書く。見出し語は、1行に1項目ずつ行をつめて書くが、2行以上にまたがるときは、見出し語の行頭から二マス下げ、行末がページを表す数字の位置にかからないよう書く。項目に序列がある場合は、その序列にしたがって、書き始めの位置で違いを表す。

ページ数は、行末に記し、項目とページ数との間は、2の点(≡)や5の点(≡)でつなぐ。点線の前後は、それぞれ一マスずつあける。

## 10. 略記法

ノート類や試験問題などには、次のような略記法が用いられる。

### (1) ページ・行の略記

pと1を用いて、ページと行を示す。その際、行を下から数えた方が早い場合には、次のように下という言葉を行表示の前に入れて示す。なお、途中の空白行も数える。

p 3 □ 1 5 (3ページ5行目)

p 4 □ シタ □ 1 2 (4ページ下から2行目)

### (2) 下がり数字を用いる略記

⋮⋮⋮ (4ページ8行目)

≡≡≡ (11月3日)

### (3) 2 5の点(≡)を間にはさむ略記

⋮≡⋮⋮⋮ (10時40分)

### (4) 3 6の点(≡)を間にはさむ略記

⋮≡≡≡⋮≡≡≡⋮ (3丁目1番7号)

### (5) マスあけを省略してつめて書く略記

⋮≡≡≡⋮≡≡≡⋮≡≡≡⋮ (電話番号)

【資料1-1】 (1年～3年 P9～10)

思考の地図 — 思考の旅に出かけよう

場面や目的に応じてさまざまな思考法(考え方)を使い、課題を解決したり、自分の考えを深めたりしていこう。



「思考を広げる」

どのように情報を集めようか。  
テーマはこれでよいだろうか。  
他の見方はないかな。



(広げる) (思い出す・ふり返る)

1. マッピング

思いついた考えや物事を → や — でつないで広げていく。  
(→ ○ページ、○巻○ページ)

2. 対話

向かい合って…  
相手の…  
(→ ○ページ)

3. ブレーンストーミング

アイデアを広げるための話し合い。思いついたことを自由に述べ、たがいの案を否定しない。



「思考を整理する」

どんな方法で情報を整理しよう。  
表などにすると、自分の考えが整理されるな。みんなでいっしょに考えることもできる。



(比較する・分類する)

1. 軸

基準となる軸を設けて、物事の程度などを示す。  
(→ ○ページ)

(程度の強弱)

(強い) ←————→ (弱い)

2. 観点

目的に合った「観点」を決め、表に整理する。  
(→ ○ページ)



※ A～Cは比較するもの

	観点1	観点2	観点3
A	...	...	...
B	...	...	...
C	...	...	...



3. 共通点・相違点

複数の物事の特徴を、共通点と相違点に分類する。

(→ ○ページ)

.....

Aの特徴 - ...

Bの特徴 - ...

(共通点)

...

(相違点)

Aだけの特徴 - ...

Bだけの特徴 - ...

.....

#### 4. 分類

共通点や類似点に注目してグループに分ける。

(→ ○ページ・○ページ)

Aグループ — ...

Bグループ — ...

Cグループ — ...

(順序立てる・関係づける)

##### 1. 順序・流れ・関係

物事の順序や流れ、変化などを矢印や囲みなどを用いて表す。

(→ ○ページ・○ページ)

第1段落 →

第2段落 →

第3・第4段落 →

第5段落

場面\_1 □□発端

場面\_2 □□山場

場面\_3 □□結末

.....

.....

「思考を深める」

この情報とこの情報はどうつながるのだろう。

新しいものの見方に気がついた。

.....

(分析する・吟味する)

##### 1. 意見と根拠

話や文章の中にふくまれる意見と根拠の関係を明らかにする。

(→ ○ページ)

##### 2. 原因と結果

話や文章の中にふくまれる原因と結果の関係をつかむ。

(→ ○ページ)

(仮説を立てて検証する)

仮説・検証

課題に対してあらかじめ仮説を立て、それを調査で明らかにしていく。

(→○巻○ページ・○巻○ページ)



Aさん さあ、思考の地図を持って出発しよう。

※2、3学年は1学年と同様。相違箇所は以下。

【2学年】

1. 軸

軸を設けて、物事の程度や度合いなどを示す。

(→ ○ページ ○ページ)

(程度)

効果の高低 ...

(高い) ←→ (低い)

実現性の高低 ...

(高い) ←→ (低い)

(度合い)

「○○」に対する評価を0～5の段階を設けて表す。

(順序立てる・関係づける)

1. 順序・流れ・関係

物事の順序や流れ、関係などを矢印や囲みなどを用いて表す。

(→ ○ページ・○～○ページ)



「課題」

(原因1)

→ (解決策1)

利点 ... ..

問題点 ... ..

(原因2)

→ (解決策2)

利点 ... ..

問題点 ... ..



第1段落 →

第2段落 →

第3・第4段落 →

第5段落



※「人物相関図」削除

※「思考を深める」図は削除

【3学年】

※「思考を広げる」図は削除

※「思考を整理する」1. 軸 2年生と同様だが、「効果の高低」は「効果の大小」に

※「思考を深める」図は削除

【資料1-2】 (1年 P12~13)

### 1 学習の流れ

「学びへの扉」

(見通しをもつ)―「学習活動」と「目標」を確認し、学習の見通しをもとう。  
(とらえる)(読み深める)(考えをもつ)―(実行する・試行錯誤する)  
(振り返る)―学んだことを観点ごとに振り返り、自分の言葉でまとめよう。

### 2 学習のポイント

「学びのカギ」

「学びのカギ」で、学習のポイントや、前後の学習とのつながり確かめよう。

「言の葉ポケット」

言葉の観点から学びを深め、自分の言葉を増やしていこう。

### 3 この教科書で使われる主な用語など

新出漢字 ... 中学校で初めて学習する漢字。

新出音訓 ... 中学校で初めて学習する漢字の音訓。

注意する語句 ... 次の活動を試みよう。

(意味) 意味を調べる。

(短文) 短文を作る。

(類義語) 類義語を調べる。

(対義語) 対義語を調べる。

(関連) 関連語句を確認する。

原典ページを利用しよう。・・・

## 【資料1-3】 (1年 P18)

(ノート例)

.....

⋮⋮⋮⋮ (水)

野原はうたう

(目標)

1. 詩を声に出して工夫して読む。
2. 友達の発表の工夫に気づく。

### ☆漢字注意

「詩」人・「詩」集 歌の歌「詞」と同じ音の漢字。形が違う。

(言葉メモ)

あした「こそ」→明日はきっと

音読の工夫

1. 読む速さーゆっくり はやく
2. 声の強さー強く 弱く
3. 間の取り方ー長く 短くなど

(私の工夫) 「あしたこそ」

「とんでいこう」→力強く。決意を表す。

音読発表会

(友達の発表を聞いて)

「おれはかまきり」(森)

おうなつだぜ おれはげんきだぜ

→「おうっ」「おれはっ」となるように 初めの「お」を強く明るくー元気のよさが出ている。  
・・・

決意

自分の考えをはっきり定めること。決心。決意を固める。

(授業のまとめ)

「野原はうたう」の詩を音読した。友達の……次に生かしたい。

1. 強調したい部分は……間を取るとよい。
2. 声の調子を変えて読むことで……

・・・

.....

1. 言葉・漢字など一気になる言葉や表現、……辞典で調べるとよい。
2. 授業のまとめー授業で学んだこと 次に生かしたいことなど

【資料1-4】 (1年 P19)

国語辞典

.....

きろく\_\_\_きん

きろく (めい ・・・スル) 1. 後々まで伝えたい事柄を書き記すこと。また、その書き記したもの。「出来事を ・・・する」 2. 競技などの成績や結果。特に、その最高のもの。レコード。「世界・・・」「・・・を破る)」

キログラム (フランス語 k i l o g r a m m e) メートル法で・・・

・・・

.....

柱 ...点字辞典では頁行にある。

見出し語 ...五十音順に並んでいる。柱などを参考に探す。

文法事項

言葉の意味 ...複数ある場合は、……考える。

用例など ...言葉の使い方や、……参考にできる。

【資料1-5】 (1年 P19)

漢和辞典 (漢字辞典)

.....

「ろく」…16画 (総画数)、部首「かねへん (8画)」、部首以外の部分の画数8画 (音) ロク、(訓) なし →漢字は音と訓で表す。

漢字の成り立ちー 意符の「金 (金属)」と音符の「ろく」とを合わせた字。

「こく (きざ\_\_む)」と音が似ているために、「きざむ」「しるす」の意味に使われるようになった。

意味ー (1)書き記す。写し取る。とどめ残す。(用例)ー「録」音、記「録」。

(2)書き記したもの。写し取ったもの。(用例)ー言行「録」、語「録」、付「録」。

熟語ー「録音」CDやテープなどに音を記録すること。

.....

【資料1-6】 (1年 P29)

(心情の変化を整理した例)

.....

「発端」

場面\_ (1) 絵との出会い

心情がわかる表現—

「それが何か、まだわかっていない」

「取り残されたような気がした」

「その場からそっと立ち去った」

→あせり・疎外感

「発端」から「山場」へ

場面\_ (2)

「山場」から「結末」へ

場面\_ (3)

.....

【資料1-7】 (1年 P33 下 12-18)

1. アクセントによるちがい

(例) はしを(共通語の場合)

「し」にアクセント→川に架ける橋

「し」「を」にアクセント→中央や中心から離れた部分

2. イントネーションによるちがい

(例) 橋をわたる「の」

「の」を下げる→説明

「の」を上げる→質問

【資料1-8】 (1年 P35 下)

最初の構成案

(初め)

ミステリーが好き(写真提示)

(中)

1. なかでも好きな作品

2. ミステリーが好きな理由

理由(1)

理由(2)

理由(3)

(終わり)

聞き手への呼びかけ

しめくくり

.....

改善点

(初め)

唐突な印象?→導入を追加(興味を引く)

(中)

「好きな作品」と「好きな理由」の前後のつながりがよくない。→入れかえ?

理由(1)~(3)→情報が多いため、絞り込む。(3)を削除。

.....

改善案

(初め)

聞き手への問いかけ

ミステリーが好き(写真提示)

(中)

1. ミステリーが好きな理由

- 理由(1)
- 理由(2)
- 2. なかでも好きな作品  
(終わり)
- 聞き手への呼びかけ  
しめくくり

【資料1-9】 (1年 P36)  
(初め)

導入—第一・第二段落 問いかけ、話題提示  
(中)

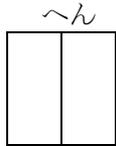
説明(1)—第三段落 好きな理由  
説明(2)—第四段落 特に好きな作品  
(終わり)

まとめ—第五・第六段落 呼びかけ、しめくくり

【資料1-10】 (1年 P38 下-39 上)

(漢字の組み立て)

※漢字部位を表す図およびへん、つくり、かんむり、あし、たれ、によろ、かまえは点図にする。  
各漢字ごとに、図は点図、部分の例は点線文字を添え、以下のように記載する。



よび名—ごんべん

意味—言葉

漢字例—

伝「説」(と\_\_く)

順「調」(しら\_\_べる)

議「論」

※漢字の例は以下のように変更する。漢字の例 ( ) 内は訓読みを表す。

伝「説」(と\_\_く) 順「調」(しら\_\_べる) 議「論」

運「休」(やす\_\_む) 「供」給源(そな\_\_える) 「使」用者(つか\_\_う)」

「判」断 便「利」(き\_\_く) 時「刻」表(きざ\_\_む)

援「助」(たす\_\_ける) 「効」果音(き\_\_く)」 「動」物(うご\_\_く)

汽「笛」(ふえ) 万年「筆」(ふで) 季「節」風(ふし)

命「令」 「介」護 「企」画(くわだ\_\_てる)

「照」明係(て\_\_る) 「熟」語(う\_\_れる) 発「熱」(あつ\_\_い)

「思」想家(おも\_\_う) 「悲」痛(かな\_\_しい) 「意」味合い

文化「庁」 喫茶「店」(みせ) 在「庫」品

「疲」労(つか\_\_れる) 「病」人(や\_\_む) 悪「癖」(くせ)

「追」突(お\_\_う) 交「通」(とお\_\_る) 「遠」距離(とお\_\_い)

「起」床(お\_\_きる) 優「越」感(こ\_\_す) 「超」人的(こ\_\_える)

「回」転数(まわ\_\_る) 「固」形物(かた\_\_める) 幼稚「園」(その)

「開」会式(ひら\_\_く) 時「間」割(あいだ) 玄「関」先(せき)

(漢字の部首)

※各部首は点線文字で表し、漢字の例は以下のように変更する。

にんべんー「キュウ（やす\_\_む）」・「キョウ（そな\_\_える）」・「シ（つか\_\_う）」  
ひとやねー「レイ」・「カイ」・「キ（くわだ\_\_てる）」  
ひとー「ジン（ひと）」  
これらは「ひと」という部首でまとめられる。

【資料1-11】（1年 P39 下）

（練習問題）

1. 次の(1)～(8)の部首は、「」で示した漢字に使われている。後に（ ）で示した説明に注意して確かめよう。

- (1) ころもー「意」 思表示
- (2) あしへんー岐「路」に立つ
- (3) そうにょうー「起」立（お\_\_きる）
- (4) にくづきー腎「臓」の検査
- (5) しかばねー高「層」ビル
- (6) たけかんむりー「管」弦楽団
- (7) くにがまえー頑「固」（かた\_\_まる）
- (8) いしへんー「破」片（やぶ\_\_る）

2. 次の(1)～(4)の「」で示した部分の漢字について、部首と、後に（ ）で示した説明に注意して確かめよう。

- (1) ころもー服「装」（よそお\_\_う） 「襟」元（きん） 手「袋」（たい）
- (2) みず さんずいー「氷」山（こおり） 「汚」染（よご\_\_す） 安「泰」
- (3) ころもー「恭」順（うやうや\_\_しい） 苦「悩」（なや\_\_む） 「懸」命（か\_\_ける）
- (4) ひ にちー「暗」黒（くら\_\_い） 「明星」（「みょう あか\_\_るい」と「じょう ほし」）  
「景」観

【資料1-12】（1年 P40）漢字に親しもう1

小学校で習った漢字

1. 次の言葉を使って、文章を作ろう。

映画 劇場 座席 当日券

中学校で習う漢字

2. 次の「」で示した熟語を読もう。

- (1) あの画家の絵はどれも「傑作」だ。
- (2) 速やかに「楽譜」に目を通す。
- (3) 「鉛筆」で自画像を描く。
- (4) 演技の「稽古」に多くの人が集う。
- (5) 「童謡」を聞いて、気分が和らぐ。
- (6) 休日は専ら「陶芸」を楽しむ。
- (7) 「琴」の音色に心が和む。

3. 次の各文の「」で示した部分は、同じ部首をもつ漢字である。

- (1) てへん  
ア. 足首を「捻挫」した。（「ねん」「ざ」）  
イ. 「打撲」して湿布した。（「だ」「ぼく」）  
ウ. 要求を「拒」否する。  
エ. 書類を一「括」して送る。
- (2) いとへん  
ア. 健康を「維」持する。  
イ. 地図で「緯」度を調べる。

ウ. 「紡績」工場を見学する。(「ぼう」「せき」)

【資料1-13】(1年 P52)

国語辞典の比較

比較するもの-A社 B社 C社

観点-1. 発行年 2. 語数 3. 特長

1. 発行年

A社 2021年

B社 2018年

C社 2009年

2. 語数

A社 75,000語

B社 70,000語

C社 30,000語

3. 特徴

A社 新語・流行語も多数収録。

B社 初版が50年前で歴史がある。

C社 小型で安価。小学生向け。

【資料1-14】(1年 P53)

手紙とメールの共通点と相違点

(共通点)

文字、思いや用件を伝える

(相違点)

手紙-手書き、届くのにかかる時間が長い、丁寧な印象

メール-活字、すぐ届く、やり取りしやすい、効率的な印象

【資料1-15】(1年 P53)

文章の構成

第1段落

第2段落

第3・第4段落

第5段落

.....

新聞を作る手順

内容と構成を決める → 記事の担当を決める →

本で調べる、人にきく → 記事を書く → 清書する

【資料1-16】(1年 P56)

テープカッター

「テープ」

車輪みたいにぐるぐる回る(構造)→スムーズに引き出せる(機能)

「テープを切る刃」

刃とテープとのすき間 5cm

「刃がついている部分」

5mmほどの厚みがある→テープがはり付く

5mmほどの厚みがない→切ったテープのはしがテープ本体にもどる

「台・底」

重い、1 kg、底がすべり止め(構造)→引き出しても動かない→片手で使える(機能)

色—いろいろある

材料—プラスチック

違うタイプ—小型・ガムテープ用(太い)

【資料1-17】 (1年 P57 下)

タイトル

(初め)

基本的な情報—第一段落

名前・主な機能(定義)—第一段落 「○○は、…のための道具だ。」

構造や仕組み—第二段落 「○○と□□から成る。」 「…という仕組みだ。」

(中)

発見したこと(1)—第三段落 「手に取ってみると、…。」 「…のおかげで、…できる。」  
「…だから、…できる。」

発見したこと(2)—第四段落 「もし…ならば、…だろう。」 「もし、…なければ、…だろう。」  
「○○には、…」 「○○は、…果たしている。」

(おわり)

まとめ—第五段落 「○○は、…と…にある。」

【資料1-18】 (1年 P77 下)

(「恥ずかしい」を意味や場面の違いで整理した例)

.....

1. 意味の違いで整理した例

(申し訳ない気持ち)

やましい 後ろめたい 面目ない 肩身がせまい

(照れる気持ち)

照れくさい くすぐったい こそばゆい 面はゆい もじもじ

2. 使う場面の違いで整理した例

改まった表現→くだけた表現

面はゆい・気恥ずかしい

くすぐったい・照れくさい

小っ恥ずかしい

.....

【資料1-19】 (1年 P78 P79)

様々な課題と選んだ目標の例

気候変動(世界の平均気温の変化のグラフ)→「13 気候変動に具体的な対策を」

海洋汚染(ポリ袋を食べようとしているウミガメの写真)→「14 海の豊かさを守ろう」

国際協力(JICA Magazine「アフリカと歩む新しい時代」)→「17 パートナースHIPで目標を達成しよう」

生物多様性(日本の絶滅危惧種の表)→「14 海の豊かさを守ろう」「15 陸の豊かさを守ろう」

食品ロス(生産と消費の無駄が世界を減ぼす?)→「12 つくる責任つかう責任」  
共生(ポスターから「ヘルプマークを知っていますか?」)→「11 住み続けられるまちづくりを」

- .....
- 1 貧困をなくそう
  - 2 飢饉をゼロに
  - 3 すべての人に健康と福祉を
  - 4 質の高い教育をみんなに
  - 5 ジェンダー平等を実現しよう
  - 6 安全な水とトイレを世界中に
  - 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
  - 8 働きがいも経済成長も
  - 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
  - 10 人や国の不平等をなくそう
  - 11 住み続けられるまちづくりを
  - 12 つくる責任つかう責任
  - 13 気候変動に具体的な対策を
  - 14 海の豊かさを守ろう
  - 15 陸の豊かさを守ろう
  - 16 平和と公正をすべての人に
  - 17 パートナーシップで目標を達成しよう

国際連合が定めた SDGs(持続可能な開発目標)は、私たちの社会が直面する、さまざまな課題の解決を  
目指している。

.....

【資料1-20】 (1年 P80 上)  
日本十進分類法

- 0 総記
- 1 哲学
- 2 歴史
- 3 社会科学
- 4 自然科学
- 5 技術・工学
- 6 産業
- 7 芸術・美術
- 8 言語
- 9 文学

【資料1-21】 (1年 P80 下)  
(活用の例)

- (1) 検索方法を工夫し、情報を絞り込む。(検索ボックス)
  - ア. キーワードを具体化  
(例) プラスチックごみ→海洋プラスチックごみとは
  - イ. 複数のキーワードで探す (AND 検索)  
(例) プラスチックごみ SDGs
- (2) アドレスの最後の部分から制作者が所属する組織の種類を特定できる。  
(例) 「go.jp」(政府機関など) 「ac.jp」(大学など)
- (3) ウェブサイトの名称・制作者—誰が、どのような情報を発信しているか確認できる。

【資料1-22】 (1年 P85 上)

(ポップの例)



心ふるえる音楽を  
「楽隊のうさぎ」 中沢けい

心にうさぎがすみついた引っ込み思案の克久。吹奏楽部に入部し、音楽の魅力に引きつけられていく。

1年2組 関 正史



【資料1-23】 (1年 P119)



「捨てる」の方言分布(国立国語研究所「日本語地図」を基にしたもの)

すてる、すつるなど□-□北海道日本海側地域の一部、岩手県の一部、関東甲信越地方の一部、新潟県佐渡地方、伊豆大島、北陸東海地方の一部、滋賀県の一部、和歌山県沿岸部、淡路島の一部、兵庫県日本海側地域の一部、中国地方、愛媛県、高知県、徳島県の一部、福岡県の一部、熊本県山間部の一部、対馬・五島列島の一部

うしつる□-□佐賀県、長崎県、熊本県、大分県・宮崎県の一部、福岡県有明海沿岸地域の一部

うっする□-□鹿児島県、宮崎県・大分県・長崎県の一部

していゆん□-□沖縄県

ほーる、ほるなど□-□石川県能登半島の一部、福井県・三重県・和歌山県・京都府・兵庫県の一部、淡路島の一部、香川県、徳島県の一部

ほーかる、ほかるなど□-□北陸東海地方の一部、福岡県の一部

ほーかす、ほかすなど□-□近畿地方、福岡県の一部

なげる、ぶんなげるなど□-□北海道、東北地方、福井県の一部

うっちゃる□-□関東地方、静岡県・愛知県の一部

ぶちやる(ぶちやる) □-□新潟県、長野県、群馬県、山梨県、静岡県の一部



【資料1-24】 (1年 P125) 漢字の音訓 練習問題

1. 次の「 」で示した漢字は同じ漢字である。音の違いに注意して、それぞれの熟語を読もう。

- (1) 「有」益な話、経験の「有」無
- (2) 「砂」糖菓子、土「砂」降り
- (3) 盛「夏」の候、「夏」至の日
- (4) 「相」互作用、首「相」官邸
- (5) 自「己」紹介、十年の知「己」
- (6) 「街」灯がつく時間、長崎「街」道

2. 次の熟語の意味を調べよう。また、「 」の部分の漢字について、文末に示した訓読みを用いて短い文を作ろう。

- (1) 「濃」度が高い(こ\_\_い)
- (2) 号「泣」する(な\_\_く)
- (3) 確定「申」告する(もう\_\_す)
- (4) 所「望」する(のぞ\_\_む)
- (5) 技「巧」をこらす(たく\_\_み)
- (6) 納「涼」祭り(すず\_\_しい)
- (7) 「遮」断機(さえぎ\_\_る)
- (8) 「柔」道部(やわ\_\_らかい)

3. 次の熟語は、同じ漢字を用いる。それぞれを使って短い文を作ろう。

- (1) 「けんぶつ」 「みもの」
- (2) 「たいせい」 「おおぜい」
- (3) 「ふんべつ」 「ぶんべつ」

【資料1-25】 (1年 P126) 漢字に親しもう2

(小学校で習った漢字)

1. 次の言葉を使って、文章を作ろう。

優勝 強敵 鉄棒 体操

(中学校で習う漢字)

2. 次の「 」で示した熟語を読もう。

- (1) 優勝旗を「返還」する。
- (2) 初めての試合で「二塁手」を任される。
- (3) 体操で大技を決め、「喝采」を浴びる。
- (4) 「砲丸」投げの練習に時間を割く。
- (5) 弓道の「審判」を務める。
- (6) 次の試合に勝てば「三連覇」だ。
- (7) 最多得点記録を「更新」する。

3. 次の「 」で示した部分は、同じ漢字である。

(1)

- ア. 海「浜」公園  
イ. 「浜」辺を散歩

(2)

- ア. 優勝に「匹」敵する実力  
イ. 三「匹」の子豚

(3)

- ア. 自信を「喪」失  
イ. 「喪」中はがき

(4)

- ア. 「酢」酸ナトリウム  
イ. 黒「酢」の料理

(5)

- ア. 光「沢」のある生地  
イ. 「沢」登り用のシューズ

(6)

- ア. 「曇」天  
イ. 花「曇」り

(7)

- ア. 神「宮」  
イ. 「宮」大工

【資料1-26】 (1年 P246・247)

P246

妹が歌う。

妹が(主語 誰が) 歌う(述語 どうする)

星空が美しい。

星空が(主語 何が) 美しい(述語 どんなだ)

P247

妹がほがらかに歌う。

ほがらかに（修飾語 どのように）→歌う（どうする）

色あせた写真は祖母の宝物だ。

色あせた（修飾語 どのような）→写真は（何）

祖母の（修飾語 誰の）→宝物だ（何）

【資料 1-27】（1年 P250）

今朝、野鳥が初めて巣箱に入った。

今朝（修飾語）・野鳥が（主語）・初めて（修飾語）・巣箱に（修飾語）→に入った（述語）

今朝、僕は、野鳥が巣箱に入るのを見た。

今朝（修飾語）・僕は（主語）・野鳥が巣箱に入るのを（修飾部）→見た（述語）

野鳥が（主語）・巣箱に（修飾語）→入るのを（述語）

黒い鳥が赤い実をついばむのを見た。

黒い鳥が赤い実をついばむのを（修飾部）→見た（述語）

黒い（修飾語）→鳥が

赤い（修飾語）→実を

黒い鳥が（主部）・赤い実を（修飾部）→ついばむのを（述語）

【資料 1-28】（1年 P253）

品詞の分類



「自立語で活用する」→述語になる（用言）

- 1. ウ段で終わる一動詞

動作・作用・存在を表す。

（例）歌う・ある

- 2. 「い」で終わる一形容詞

状態・性質を表す。

（例）楽しい・美しい

- 3. 「だ・です」で終わる一形容動詞

状態・性質を表す

（例）変だ・きれいだ

「自立語で活用しない」

- 4. 主語になる（体言）一名詞

人・物・事柄などを表す

（例）生徒・犬・机・それ

- 5. 主に連用修飾語になる一副詞

主に用言を修飾する

（例）ゆっくり・もし

- 6. 連体修飾語になる一連体詞

体言だけを修飾する

（例）この・大きな

- 7. 接続語になる一接続詞

主に文と文をつなぐ

（例）だから・しかし

- 8. 独立語になる一感動詞

感動・呼びかけ・応答を表す

(例) あら・はい

「付属語で活用する」

9. 助動詞

(例) たい・た・です

「付属語で活用しない」

10. 助詞

(例) が・わ・を・に

.....

【資料1-29】 (1年P257) 小学校6年生で学習した漢字

1. 次の「 」で示した部分の漢字は6年生で学習した漢字である。

※以下該当の漢字部分は、「 」を付けて示す。

2. 次の熟語は漢字のしりとりになっている。

- (1) 頭「痛」→痛「切」→切「除」→除「去」→去「就」→就職
- (2) 批「評」→評「価」→価「値」→値「段」→段「階」→階層
- (3) 独「創」(的)→創「意」→意「欲」→欲「望」→望「郷」→郷土
- (4) 同「盟」(国)→盟「主」→主「体」→体「操」→操「作」→作詞(家)

3. 次の四字熟語の意味を調べよう。

- (1) 大同小異
- (2) 四捨五入
- (3) 聖人君子
- (4) 大器晩成

4. 次の1.～7.の言葉の「 」と( )で示した部分は、同じ音であるがそれぞれ異なる漢字である。

- (1) 百「科」事(典)      金「貨」      晴(天)
- (2) 「警」察(署)      尊「敬」語      伊豆(諸)島
- (3) 「水」(蒸)気      「垂」直線      権利(条)約
- (4) 「向」(上)心      「鋼」鉄製      健康(状)態
- (5) 「展」(覧)会      「転」勤する      混(乱)
- (6) 「裁」判(官)      返「済」方法      立て(看)板
- (7) 「延」長(戦)      「浴」道に立つ      (宣)伝

5. 次の「 」で示した熟語の意味を調べよう。

- (1) 「証明」問題
- (2) 実験「装置」
- (3) 「拡張」工事
- (4) 「閣議」決定
- (5) 「圧縮」空気

6. 次の二つの熟語について「 」で示した部分はそれぞれ異なる漢字である。

- (1) ア. 友人関「係」      イ. 電気「系」統
- (2) ア. 参「考」意見      イ. 親「孝」行
- (3) ア. 列島「縦」断      イ. 「従」属関係
- (4) ア. 職場「訪」問      イ. 「方」向感覚
- (5) ア. 期「間」限定      イ. 「簡」単な問題

(6) ア. 需要と「供」給 イ. 公「共」施設

7. 次の語句について、「 」で示した部分は同じ漢字である。

- (1) 星「座」占い 「座」席 「座」談会 正「座」する
- (2) 検「討」事項 「討」議する 「討」論する 平家追「討」
- (3) 負「傷」者 「傷」害事件 「傷」心の日々 中「傷」記事
- (4) 単「純」作業 「純」白 「純」情な 清「純」な
- (5) 興「奮」する 「奮」起する 「奮」戦する 発「奮」する
- (6) 参「拝」する 「拝」見する 「拝」借する 礼「拝」する
- (7) 植「樹」する 「樹」氷 「樹」木 果「樹」園
- (8) 景気後「退」 「退」任する 「退」出する 辞「退」する
- (9) 強「敵」 「敵」地 「敵」意 宿「敵」

【資料1-30】 (1年 P286) 文章の推敲

(書き方の形式)

1. 題名は、最初の1行目に、5マス目または7マス目から書く。
2. 氏名は、題名の次の行の行末か、行末が1、2マス空くように書く。
3. 書き出しや段落の始めは、3マス目から書き始める。
4. 会話文は、原則として行を替え、第一カギで囲んで書く。
5. 句読点や会話を閉じるカギなど、ひと続きに書くべき語句や符号がその行に入りきらないときには、行移しをして書く。

【資料1-31】 (1年 P336 全学年共通)

常用漢字表 付表

- 「明日」－「めい みょう (あ\_\_かり あか\_\_るい あか\_\_るむ あか\_\_らむ あき\_\_らか  
あ\_\_ける あ\_\_く あ\_\_くる あ\_\_かす)」 「にち じつ (ひ か)」
- 「小豆」－「しょう (ちい\_\_さい こ お)」 「とう ず (まめ)」
- 「海女」－「かい (うみ)」 「じょ によ によう (おんな め)」
- 「海士」－「かい (うみ)」 「し (さむらい)」
- 「硫黄」－「りゅう」 (いおう) 「こう おう (き こ)」
- 「意気地」－「い (こころ) 「き け」 (「気持ち」の「き）」 「ち じ」 (つち)
- 「田舎」－「でん (た)」 「しゃ」 (やどる)
- 「息吹」－「そく (いき)」 「すい (ふ\_\_く)」
- 「海原」－「かい (うみ)」 「げん (はら)」
- 「乳母」－「にゅう (ちち ち)」 「ぼ (はは)」
- 「浮気」－「ふ (う\_\_く う\_\_かれる う\_\_かぶ う\_\_かべる)」  
「き け」 (「気持ち」の「き」)
- 「浮」つく－「ふ (う\_\_く う\_\_かれる う\_\_かぶ う\_\_かべる)」
- 「笑顔」－「しょう (わら\_\_う え\_\_む)」 「がん (かお)」
- 「叔父」－「しゅく」 (父母の年下のきょうだい) 「ふ (ちち)」
- 「伯父」－「はく」 (父母の年上のきょうだい) 「ふ (ちち)」
- 「大人」－「だい たい (おお おお\_\_きい おお\_\_いに)」 「じん にん (ひと)」
- 「乙女」－「おつ (わかい) 「じょ によ みょう (おんな め)」
- 「叔母」－「しゅく」 (父母の年下のきょうだい) 「ぼ (はは)」
- 「伯母」－「はく」 (父母の年上のきょうだい) 「ぼ (はは)」
- お「巡」りさん－「じゅん (めぐ\_\_る)」
- お「神酒」－「しん じん (かみ かん こう)」 「しゅ (さけ さか)」
- 「母屋」－「ぼ (はは)」 「おく (や)」
- 「母家」－「ぼ (はは)」 「か け (いえ や)」
- 「母」さん－「ぼ (はは)」

「神楽」－「しん じん (かみ かん こう)」 「がく らく (たの\_\_しい たの\_\_しむ)」  
「河岸」－「か (かわ)」 「がん (きし)」  
「鍛冶」－「たん (きた\_\_える)」 「や」 (いもの)  
「風邪」－「ふう ふ (かぜ かざ)」 「じゃ」 (よこしまな)  
「固唾」－「こ (かた\_\_める かた\_\_まる かた\_\_い)」 「だ (つば)」  
「仮名」－「か け (かり)」 「めい みょう (な)」  
「蚊帳」－「(か)」 (こんちゅう) 「ちょう」 (とぼり)  
「為替」－「い」 (ため、なす) 「たい (か\_\_える か\_\_わる)」  
「河原」－「か (かわ)」 「げん (はら)」  
「川原」－「せん (かわ)」 「げん (はら)」  
「昨日」－「さく」 (前の日) 「にち じつ (ひ か)」  
「今日」－「こん きん (いま)」 「にち じつ (ひ か)」  
「果物」－「か (は\_\_たす は\_\_てる は\_\_て)」 「ぶつ もつ (もの)」  
「玄人」－「げん」 (「げんまい」の「げん」) 「じん にん (ひと)」  
「今朝」－「こん きん (いま)」 「ちょう (あさ)」  
「景色」－「けい」 (かげ) 「しょく しき (いろ)」  
「心地」－「しん (こころ)」 「ち じ」 (つち)  
「居士」－「きよ (い\_\_る)」 「し」 (さむらい)  
「今年」－「こん きん (いま)」 「ねん (とし)」  
「早乙女」－「そう さつ (はや\_\_い はや\_\_まる はや\_\_める)」 「おつ」 (わかい)  
「じよ によ によ\_\_ (おんな め)」  
「雑魚」－「ぞつ ぞう」 「ぎよ (うお さかな)」  
「栈敷」－「さん」 (かけはし) 「ふ (し\_\_く)」  
差し「支」える－「し (さき\_\_える)」  
「五月」－漢数字の「5」 「げつ がつ (つき)」  
「早苗」－「そう さつ (はや\_\_い はや\_\_まる はや\_\_める)」 「びょう (なえ なわ)」  
「五月雨」－漢数字の「5」 「げつ がつ (つき)」 「う (あめ あま)」  
「時雨」－「じ (とき)」 「う (あめ あま)」  
「尻尾」－「(しり)」 「び (お)」  
「竹刀」－「ちく (たけ)」 「とう (かたな)」  
「老舗」－「ろう (お\_\_いる ふ\_\_ける)」 「ほ (みせ)」  
「芝生」－「(しば)」 (稲科の植物) 「せい しょう (い\_\_きる い\_\_かす い\_\_ける  
う\_\_まれる う\_\_む お\_\_う は\_\_える は\_\_やす き なま)」  
「清水」－「せい しょう (きよ\_\_い きよ\_\_まる きよ\_\_める)」 「すい (みず)」  
「三味線」－漢数字の「3」 「み (あじ あじ\_\_わう)」 「せん」 (すじ)  
「砂利」－「さ しゃ (すな)」 「り (き\_\_く)」  
「数珠」－「すう す (かず かぞ\_\_える)」 「しゅ」 (たま)  
「上手」－「じょう しょう (うえ うわ かみ あ\_\_げる あ\_\_がる のぼ\_\_る のぼ\_\_せる  
のぼ\_\_す)」 「しゅ (て た)」  
「白髪」－「はく びやく (しろ しら しろ\_\_い)」 「はつ (かみ)」  
「素人」－「そ す」 「じん にん (ひと)」  
「師走」－「し」 (せんせい) 「そう (はし\_\_る)」  
「数寄屋」－「すう す (かず かぞ\_\_える)」 「き (よ\_\_る よ\_\_せる)」 「おく (や)」  
「数奇屋」－「すう す (かず かぞ\_\_える)」 「き (めずらしい、すぐれている)  
「おく (や)」  
「相撲」－「そう しょう (あい)」 「ぼく」 (うつ、なぐる)  
「草履」－「そう (くさ)」 「り (は\_\_く)」  
「山車」－「さん (やま)」 「しゃ (くるま)」  
「太刀」－「たい た (ふと\_\_い ふと\_\_る)」 「とう (かたな)」  
立ち「退」く－「たい (しりぞ\_\_く しりぞ\_\_ける)」  
「七夕」－漢数字の「7」 「せき (ゆう)」  
「足袋」－「そく (あし た\_\_りる た\_\_る た\_\_す)」 「たい (ふくろ)」

「稚児」－「ち」（わかい、おさない） 「じ に」  
「一日」－漢数字の「1」 「にち じつ （ひ か）」  
「築山」－「ちく （きずく）」 「さん （やま）」  
「梅雨」－「ばい （うめ）」 「う （あめ あま）」  
「凸凹」－「とつ」（でっぱり） 「おう」（へこみ）  
「手伝」う－「しゅ （て た）」 「でん （つたわる つたえる つたう）」  
「伝馬船」－「でん （つたわる つたえる つたう）」 「ば （うま ま）」  
「せん （ふね ふな）」  
「投網」－「とう （なげる）」 「もう （あみ）」  
「父」さん－「ふ （ちち）」  
「十重二十重」－漢数字の「10」 「じゅう ちょう （え おもい かさねる かさなる）」  
漢数字の「2」 漢数字の「10」 「じゅう ちょう （え おもい かさねる  
かさなる）」  
「読経」－「どく とく とう （よむ）」 「けい きょう （へる）」  
「時計」－「じ （とき）」 「けい （はかる はからう）」  
「友達」－「ゆう （とも）」 「たつ」（複数の意味）  
「仲人」－「ちゅう （なか）」 「じん にん （ひと）」  
「名残」－「めい みょう （な）」 「ざん （のこる のこす）」  
「雪崩」－「せつ （ゆき）」 「ほう （くずれる くずす）」  
「兄」さん－「けい きょう （あに）」  
「姉」さん－「し （あね）」  
「野良」－「や （の）」 「りょう （よい）」  
「祝詞」－「しゅく しゅう （いわう）」 「し」（ことば）  
「博士」－「はく ぼく」（ひろい） 「し」（さむらい）  
「二十」－漢数字の「2」 漢数字の「10」  
「二十歳」－漢数字の「2」 漢数字の「10」 「さい せい」  
「二十日」－漢数字の「2」 漢数字の「10」 「にち じつ（ひ か）」  
「波止場」－「は （なみ）」 「し （とまる とめる）」 「じょう （ば）」  
「一人」－漢数字の「1」 「じん にん （ひと）」  
「日和」－「にち じつ（ひ か）」 「わ お （やわらぐ やわらげる なごむ  
なごやか）」  
「二人」－漢数字の「2」 「じん にん （ひと）」  
「二日」－漢数字の「2」 「にち じつ（ひ か）」  
「吹雪」－「すい （ふく）」 「せつ （ゆき）」  
「下手」－「か げ （した しも もと さげる さがる くだる くだす くださる  
おろす おりる）」 「しゅ （て た）」  
「部屋」－「ぶ」（くぶん） 「おく（や）」  
「迷子」－「めい （まよう）」 「し す（こ）」  
「真面目」－「しん（ま）」 「めん（おも おもて つら）」 「もく ぼく（め ま）」  
「真っ赤」－「しん（ま）」 「せき しゃく（あか あかい あからむ あからめる）」  
「真っ青」－「しん（ま）」 「せい しょう（あお あおい）」  
「土産」－「ど と（つち）」 「さん（うむ うまれる うぶ）」  
「息子」－「そく（いき）」 「し す（こ）」  
「眼鏡」－「がん げん（まなこ）」 「きょう（かがみ）」  
「猛者」－「もう」（たけし） 「しゃ（もの）」  
「紅葉」－「こう く（べに くない）」 「よう（は）」  
「木綿」－「ぼく もく（き こ）」 「めん（わた）」  
「最寄」り－「さい（もっとも）」 「き（よる よせる）」  
「八百長」－漢数字の「8」 漢数字の「百」 「ちよう（ながい）」  
「八百屋」－漢数字の「8」 漢数字の「百」 「おく（や）」  
「大和」－「だい たい（おお おおきい おおいに）」  
「わ お（やわらぐ やわらげる なごむ なごやか）」

「弥生」－「や」（数の多いこと） 「せい しょう（い\_\_きる い\_\_かす い\_\_ける う\_\_まれる  
 う\_\_む お\_\_う は\_\_える は\_\_やす き なま）」  
 「浴衣」－「よく（あ\_\_びる あ\_\_びせる）」 「い（ころも）」  
 「行方」－「こう ぎょう あん（い\_\_く ゆ\_\_く おこな\_\_う）」 「ほう（かた）」  
 「寄席」－「き（よ\_\_る よ\_\_せる）」 「せき」（座る場所）  
 「若人」－「じゃく にやく（わか\_\_い も\_\_しくは）」 「じん にん（ひと）」

【資料1-32】（1年 P131）

表1～3 反応したシジュウカラ（全14羽中）

.....

表1「ジャージャー」

地面を確認	14
巣箱をのぞく	4
左右を警戒	1

.....

表2「ピーツピ」

地面を確認	0
巣箱をのぞく	0
左右を警戒	12

.....

表3 鳴き声なし

地面を確認	1
巣箱をのぞく	0
左右を警戒	0

.....

【資料1-33】（1年 P133）

表4 鳴き声による反応の違い（全12羽中）

.....

へびに似た動きをする小枝を見せながら、3種類の鳴き声を聞かせた。

（小枝に接近したシジュウカラ）

ジャージャー	11
ピーツピ	1
ヂヂヂヂヂ	2

.....

【資料1-34】（1年 P133）

表5 小枝の動きによる反応の違い（全12羽中）

.....

「ジャージャー」という鳴き声をきかせながら、小枝の動かし方を変えて見せた。

（小枝に接近したシジュウカラ）

へびに似た動き	11
へびに似ていない動き	1

.....

【資料1-35】 (1年 P134)

表6 研究により判明した、シジュウカラの鳴き声と意味 (一部)

.....

鳴き声——ツツピー ツツピー (さえずり)  
発する状況——春先に繁殖のための縄張りを作るとき (鳴くのはオスのみ)  
鳴き声に対する反応——オス 縄張り争い メス オスの魅力の評価  
意味——縄張りに入るな。つがいになろう。

鳴き声——ピーツピ  
発する状況——カラスやネコを発見  
鳴き声に対する反応——周囲を確認  
意味——警戒しろ。

(以下同様に)

.....

【資料1-36】 (1年 P137)

(文章の展開の例)

.....

(事実)

実験や観察の結果  
・・・異なるしぐさを「示しました」。  
・・・はほとんど「いませんでした」。  
・・・の「結果となりました」。

(検討すること)

根拠となる事実  
事実の解釈に無理はないか。  
事実と意見が確かに結び付くか。

(意見)

結果に基づく解釈・考察  
・・・と「考えられます」。  
つまり、・・・と「解釈できます」。  
ここから、・・・と「結論づけられます」。

.....

【資料1-37】 (1年 P139)

(「理由づけ」によっては、同じ「根拠」から、異なる「意見」が導かれることもある例)

.....

根拠——正確で客観的な事実  
「猫は、散歩をさせなくてもよい。」

Aさんの意見——探偵は、犬より猫を飼うべきだ。  
理由づけ——仕事で家を空けることが多い探偵は、毎日散歩をさせるのが難しいから。

Bさんの意見——探偵は、猫より犬を飼うべきだ。  
理由づけ——体力のいる探偵は、毎日犬と散歩して体をきたえたほうがよいから。

.....

【資料1-38】 (1年 P141)

(統計資料の引用の例)

.....

(資料1) 年代別「敷居が高い」意味の理解

文化庁「令和元年国語に関する世論調査」(2020年)を基に作成。

「敷居が高い」の意味はどちらだと思うか (単位は%)

- (あ) 相手に不義理などをしてしまっていて行きにくい
- (い) 高級すぎたり上品すぎたりして入りにくい
- (う) どちらも使う

	(あ)	(い)	(う)
16~19歳	12.4	78.4	6.2
20代	8.5	82.4	6.3
30代	10.5	81.1	7.5
40代	23.4	69.7	5.7
50代	33.2	50.3	15.2
60代	38.3	43.3	17.4
70歳以上	40.3	38.6	15.7

.....

【資料1-39】 (1年 P142)

(資料1)

.....

☆表中の、「相手に」は「相手に不義理などをしてしまっていて行きにくい(本来の意味)」を、「高級」は「高級すぎたり上品すぎたりして入りにくい」を表す。

国語辞典	「相手に」	「高級」
A辞典	まる	まる
B辞典	まる	誤りとされる
C辞典	まる	記述なし

.....

【資料1-40】 (1年 P144~145)

.....

(資料ア) 言葉づかいに関する調査

文化庁「令和2年度国語に関する世論調査」(2021年)を基に作成。

次の二つの言い方のうち、あなたが普通使うものはどちらですか。(%)

- ア. の言い方を使う
- イ. の言い方を使う
- 無回答

1. 「れる」と「られる」

(1)

ア. こんなにたくさんは「食べられない」。 65.2

イ. こんなにたくさんは「食べれない」。 33.4

(2)

- ア. 朝5時に「来られますか」。 46.4
  - イ. 朝5時に「来れますか」。 52.2
- (3)
- ア. 彼が来るなんて「考えられない」。 93.8
  - イ. 彼が来るなんて「考えれない」。 4.9

2. 「やる」と「あげる」  
 (1. と同様に表の形で掲載。)

.....

(資料イ) 将来つきたい職業が決まっている中学1年生の、  
 その職業につきたい理由(複数回答 単位は%)  
 厚生労働省「第13回21世紀出生児縦断調査(平成13年出生児)」(2014年)を基に作成。

☆つきたい職業が決まっている生徒の割合(%)  
 男女計 47.9  
 男子 41.9  
 女子 54.3

自分の興味や好みに合っているから 78.3  
 自分の能力や適性が生かせるから 41.3  
 (以下も同様に表の形式で掲載。)

.....

(資料ウ) 中学生の生活時間(週全体の平均)  
 総務省「令和3年社会生活基本調査」(2022年)を基に作成。

(生理的な活動)  
 睡眠 8時間24分  
 食事 1時間26分  
 (社会的な活動)  
 学業 5時間57分  
 通学 36分  
 (自由時間)  
 テレビ・新聞など 42分  
 スポーツ 37分  
 趣味・娯楽 1時間1分

.....

(資料エ) 中学生の5月1か月間の平均読書冊数の推移  
 全国学校図書館協議会他「学校読書調査」を基に作成。

(年)	冊数(冊)
2000	2.1
2005	2.9
2010	4.2
2015	4.0
2021	5.3
2022	4.7

.....

【資料1-41】(1年 P146 下)

3. 次の「 」で示した部分は同じ音をもつ異なる漢字である。読んでみよう。
- (1) ア. 「披」露宴    イ. 「彼」岸花
  - (2) ア. 「魔」法使い    イ. 「摩」擦熱

- (3) ア. (歴史上の)「史」実 イ. 要「旨」をまとめる
- (4) ア. 「黄」砂が舞い上がる イ. 「肯」定する
- (5) ア. 図を「挿」入する イ. 清「掃」する
- (6) ア. 「陪」審員 イ. 情報「媒」体
- (7) ア. 「仲」介する イ. 「駐」車場

【資料1-42】 (1年 P152~153 上)



紀元前

- (中国) 論語—— (1)
- (中国) 故事成語 (「矛盾」など) —— (2)

奈良時代

古事記

日本書紀

- (中国) 漢詩 (「春暁」など) —— (3)
- 万葉集—— (4)

平安時代

竹取物語—— (5)

古今和歌集—— (6)

伊勢物語

土佐日記

枕草子—— (7)

源氏物語—— (8)

更級日記

(以下同様に)



(漢文・漢詩の世界)

- (1) 論語——中国古代の思想家……。 (3年)
- (2) 故事成語——中国の古典に由来する……。 (1年)
- (3) 漢詩——中国、唐代の詩にふれ……。 (2年)

(和歌の世界)

- (4) 万葉集 (6) 古今和歌集 (9) 新古今和歌集——季節の移り変わり……。 (3年)
- (以下同様に)

【資料1-43】 (1年 P156)

(主な登場人物)



かぐや姫—3か月後には大人になった。

竹取の翁・媼—育ての親

五人の貴公子—かぐや姫に求婚。かぐや姫は五人の貴公子に難題を出す。(貴公子たちの失敗談)

帝—かぐや姫に求婚。かぐや姫と帝は文通する。



【資料1-44】 (1年 P174)

漢文を読む

「矛盾」の故事を収めた「韓非子」は、中国の古典であり、原文は漢字だけで縦に記されている。漢字だけで書かれた中国の文章（漢文）を、日本語として読むことを「訓読」という。

訓読の方法

漢字だけで書かれた原文（「白文」という）に、送り仮名や句読点、読む順序を表す返り点を補い、日本語として読めるようにする。古典の言葉・仮名遣いを用いる。

1. 送り仮名\_\_漢字の送り仮名だけでなく、「て に を は (わ)」などを補う。歴史的仮名遣いを用いる。
2. 返り点\_\_読む順序を表す記号。漢字の並びを日本語の語順に入れ替えるときに使う。
  - (1) レ点一下の一字から、すぐ上の一字に返って読む。
  - (2) 1・2点一二字以上隔てて、上に返って読む。
3. 句読点：読点（、）句点（。）など。原文の句や文の切れ目に補う。

漢文を訓読し、次のように書き改めたものを「書き下し文」という。  
なお、点字では、「書き下し文」で学習する。

（書き下し文の例）

之を誉めて曰く、「吾が盾の堅きこと、能く陥すもの莫きなり。」と。

【資料1-45】 （1年 P185）  
（要約のしかたを考える）



要約の目的・相手  
分量（文字数 マス数）  
→ 必要な情報

キーワード\_\_文中に繰り返し出てくる言葉  
キーセンテンス\_\_  
段落の中心となる文。段落の最初か最後にあることが多い。  
「つまり」「以上のことから」などの言葉も手がかりになる。

要約——キーワードやキーセンテンスを中心にまとめる。



【資料1-46】 （1年 P186）  
原因と結果を時間の経過によって整理した例



（原因1）

町民向けの割引券を公園の入り口で配布した。  
公園の前に自転車を止める人が多かった。

（結果1）

公園の前が混雑した。

（原因2）

公園の前が混雑した。

（結果2）

子どもたちが迷子になった。  
公園の花壇が踏み荒らされた。



【資料1-47】 （1年 P194~195）

グループで話し合う

（話題と目的を確認し、意見を述べる）

高木（進行役） 「（1）私が見つけた『不便益』」について語り合います。  
目的は、自分の考えを広げることです。（2）まずは一人ずつ自分が  
考えた『不便益』を挙げていきましょう。田村さんから時計回りにどうぞ。

田村 はい。僕は、鉛筆かな。

（以下同様に）

（話題や展開を捉えて話し合うための確認事項）

- （1）話題と目的を確認。（p○ 1○）
- （2）まずはひととおり意見を聞くなど、話しやすい雰囲気を作る。（p○ 1○）  
☆意見と根拠、その二つを結びつける理由を明確に述べる。
- （3）意見1の根拠（p○ 1○）
- （4）意見1の理由付け（p○ 1○）
- （5）意見1（p○ 1○）
- （6）意見2（p○ 1○）
- （7）意見2の根拠（p○ 1○）
- （8）意見2の理由づけ（p○ 1○）
- （9）必要に応じて、定義に戻って検討する。（p○ 1○）

（以下同様に）

（ノートやメモに意見をまとめた例）

（鉛筆）

削る必要あり（不便）—短くなる—勉強した実感（不便益）、がんばりが目に見えてわかる（不便益）  
削る必要あり（不便）—芯の太さを調整できる（不便益）

（シャープペンシル）

押せば芯が出る（便利）

【資料1-48】（1年 P197）

（筆者が調べた海の動物の平均速度）（時速）

ニシオンデンザメ 800m  
シャチ 5,000m  
マグロ 7,000m  
サケ 2,700m  
（参考） ヒト（歩行） 4,800m

【資料1-49】（1年 P221）

（「語り手」の視点 「少年の日の思い出」の場合）

「前半」 現在

語り手（「私」） 「客は夕方の散歩から…」

☆前半と後半で語り手の変更

「後半」 客（僕）の回想

語り手（「僕」） 「僕は、八つか九つのとき、…」

【資料1-50】 (1年 P222 下)

3. 次の空欄に合う熟語をあとから選び、四字熟語を作ろう。また、できた四字熟語を読もう。

- (1) 試行
- (2) 一目
- (3)  自在
- (4) 全身
- (6) 首尾
- (6)  無稽

全霊 変幻 瞭然 荒唐 錯誤 一貫

【資料1-51】 (1年 P223)

.....

美術館 海辺 自転車 りんご 弁当 私 絵画  
 とても ゆっくり  
 あの  
 そして  
 ああ  
 見る 行く 食べる 乗る  
 おいしい 赤い  
 元気だ 静かだ  
 に を で の が わ  
 ます たい た

.....

【資料1-52】 (1年 P229)

(伝えたいこと——生まれたばかりの弟が家に来た日の思い)

.....

「書き出すこと」

事実—いつ どこで 会話 五感 情景など  
 当時の思い—その体験の最中に思っていたこと・感じていたこと  
 現在の視点—捉え直すことで気づいた、体験の意味や価値。新たに考えたこと

(導入 簡単な説明)

事実—小学校二年生の初夏。生まれたばかりの弟が家に来る。  
 現在の視点—今でも鮮明に覚えている。

(具体的な体験談)

事実(1)—大好きな給食も、食べるのがやっと。  
 当時の思い(1)—そんな自分にとまどう。  
 現在の視点(1)—胸がいっぱいと食べられないことを初めて実感。

事実(2)—帰り道。全速力。  
 当時の思い(2)—地面をけってもけっても前に進まない。

.....

(意味づけ)

現在の視点——あの日のことを思い出すとおだやかな気持ち。何かを待ちわびる幸せな時間。

.....

【資料1-53】 (1年 P232 下) **太字**は点線文字

漢字の成り立ちには、「象形」「指事」「会意」「形声」とよばれるものがある。

(1) 象形—物の形をかたどって、その物を表す。

(例)ば(うま)

**馬**

(2) 指事—抽象的な事柄を、記号やその組み合わせで表す。

(例)ジョウ(うえ) カ(した)

**上**

**下**

(3) 会意—二つ以上の字を組み合わせて、新しい意味を表す。

(例)き き りん(はやし)

**木 木 → 林**

くち とり めい(な\_\_く)

**口 鳥 鳴**

(4) 形声—二字を組み合わせて、一方で音、他方で意味を表す。音を表す部分を「音符」、意味を表す部分を「意符」とよぶ。音符は音だけでなく、意味を表す場合もある。

(例)意符 音符 どう

**金 同 銅**

意符 音符 せい

**シ 青 清**

「どう」の漢字は、左の「かねへん」が金属を表す意符であり、右の「どう」が音符である。

「せい」の漢字は、左の「さんずい」が意味を表す水の意符であり、右の「せい(あお)」が音を表す音符であると同時に、「澄みきっている」という意味も表す。

【資料1-54】 (1年 P233 上) **太字**は点線文字

(例)

ひ た はたけ(はた)

**火 田 → 畑**

やま うえ した とうげ

**山 上 下 → 峠**

【資料1-55】 (1年 P233 下)

(練習問題)

1. 次の「 」で示した部分の漢字の成り立ちは、それぞれ( )に示したとおりである。

- (1) 「月」曜日(象形)
- (2) 「狩」りをする(形声)
- (3) 「本」棚(指事)
- (4) 一級「河」川(形声)
- (5) 年「末」(指事)
- (6) 「利」益(会意)

2. 次の「 」で示した部分の漢字は、会意文字である。読んでみよう。

- (1) 「岩」石
- (2) 「明」暗を分ける
- (3) 子「孫」繁栄
- (4) 通「信」手段

3. 次の「 」で示した部分の漢字は異なる漢字であるが、共通する音符を持っている。読んでみよう。

- (1) 炊「飯」器 黒「板」 「販」売員
- (2) 「干」ばつ 「肝」臓 発「汗」(汗が出る)
- (3) 「輸」出 「愉」快 教「諭」
- (4) 「河」川敷 幾「何」学 「苛」烈
- (5) 「伯」爵 「拍」手 宿「泊」

【資料1-56】 (1年 P235 下)  
「学びのサイクル」

- .....
- (これまでの学び) → 見通しを持つ
  - 実行する・試行錯誤する
  - 振り返る(振り返る・価値づける・展望する)
  - 次の学びへ

(振り返りのステップ)  
振り返る—学習活動を思い起こし……  
価値づける—身につけた力が、他の場面で……  
展望する—学んだことを、今後どう……

【資料1-57】 (1年 P236 下)  
(発表用資料の例)

.....

(発表用資料1)  
「ルビンのつぼ」(絵は省略)

(発表用資料2)  
1. 優勝カップのような形をしたつぼ  
働き—形状をわかりやすく伝える。

【資料2-1】 (2年 P28)  
漢字に親しもう1  
(新しく習う漢字)

1. 次の「 」で示した言葉を読もう。
- (1) 学級委員に「推薦」する。
  - (2) クラス全員の「名簿」を作成する。
  - (3) アンケートに「記入欄」を設ける。
  - (4) 体育祭で選手「宣誓」をする。
  - (5) 「原稿用紙」に清書する。
  - (6) 「将棋」の大会で優勝する。
  - (7) 要点を「箇条書き」でまとめる。

2. 次の「 」で示した部分はそれぞれ同じ音をもつ異なる漢字である。

(1)

ア. 「携」帯電話

イ. 拝「啓」 お元気ですか。

(2)

ア. 「租」税を支払う。

イ. 「阻」止する。

(3)

ア. 王「冠」をかぶる。

イ. 注意「喚」起する。

(4)

ア. 「奉」仕する。

イ. 最高「峰」

(5)

ア. 「浸」透する。

イ. 「紳」士服

(新しく習う音訓)

3. 次の「 」で示した部分は同じ漢字である。読みの違いに注意して、それぞれの熟語を読もう。

(1) 要「素」 「素」顔

(2) 「仮」面 「仮」病

(3) 散「歩」する 「歩」合

(4) 「早」朝 「早」速

(5) 「経」済 写「経」

(6) 東「京」 「京」阪神

(7) 指「示」 図「示」

(8) 「仁」義 「仁」王像

(9) 「拾」得物 金「拾」万円

(10) 「精」密 「精」進

【資料 2－2】 (2年 P29)

(整理した例)

.....

(テーマ)

学校図書館の利用者を増やすために、雑誌を置くべきか。

水島さん

立場－反対

意見－雑誌を置いても、利用者の増加にはつながらない。

根拠－学校読書調査報告(2021)...

評価－...

今西さん

立場－賛成

意見－雑誌を置けば、利用が増えると思う。

根拠－写真やイラストが多い。...

評価－...

.....

【資料 2－3】 (2年 P31)

単語は、次の観点によって、自立語と付属語に分けられる。

1. 単独で文節を作れるかどうか

次の単語は、全て自立語である。

きらきら 速い 走る 車 あらゆる

さらに、自立語は、次の観点によって

分類することができる。

2. 後に付く語によって形が変わる（活用する）かどうか

3. 主語・述語・修飾語など、どんな文の成分になるか

(例)

(形が変わらない)

山 家 空気 車—主語になる

きっと この 少し きらきら あらゆる—修飾語になる

(形が変わる)

話す 多い 静かだ 速い 走る—述語になる

【資料2-4】 (2年P33)

(資料を活用する)

.....

(相手) ...クラスのみんな

(話題) ...ICT活用の心構え(標語)

(目的) ...他の人の文章を「コピペ」して使うときの留意点を共有する

スライド1 (情報が焦点化されにくい)

.....

2年2組のアンケート結果より

1. 他の人の文章などを「コピペ」したことがある。

したことがある 33名(94.3%)

したことがない 2名(5.7%)

2. 「コピペ」した情報を利用するときに注意していること  
出典を示す。

引用した部分をかぎ(「」)でくくる。

特に注意していることはない。

.....

スライド2 (情報が焦点化される)

.....

現状分析1

他の人の文章などを「コピペ」したことがある。

ある 33名(94.3%)

ない 2名(5.7%)

2年2組アンケート結果より(円グラフ)

.....

(資料作成のポイント)

1. 1枚のスライドに一つの事柄を書く。(情報を焦点化する。)
2. 配列に注意する。(情報に軽重をつける。)
3. 数値は表などで示す。
4. 引用の際は出典を明記する。

(資料提示のポイント)

重要なこと、注目してほしい部分をきわ立たせる。

→声の大きさや間の取り方、抑揚などを工夫する。

→動作や表情で聞き手の注意を引きつける。

.....

【資料2-5】 (2年P34)

(進行案の例)

.....

(提示資料1) あなたは「コピペ」をしたことがありますか。

(提示資料2) 現状分析1 ...他の人の文章などを「コピペ」したことがある。(2年2組アンケート結果より)

(提示資料3) 現状分析2 ...「コピペ」した情報を利用するときに注意していること(2年2組アンケート結果より)

出典を示す。

引用した部分をかぎ(「」)でくくる。

特に注意していることはない。

(提示資料4) 「コピペ」するときの心得は?

(提示資料5) コピペしたその文章はお客様

.....

提示資料-プレゼンテーションソフトやフリップなどを使って作成する。  
1枚に入れる文字量は、5行×15字程度(墨字)を目安にする。

.....

(話すこと・伝え方)

1. 導入(野口) (1分)

問いかけて注意を引きつける。

「コピペ」の定義と略語であることを確認。

特に他の人の著作物を利用するときには要注意。大切なのは著作権のルールを守ること。

2. 現状分析1(田中) (2. 3. で1分30秒)

2年2組で、「他の人の文章などを『コピペ』したことがある」人の割合を発表。

多くの人が、「コピペ」の機能を使っていることを確認。

3. 現状分析2(岸)

「特に注意していることはない。」という回答に注目させる。

他人の意見を自分の意見のようにして発信するのは問題。

→引用部分は最小限にして、かぎでくくり、出典を明記。

→しっかり区別するのが大事。

4. 標語発表1(水島) (4. 5. で1分30秒)

問いかけだけを、スライドに示す。

「『コピペ』の機能は手軽で便利。でも、使い方には気をつけて!」という決めぜりふ。

5. 標語発表2(水島)

間を取って、「標語」を発表。

引用を「お客様」にたとえた意図を説明。

→手軽でも気を抜かない。

→著作者の権利を尊重し、著作権のルールを守る。

.....

話すこと・伝え方-提示資料と対応させて話す内容の要点、伝え方をメモする。

【資料2-6】 (2年P45)



ぎょく一卵焼き  
(情報の取捨選択) 不採用

方法2 インターネット・本や雑誌・インタビュー  
(集めた情報) すし職人になる方法

調理師学校  
すしの専門学校  
すし屋に弟子入り  
(情報の取捨選択) 採用

方法3 インタビュー  
(集めた情報) すし職人にとって大切なこと  
「鮮度のいい魚をお客様に提供することが・・・」  
(情報の取捨選択) 採用

.....

【資料2-10】 (2年P56)  
(職業ガイドの例)

.....

すし職人の仕事とは? —— 「すし田中」を訪問して学んだこと  
2年2組  
野口小春

### 1. すし職人への道

学校卒業

- 調理師学校→すし屋に就職
- すしの専門学校→すし屋に就職
- すし屋に弟子入り→すし屋に就職

☺☺ すし職人の職場はいろいろ! 一人店、すし屋 (企業が経営)

海外のすし屋など

### 2. すし職人の1日 (すし田中の場合)

- 朝 市場で魚や食材などを仕入れる。店での仕込み。魚をさばいたり、・・・
- 昼 ランチ営業。・・・ 後片づけ。・・・ 夜営業の仕込み。・・・
- 夜 夜営業。・・・ 清掃。・・・ 明日の営業の準備。・・・

.....

### 3. 青空町 すし田中 店長・田中さんが語る!

「すし田中」のおもてなし

(1) すし職人にとって大切なこと

鮮度のいい魚を・・・

(2) 酢飯にも注目!

お客様の視線は・・・

(3) うれしいのはお客様の「おいしい。」

やはり、お客様に・・・

(写真1) 家族経営のすし田中

(写真2) すしをにぎる田中さんの手

.....

### 4. 調べてみて

本やインターネットでは知ることのできなかつた、生の声を聞いたことで、・・・



就職（職につく） など

5. 前の漢字が後の漢字を修飾する。

（例）

軽傷（軽い傷）

激増（激しく増える）

大粒（大きな粒）

重責（重い責任）

俊足（すばやい足）

猛犬（気の荒い犬）

逆流（さかさまの流れ） など

この他に、「刻々」（「こく」は「きざむ」）「喜々」（「き」は「よろこぶ」）など、同じ漢字を重ね、その状態や様子を強調して表す熟語もある。

三字熟語の主な構成

1. 漢字一字の言葉の組み合わせ。

（例）

衣食住（「ころも」「たべる」「すむ」）

上中下（「うえ」「なか」「した」）

松竹梅（「まつ」「たけ」「うめ」） など

2. 漢字一字の言葉と二字熟語の組み合わせ。

前に打ち消しの意味の「不」「無」「非」「未」や、後に「的」「性」「化」などが付いたものも多い。

（例）

大成功（「だい」「せいこう」）

専門家（「せんもん」「か」）

不安定（「ふ」「あんてい」）

絶対的（「ぜったい」「てき」）

初対面（「しょ」「たいめん」）

肖像画（「しょうぞう」「が」）

表彰式（「ひょうしょう」「しき」）

無意味（「む」「いみ」）

可能性（「かのう」「せい」） など

四字以上の熟語の主な構成

1. 漢字一字の言葉の組み合わせ。

（例）

春夏秋冬（「はる」「なつ」「あき」「ふゆ」）

花鳥風月（「はな」「とり」「かぜ」「つき」） など

2. 二字熟語の組み合わせ。

（例）

課外授業（「かがい」「じゅぎょう」）

国際交流（「こくさい」「こうりゅう」）

3. 漢字一字の言葉と二字熟語の組み合わせ。

（例）

大雨注意報（「おおあめ」「ちゅうい」「ほう」）

運転免許証（「うんてん」「めんきょ」「しょう」） など

四字熟語の中には、「一進一退」「大同小異」「美辞麗句」など、古くから言いならわされてきたものも多い。

【資料2-12】（2年 P59）

（練習問題）

1 次の(1)～(5)の「 」で示した熟語は、それぞれ同じ構成の熟語である。どんな構成か調べてみよう。

- (1)  
ア. 「自我」が強い。  
イ. 空気「清浄」機

- (2)  
ア. 「着色」料  
イ. 「兼業」農家

- (3)  
ア. 「国立」公園  
イ. 「日没」

- (4)  
ア. 「麦芽」糖  
イ. 「濃霧」注意報  
ウ. 「極上」

- (5)  
ア. 「師弟」関係  
イ. 「雌雄」を決する。  
ウ. 兄弟「姉妹」

2 次の(1)～(4)の□には「不」「無」「非」「未」のいずれかを、(5)～(7)の□には「的」「性」「化」のいずれかを入れて、三字熟語を作ろう。

- (1) □ 経験  
(2) □ 本意  
(3) □ 秩序  
(4) □ 常識  
(5) 比較□  
(6) 有料□  
(7) 妥当□

3 次の四字熟語の意味を調べよう。

- (1) 東奔西走  
(2) 喜怒哀楽  
(3) 軽挙妄動  
(4) 疾風迅雷  
(5) 鯨飲馬食  
(6) 温厚篤実

【資料2-13】（2年 P60）

漢字に親しもう 2

（新しく習う漢字）

1. 次の「 」で示した熟語を読もう。

- (1) 実力を「遺憾」なく発揮する。  
(2) 「慈愛」に満ちた表情をしている。  
(3) 時間に「余裕」をもって行動する。  
(4) 「素朴」な疑問を投げかける。  
(5) 「寛大」な心で許す。  
(6) 「煩雑」な手続きを改善する。  
(7) 環境の悪化を「危惧」する。  
(8) 「恋慕」の情を抱く。

2. 次の□に合う言葉を語群から選び、文を作ろう。

- (1) 白菜を□
  - (2) 間食を□
  - (3) 進行を□
  - (4) 練習に□
- (語群)

妨げる 飽きる 漬ける 控える

3. 次の「 」で示した部分は同じ音読みの異なる漢字である。それぞれの熟語を読もう。

- (1)
  - ア. 「娛」楽施設
  - イ. 「誤」読
- (2)
  - ア. 子「孫」
  - イ. 「遜」色ない。
- (3)
  - ア. 「勸」誘
  - イ. 音楽「鑑」賞
- (4)
  - ア. 原「因」
  - イ. 婚「姻」

(新しく習う音訓)

4. 次の「 」の言葉を読もう。

- (1)
  - ア. 「強情」を張らずに謝罪をする。
  - イ. 他人に無理を「強いる」。
- (2)
  - ア. 勝利の「女神」が味方する。
  - イ. 「天女」が美しく舞う。

【資料2-14】 (2年 P74)

(例)

.....:

目的 ...植物の葉の共通点を調べる。

.....:

抽象的な概念－「共通」  
具体的な物や事柄－「葉」

Aさん 「目的」は、抽象的な概念を表す言葉だろうか。

【資料2-15】 (2年 P74)

「目的」

対義語－手段

類義語－目標 めあて ねらい

「共通」

対義語－特有

類義語－類似 同様 相似

【資料2-16】 (2年 P75)

.....  
(「目的」と「目標」の使い分け)  
ア. □を達成する。  
目的- (まる)  
目標- (まる)  
イ. □は10キロメートル完走だ。  
目的- (ばつ)  
目標- (まる)  
ウ. ここへ来た□は…だ。  
目的- (まる)  
目標- (ばつ)  
.....

【資料2-17】 (2年 P76~77)

(テレビニュース)

.....  
NEWS 台風4号 九州へ上陸  
大雨に嚴重な警戒を  
(2022年7月5日9時00分放送)  
.....

(気象庁ウェブサイト)

.....  
あなたの街の防災情報  
浸水キキクル (地図)  
土砂キキクル (地図)  
洪水キキクル (地図)  
気象庁「キキクル」を基に作成。  
(2022年7月5日8時00分配信)  
.....

(本)

.....  
風水害 (台風・豪雨など)  
豪雨・台風の前にしておくべき対策  
災害発生前の対策が被害回避の大原則  
河川から…  
(2021年2月28日発行)  
.....

(新聞)

.....  
台風 きょう県内最接近  
大雨に警戒 休校も  
台風4号は、5日朝から昼過ぎにかけて県内に最接近する…  
(写真) 一台風4号の接近に備え、…  
(2022年7月5日朝刊)  
.....

(SNS 個人アカウント)

.....  
はるか @xxx xxx  
台風近づいているのかな、うちの近所も風が強くなってきた！  
みんなも今のうちに庭の鉢植えを回収したほうがいいかも。  
(写真) 一庭の鉢植え  
(2022年7月5日15時53分配信)  
.....

(SNS 自治体の公式アカウント)

.....  
大阪防災ネット (大阪府) @osaka bousai  
2022年07月05日10時56分  
大阪管区气象台発表  
令和4年 台風第4号に関する大阪府気象情報が発表されました。  
台風…  
(2022年7月5日10時56分配信)  
.....

【資料2-18】 (2年P103)

(伏線の例-タクジが転倒した場面)

.....  
伏線1  
(過去) タクジの転倒  
「絵の具」を踏み潰し、…色とりどりの中身が飛び出した。  
(現在) 「僕」が電車を待つ場面  
カラフルな「絵の具」がはじける映像・・・  
→タクジを想起  
  
伏線2  
(過去) タクジの転倒  
タクジは立ち尽くし、…耳まで赤くなっていた。  
(現在) ロボットの転倒  
「このロボットは転んでも、自分で起き上がります。…」  
→タクジの変化  
.....  
Aさん 他にはどんな伏線があるだろう。

【資料2-19】 (2年P114)

(尊敬語と謙譲語の例)

.....  
動詞の場合  
1. 動詞全般に使える形  
「尊敬語」 「謙譲語」  
お(ご)・・・になる お(ご)・・・する  
・・・れる ・・・られる  
-----  
2. 特定の形に変化する動詞  
「尊敬語」 「謙譲語」

行く・来る	いらっしゃる	参る・伺う
	おいでになる	
いる	いらっしゃる	おる
	おいでになる	
言う・話す	おっしゃる	申す・申しあげる
見る	ご覧になる	拝見する
食べる	召しあがる	いただく
する	なさる	いたす
くれる	くださる	――
もらう	――	いただく
聞く	――	伺う・承る
知る・思う	――	存じる

名詞の場合

1. 名詞全般に付く形

「尊敬語」	「謙讓語」
(先生からの)	(先生への)
「お」手紙	「お」手紙
(先生からの)	(先生への)
「ご」意見	「ご」意見

2. 特定の名詞に付く形

「尊敬語」― 「芳」名・「御」社・「貴」校(あなたの学校)・「尊」父  
「謙讓語」― 「愚」見・「弊」社・「拙」著・「粗」品

.....

【資料2-20】(2年P119 下)

(練習問題)

次の文の「 」で示した漢字は( )のどちらの意味か。

- (1) 法案を倫理委員会に「はかる」。(くわだてる 相談する)
- (2) サッカーチームの指揮を「とる」。(とらえる 執り行う)
- (3) 青銅で鐘を「いる」。(はなつ 金属を溶かして物をつくる)
- (4) 大学で哲学を「おさめる」。(学問を身につける 納入する)
- (5) 遭難者が「せいかん」する。(静かに観察する 生きて帰る)
- (6) 「くじゅう」の選択を迫られる。(苦い汁 苦しみ悩むこと)
- (7) 他人の行動に「かんしょう」しない。(口出しをすること 感じて心をいためること)
- (8) 「へいこう」感覚を失って転ぶ。(並び行われること つりあいがとれること)
- (9) 市民が自由を「きょうじゅ」する。(教え授けること 味わい楽しむこと)
- (10) 打球の「きせき」が弧を描く。(常識では考えられない出来事 物体の運動によってできる図形)

【資料2-21】(2年P120)

漢字に親しもう3

(新しく習う漢字)

1. 次の「 」の言葉を読もう。

- (1) 旅館で料理を「配膳」する。
- (2) 「海藻」のサラダを作る。
- (3) 「旬」の野菜を食べる。
- (4) 伝統的な製法でみそを「醸造」する。
- (5) ヨーグルトに「蜂蜜」をかける。
- (6) 彼の好物は「麺類」だ。

- (7) 食後に「煎茶」を飲む。
- (8) 「石臼」でそばをひく。

2. 次の(1)～(4)の熟語について、( )内の説明を参考にして同じ構成の熟語をア.～エ.からそれぞれ選ぼう。

- (1) 充填 (あてる、ふさぐ)
- (2) 佳作 (よい、作品)
- (3) 凹凸 (くぼむ、つきでる)
- (4) 募金 (つもの、かね)
- ア. 寒暖 (寒い、暖かい)
- イ. 観劇 (観る、劇)
- ウ. 摩擦 (摩る、擦る)
- エ. 油膜 (油、膜)

3. 次の「 」の熟語には「かたな (りっとう)」が部首の漢字が含まれる。それぞれの熟語を読もう。

- (1) 自意識「過剰」
- (2) 「剛直」な人柄
- (3) 予算の「削減」
- (4) 合成「洗剤」

(新しく習う音訓)

4. 次の「 」の言葉を読もう。

- (1) 朝日に「映える」花の姿。
- (2) 科学者が自伝を「著す」。
- (3) 彼女を生徒会長に「推す」。
- (4) 洋服の生地を「裁つ」。

【資料2-22】(2年 P240)

「文節どうしの関係」

(例) 山の上に涼しい風が吹く。

山の (連体修飾語) → 上に  
涼しい (連体修飾語) → 風が  
風が (主語) → ふく (述語)

※連文節の場合

山の上に (連用修飾語) → ふく (述語)  
涼しい風が (主部) → ふく (述語)

【資料2-23】(2年 P241)

(例) 山の上に涼しい風がふく。

(自立語と付属語)

自立語—山 上 涼しい 風 吹く  
付属語—の に が

(活用の有無)

活用がある—涼しい 吹く  
活用がない—山 の 上 に 風 が

【資料2-24】(2年 P246)

動詞の場合の活用形と後に付く主なもの



未然形

ない う (一) よう (よ一) れる せる め など。

連用形

用言 ます た て など。

終止形

言い切る形。 と から けれど など。

連体形

体言 ので のに など。

仮定形

「もし・・・すれば」と仮定するときの形。 ば

命令形

命令して言い切る形。

.....

【資料 2-25】 (2年 P248)

動詞の活用

.....

活用の種類	基本形	語幹	活用形未然
5段	書く	か	か こ
上一段	起きる	お	き
下一段	食べる	た	べ
カ変	来る	—	こ
サ変	する	—	し せ さ

.....

連用	終止	連体	仮定	命令
き い	く	く	け	け
き	きる	きる	きれ	きろ
べ	べる	べる	べれ	べろ
き	くる	くる	くれ	こい
し	する	する	すれ	しろ

.....

後に付く主なもの

未然形 — ない う (一) よう (よ一)

連用形 — ます た て

終止形 — ...。

連体形 — とき ので

仮定形 — ば

命令形 — ...。

【資料 2-26】 (2年 P249)

形容詞・形容動詞の活用

.....

活用の種類	基本形	語幹	活用形未然
形容詞	かわいい	かわい	かろ
形容動詞	静かだ	しずか	だろ

形容動詞	元気です	げんき	でしょ	
連用	終止	連体	假定	命令
かっ く	い	い	けれ	——
だっ で	に だ	な	なら	——
でし	です	(です)	——	——

後に付く主なもの

未然形	——	う (一)	
連用形	——	た ない	なる
終止形	——	・・・。	
連体形	——	とき ので	
假定形	——	ば	
命令形	——	・・・。	

【資料 2-27】 (2年 P257)

小学校 6 年生で学習した漢字を確認しよう。

1 次の「 」で示した部分の漢字は 6 年生で学習した漢字である。

- (1) 「かた」道切符を 1 「まい」買う。
- (2) 委員長の任期「えん」長を「しょう」認する。
- (3) 父の「たん」生日は、僕の「たん」生日の「よく」日だ。
- (4) 「しお」の「かん」満を調べる。
- (5) 方位「じ」石の「はり」が北を指す。
- (6) この図書館の「ぞう」書は約三万「さつ」だ。
- (7) 試合開始の「せん」言を聞き、「むね」が高鳴る。
- (8) 「うちゅう」に「たん」査機を打ち上げる。
- (9) 仕事を「はん」ごとに分「たん」する。
- (10) 「きぬ」糸は「かいこ」のまゆから作られる。
- (11) 明日、「ゆう」便物が「とど」く予定だ。
- (12) 「き」族の「く」らしを描いた物語。
- (13) ピアノの演「そう」会で実力を発「き」する。
- (14) 「はい」色の空から雨が「ふ」る。
- (15) 参加者に発言する「けん」利を「みと」める。
- (16) 「わか」者に人気がある音楽雑「し」を買う。
- (17) 議会で野「とう」の提案が「ひ」決される。
- (18) 「とう」分をひかえるように「ちゅう」告する。
- (19) 彼は「せい」実に仕事をこなす立「ば」な人物だ。
- (20) 公園の「すな」場や鉄「ぼう」で遊ぶ。
- (21) 「いちょう」の調子がよくない。
- (22) 海「ぞ」いの町の新鮮な魚に「した」つづみを打つ。
- (23) 「けん」売機が故「しょう」している。

2 次の各組の「 」で示した部分は、同じ漢字である。

- (1) 立候「補」 「補」強 「補」助 「補」給
- (2) 苦「難」 「難」破船 「難」解な文章 「難」易度
- (3) 財「宝」 国「宝」 「宝」石 我が家の家「宝」
- (4) 駅の階「段」 石「段」 「段」落 手「段」
- (5) 死「亡」届 「亡」命 国家の興「亡」 「亡」国
- (6) 「納」品 収「納」 「納」税 「納」期
- (7) 「善」意 「善」行を積む 「善」良な人 親「善」試合

- (8) 自「律」的 規「律」を守る 調「律」師 法「律」  
 (9) 注「射」器 放「射」状 反「射」 ロケットの発「射」  
 (10) 「映」像 上「映」 「映」画館 世相を反「映」する

3 次の各組の「 」で示した部分は、同じ音であるが、それぞれ違う漢字である。

- (1) おん - 「音」楽 「恩」人 「温」度  
 (2) だん - 横「断」歩道 「暖」冬 相「談」  
 (3) こん - 「困」難 「混」雑 「根」気強い  
 (4) ひょう - 土「俵」 「評」判 目「標」

4 次の熟語は同じ偏をもつ二字の漢字でできている。

- (1) 組織 (いとへん)  
 (2) 肺臓 (にくづき)  
 (3) 源流 (さんずい)  
 (4) 議論 (ごんべん)  
 (5) 俳優 (にんべん)  
 (6) 地域 (つちへん)  
 (7) 激減 (さんずい)  
 (8) 呼吸 (くちへん)  
 (9) 誤読 (ごんべん)

5 次の四字の漢字でできた熟語の意味を調べよう。

- (1) 臨時休業  
 (2) 公私混同  
 (3) 秘密厳守  
 (4) 皇后陛下

6 次の各組の「 」で示した部分は、同じ漢字である。

- (1) 「策」略 外交政「策」  
 (2) 「筋」肉 道「筋」  
 (3) 正しい「姿」勢 容「姿」  
 (4) 「革」命 皮「革」製品  
 (5) 国立「劇」場 演「劇」  
 (6) 「紅」白 口「紅」  
 (7) 「骨」折 背「骨」  
 (8) 「宅」地 住「宅」  
 (9) 「勤」務 欠「勤」  
 (10) 「尺」度 縮「尺」  
 (11) 「穀」物 米「穀」  
 (12) 「仁」術 「仁」愛

7 次の(1)～(5)が慣用句になるように、A群から□に入る語句を選ぼう。また、その慣用句の意味を、B群から選び、記号で答えよう。

- (1) 耳を □。  
 (2) 頬を □。  
 (3) 肩を □。  
 (4) 腹を □。  
 (5) 舌を □。

A群

割る 巻く 染める 疑う 並べる

B群

ア. 包み隠さずに話すこと。

- イ. 恥ずかしそうにすること。
- ウ. 非常に感心すること。
- エ. 聞いたことが信じられないこと。
- オ. 対等な力をもつこと。

【資料2-28】(2年 P265)

宛先 soumu@aozora-yochien1983.ed.jp  
 件名 職場体験に関する質問 (南中学校・今西)

青空町立青空幼稚園  
 北川 緑 先生

来週の職場体験でお世話になります、  
 (ア) □の今西律子です。  
 職場体験初日のお楽しみ会について、  
 (イ) お聞きになりたいことがあります。  
 当日は園児の皆さんと、童謡を歌いたいと考えています。  
 (ウ) ランチルームにオルガンはありますか。  
 (エ) □  
 南中学校 2年2組 今西律子

1. 次の推敲の観点を基に文面を書き加えたり、書き改めたりしよう。(読み手にとってわかりやすい書き方に整える。)

- (1) まず、自分の立場や所属を明確にするために、(ア) □に適切なことばを書こう。
- (2) 敬語を適切に使うために、(イ) を適切な敬語に改めよう。
- (3) 質問の内容をはっきりと伝えるために、(ウ) の理由を書こう。

2. 次の(今西さんの考え)と(注意したいこと)を読み、(エ) □に書く文面を考えよう。(自分の考えが伝わるように工夫する。)

(今西さんの考え) \_\_オルガンを借りられるかどうかで、準備が変わる。職場体験が始まる前に、返事が欲しい。

(注意したいこと) \_\_相手に失礼のないように願います。

【資料2-29】(2年 P270)

(似たような言葉でも…)

似たような意味をもつ言葉でも、与える印象が異なる場合がある。

1 真面目

似たような言葉 — 熱心 いちず 真摯

(例) 課題に対して「真剣に」取り組む。

似たような言葉 — 頭が固い 四角四面 融通がきかない

(例) 「生真面目な」ので、冗談が通じない。

2 こだわる

似たような言葉 — 根気強い ひたむき 意志を貫く

(例) 細かなところまで「粘り強く」取り組む。

似たような言葉 — とらわれる 執着する 凝り固まる

(例) 失敗に、いつまでも「固執する」。

3 賢い

似たような言葉 — 理知的 頭脳明晰 利発

(例) 彼は、理解が早く、「聡明な」人だ。

似たような言葉 — ずる賢い こざかしい 計算高い

(例) 彼は、利己的で「抜け目がない」。

#### 4 無邪気

似たような言葉 — 素直 純粹 天真爛漫

(例) 「あどけない」笑顔に癒やされる。

似たような言葉 — 思慮に欠ける 単純 短絡的

(例) 「あさはかな」振る舞いで周りを困らせる。

#### 【資料2-30】(2年 P272)

「創造」に関連する言葉

類義語 — 創作 創出

対義語 — 模倣 破壊

関連する語 — 独創性 創意工夫 オリジナリティ

#### 【資料2-31】(2年 P274)

(修飾語が変わると)

(例) 笑う

形容動詞を使うと\_\_ 豪快に 軽やかに 和やかに にこやかに 照れくさそうに 寂しげに 冷やかに

擬音語・擬態語を使うと\_\_ にんまりと にこにここと げらげらと くすくすと ふふふと

形容詞を使うと\_\_ 明るく くったくなく あどけなく いたずらっぽく ぎこちなく

比喩・慣用表現を使うと\_\_ お日さまのように 涙が出るほど 鼻で 腹を抱えて 肩を震わせて

(複合語にすると)

笑いかける 笑い合う 笑い転げる 笑い飛ばす 笑い崩れる

(助詞が変わると)

(例とする言葉) 胸

胸「が」躍る 胸「が」痛む 胸「が」いっぱいになる

胸「を」熱くする 胸「を」打つ 胸「を」借りる

胸「に」刻む 胸「に」秘める 胸「に」手を当てる

胸「の」つかえが下りる 胸「の」すく思い

#### 【資料2-32】いろいろな通信文 (2年 P288)

##### 3. 往復はがき・返信用の手紙

出欠確認が必要な招待状などには、往復はがきや返信用封筒を用いる場合がある。墨字で返信するときには、次の部分を書き改める。

(墨字で書かれた往復はがきで返信する例)

(1) 宛名に書かれている「ゆき」を二重線で消し、「様」などの敬称を書く。

(2) 「出席」、「欠席」などと書かれている出欠欄は、選んだほうに「します」などと書き加え、不要なほうは二重線で消す。

(3) 余白に「楽しみにしています」など、書き添えてもよい。

(4) 自分に向けられた敬語は、二重線で消す。

※点字で返信する場合、出欠などの返事などを書き、封書などで返信してもよい。

##### 5. 電子メール

電子メールのやり取りには、特有のマナーやルールがある。次に示した例を参考に、メールを活用しよう。

(メールの注意点)

1. 宛先—メールアドレスを間違えないようにする。

2. 件名—必ず付ける。用件がすぐにわかるものにする。

3. 本文—墨字で1行35字程度で改行し、用件を簡潔にまとめる。

4. 署名—送信者の氏名やメールアドレスを最後に入れる。

(電子メールの例)

.....

- 1. 宛先 kitano@ △△△.lg.jp
- 2. 件名 資料のお礼 (南中・田中)
- 3. 本文  
〇〇県立自然博物館  
北野大地様  
たいへんお世話になって・・・

4. 署名 南中学校 2年2組 田中光一  
tanaka@ □□□.ed.jp

.....

【資料2-33】 (P129) 「論理の展開を吟味する」  
(論理の展開を吟味する観点の例)

.....

- 根拠 (本論) イースター島で起きた出来事
- 問い1 モアイを作ったのは誰か。
- 答え1 意見—ポリネシア人 (根拠は化石人骨や栽培植物の分析)
- 吟味 — 筆者の意見を裏づける根拠として適切か。
- 問い2 モアイをどうやって・・・

根拠から意見への理由づけ  
吟味 — 根拠を意見と結びつける「理由づけ」に無理はないか。

意見 (結論) 地球の未来  
イースター島の (このような) 運命は、私たちにも無縁なことではない。

.....

【資料2-34】 (P131) 「根拠の吟味」  
(根拠を吟味する例)

.....

(意見) 私たちのクラスは、今年の文化祭で、ダンスに取り組むべきだ

- (根拠1) 昨年度の在校生全員へのアンケートでは、・・・
- (根拠2) クラスの約6割の人が、・・・
- (根拠3) クラスでアンケートを取った結果、・・・

注意点\_客観的で信頼性の高い事実を複数示すのが理想。

- (理由づけ1) 文化祭では、在校生に楽しんで・・・ (意見と根拠1をつなぐ)
- (理由づけ2) クラスの演目では・・・ (意見と根拠2・3をつなぐ)

注意点\_意見と根拠の結び付きを明確にする。

.....

【資料2-35】 (P133~135) 「学びのカギ 適切な根拠を選び、構成を工夫する」  
(根拠と理由づけを示す例)

.....

(課題) 若者の投票率を上げるには・・・

(意見) 中学校の授業で、…  
(根拠1) 若者の意識調査(総務省)の結果  
関心の低さ、選挙の意識への理解不足  
(理由づけ) 模擬選挙を行うことで、…  
(根拠2) ……  
(理由づけ) ……

.....  
(構成の例 双括型の場合)  
.....

(意見) ○○について、私は…  
(根拠1と理由付け) 第一に、…だ。…だからだ。  
(根拠2と理由付け) 第二に、…だ。…だからだ。  
(反論) これに対して、…という考えもあるだろう。しかし、…。  
(意見) 以上のことから、私は、…と考える。

.....  
(調べた内容)  
.....

1. 2022年参議院議員選挙の結果 総務省「第26回…」2022年  
10代の投票率…  
全年代の投票率
2. 若者が投票しない理由 総務省「…」2016年  
「選挙にあまり…」19.4% 「投票所に行くのが…」16.1%
3. 新聞記事「投票率の高さの秘密」(○○新聞…)  
山形遊佐町「少年若者議会」、スウェーデン「学校選挙」 →どちらも…
4. 青空市立北高校の事例  
(1) 3年生の投票率…  
(2) 「模擬選挙で…」(姉の話)

.....  
(構成のしかた) ※p133 上段9行目の後に掲載  
.....

頭括型(意見、根拠と理由づけの順)  
初めに自分の意見を述べ、その後に…  
尾括型(根拠と理由づけ、意見の順)  
初めに根拠や理由づけを示したうえで…  
双括型(意見、根拠と理由づけ、意見の順)  
自分の意見を示してから…

.....  
(意見文の例)  
.....

若者の投票率を上げるにはどうすればよいか

二年二組 岸さやか

(意見)  
若者の投票率の低さが…(略)  
(根拠・理由づけ)  
第一に、…(略)  
(意見)  
以上のことから、私は、投票の意義と方法を…(略)提案する。

.....  
(各段落の説明)

(書き出し)

第一段落 話題提起として、…  
自分の意見を簡潔に示す。(1) (6)

(根拠・理由づけ)

……

.....

【資料2-36】(p145) 「平家物語」の世界

「平家物語」の主な登場人物たち

平家

平清盛(1118~1181) 「栄華を極めた平家の棟梁」 武士として…  
平敦盛(1169~1184) 「悲劇の若武者」 清盛のおい。一の谷の戦いで戦死。

天皇家

後白河法皇(1127~1192) 「平家滅亡の黒幕？」 最初は…

源氏

源頼朝(1147~1199) 「武家政治の創始者」 平家滅亡後…  
源義経(1159~1189) 「平家討伐の立役者」 頼朝の末弟。…活躍。  
木曾義仲(1154~1184) 「京を制圧するも…」 源義仲。頼朝のいとこ。義経らに敗れ戦死。

【資料2-37】(P179) 「君は最後の晩餐を知っているか」 学びのカギ

(二つの文章を比較する例)

.....

観点ごとに整理すると、比較しやすい。

※二つの文章、「君は『最後の晩餐』を知っているか」をA、「『最後の晩餐』の新しさ」をBと表す。

※( )内は「観点」の詳しい説明である。

観点1 内容(書かれている内容を観点にして比較する)

(1) 作品への評価(「最後の晩餐」を、それぞれどんな言葉で評しているか)

A\_かっこいい

B\_新しい

(2) 指摘された「新しさ」(「新しさ」として、それぞれどんなことを指摘しているか)

A\_解剖学、遠近法

B\_構図

観点2 形式(文章の形式や書き方を観点にして比較する)

(1) 文章の種類(それぞれの文章の種類は何か)

A\_評論

B\_解説

(2) 説明のしかた(「最後の晩餐」の魅力をどんな方法で説明しているか)

A\_評価→分析

B\_他の作品との比較

……

.....

【資料2-38】(p180) 「思考のレッスン2 具体と抽象」

(抽象化の例 果物)

リンゴ、ミカン、オレンジ、グレープフルーツ —抽象化→ 果物  
リンゴ、ミカン — 抽象化 → 国産の割合が高い果物  
ミカン、オレンジ、グレープフルーツ — 抽象化 → かんきつ類

【資料2-39】 (P185) 「文法2 走る。走らない。走ろうよ。」  
(表)

動詞	…ない	…ば
はしる	はし「ら」ない	はし「れ」ば
あるく	ある「か」ない	ある「け」ば
…		
たべる	た「べ」ない	た「べれ」ば

【資料2-40】 (P187) 「立場を尊重して話し合おう 学びのカギ」

(討論のテーマと用語の定義の例)

テーマ — 今よりもオンライン授業を増やすべきである。

用語の定義 — 「オンライン授業」とは、この討論では、学校から配信された授業の録音や動画を自宅  
で視聴することとする。(オンライン授業のうち、ここでは…)

(討論の概要)

肯定側

意見\_オンライン授業を増やすべきである。

理由づけ\_わかるまで繰り返し視聴し、復習できる。

根拠(事実)\_

- (1) 大学が行った学生アンケートの結果
- (2) 新聞記事(大学教授のコメント)

否定側

意見\_オンライン授業を…

理由づけ\_多様な意見に…

根拠(事実)\_

- (1) クラスで行ったインタビューの結果
- (2) ……

【資料2-41】 (P188~189) 「立場を尊重して話し合おう」

「討論をする」

(討論の流れ)

1. 次の2点を確認(司会) (2分)
- (1) テーマ、用語の定義 (2) 討論の流れ
2. 肯定側意見(2分)
3. 否定側質疑(1分)
4. 否定側意見(2分)
5. 肯定側質疑(1分)
6. 作戦タイム(2分)

- 7. 否定側反論（2分）
- 8. 肯定側反論（2分）
- 9. 振り返り（肯定側・否定側・司会）（2分）

（討論の例）

1. 確認

（テーマ） 今よりもオンライン授業を・・・

（用語の定義） 「オンライン授業」とは、この討論では、学校から配信された授業の録音や動画を自宅で視聴することとする。

2. 肯定側意見

- （1）立場とメリットを簡潔に述べる。
- （2）根拠となる事実や体験を述べる。

→最初に根拠の数を示す。

→「一つ目は」「二つ目は」など、数字で整理する。

（肯定側意見の例）

.....  
 僕たちは、「オンライン授業を増やすべきである」と考えます。・・・（略）  
 .....

3. 否定側質疑

相手側の意見や根拠について質問する。→相手の意見のどの部分について質問しているかを明確にする。

（否定側質疑の例）

.....  
 肯定側は「わかるまで繰り返し視聴し、復習できる」と主張していますが、・・・  
 .....

4. 否定側意見

具体的な数字を出す。

（否定側意見の例）

.....  
 私たちは、「オンライン授業を増やすべきではない」・・・  
 .....

※以降、同じレイアウト

【資料2-42】（P190～191） 「漢字に親しもう4」

- 1. 次の「 」で示した熟語を読もう。
- 2. 次の「 」で示した言葉を読もう。
- 3. 次の「 」で示した部分はそれぞれ同じ音をもつ異なる漢字である。
  - (1)
    - ア. 「臆」病な犬。
    - イ. 記「憶」する。
  - (2)
    - ア. 「階」段の昇り降り。
    - イ. 「楷」書で書いた文字。
  - (3)
    - ア. 「抵」抗する。
    - イ. 「邸」宅に住む。

(4)

- ア. 「骸」骨。
- イ. 「該」当する。

(5)

- ア. 開「拓」する。
- イ. 選「択」肢がある。

(6)

- ア. 「必」然の結果。
- イ. 唾液を分「泌」する。

4. 次の□に合う語を後の語群から選び、意味を調べよう。

5. 次の「」で示した熟語は(1)(2)の部首を持つ漢字が含まれる。

(1) くちへん

- ア. 専門家に「委嘱」する。
- イ. 「呪縛」を解く。
- ウ. 「示唆」に富んでいる。
- エ. 「喉元」過ぎれば熱さを忘れる。

(2) さんずい

- ア. 「沼地」に生息する蛙。
- イ. 「汎用性」が高い。
- ウ. 「肥沃」な大地。

6. 「」で示した語の意味を考えながら、次の文を読もう。

- (1) 「お歳暮」をおくる。
- (2) 舞台「衣装」を替える。
- (3) 優勝するのは「至難の業」だ。
- (4) 秘密を「暴露」する。
- (5) 「福音」をもたらす。

7. 次の「」で示した部分には同じ漢字が用いられている。

- (1) 「乳」飲み子をあやす。□□牛「乳」を飲む。
- (2) 住所に大「字」が付く。□□文「字」で書き表す。
- (3) 「故」あって、退出する。□□機械が「故」障する。
- (4) 「程」よいところで切り上げる。5分「程」度のアンケート。
- (5) 「頭」文字を大文字で書く。「頭」脳明晰な人。
- (6) 失敗を気に「病」む。「病」院に通う。

【資料2-43】(P222)「漢字に親しもう5」

- 1. 次の「」で示した言葉を読もう。
- 2. 次の□に合う熟語を後の語群から選び、四字熟語を作ろう。

3. 次の文の「」で示した熟語の意味はア. イ. のどちらだろう。

- (1) この映画は「フキユウ」の名作だ。
  - ア. いつまでも残ること。
  - イ. 広くゆきわたること。
- (2) 風邪の「ショウジョウ」が治まる。
  - ア. 成績や功績について褒めたたえた文書。
  - イ. 病気の状態。

4. 次の「 」で示した部分には同じ漢字が用いられている。

- (1) 河「川」を調査する。□□「川」遊び。
- (2) 「機」織りの実演を見る。□□「機」械を操作する。
- (3) 旅「客」機に乗る。□□「客」間にお通しする。
- (4) 小「児」科にかかる。□□「児」童会長を務める。

【資料2-44】 (P231) 「送り仮名」

練習問題

次の「 」の部分は同じ漢字である。漢字の意味を考えよう。

- 1. 二体の人形を巧みに「あやつ」る。(「操」縦)
- 2. 悪人を「こ」らしめる。(「懲」罰)
- 3. ご提案を「つつし」んでお受けします。(「謹」賀新年)
- 4. 「ねば」り「づよ」く取り組む。(「粘」液□□最「強」)
- 5. 仕事を「なま」ける。(「怠」惰)
- 6. 日々の鍛錬を「おこた」らない。(「怠」慢)
- 7. 疲労のあまり判断力が「にぶ」くなる。(「鈍」感)
- 8. 童歌を歌う「ほが」らかな声が響く。(明「朗」)
- 9. 子供が「すこ」やかに育つ。(「健」康診断)
- 10. 後に「うれ」いを残す。(「憂」鬱)
- 11. 栄養の「かたよ」りに注意する。(「偏」見)
- 12. 「きた」る土曜日に文化祭が行われる。(「来」月)

【資料2-45】 (P235) 「国語の学びを振り返ろう」

(水島さんの作品)

.....

「もやもや」を「ぴったり」に！  
—国語を学ぶのは何のため？—

自分の言いたいことを的確に表現……

.....

作品を共有し、交流する

水島さんがアップロードした作品に、コメント機能を使って同級生がコメントを寄せた。

(寄せられたコメント)

.....

- Aさん 私も、自分の言いたいことをうまく…
- Bさん 水島さんが考えを変えるきっかけ…
- Cさん 「『もやもや』を『ぴったり』に！」というタイトルが…

.....

水島さん もらったコメントを読むと、自分の作品のよい点や…

【資料3-1】 (3年P14)

.....

○月○日 (日付)

映画「○○」について (○○映画館) (興味のある事柄)

- 1. ストーリー—星三つ→終わり方が少し味気なかった。原作の方が二重丸。
- 2. キャスト—星五つ→全員イメージどおり！
- 3. 映像—星五つ→迫力があり、見応え十分。

4. 音楽一星四つ→壮大な感じがよく出ていた。

5. 総合一星四つ

原作が好きだったので見る前は不安だったが、想像以上に良かった。映画館で見る価値あり。（自分の評価）

.....

○月○日（日付）

「吾十有五にして学に志す。」（論語）

→私は十五歳のとき、学問に志を立てた。（言葉）

★強い決意を感じる言葉だ。僕も十五歳。今年は特に、学問に励もうと思う。（感想）

○月○日

「学べば学ぶほど、自分が何も知らなかったことに気づく、気づけば気づくほどまた学びたくなる。」  
（アルベルト アインシュタイン「〇〇の言葉」）

★学ぶ→気づくというサイクルで学びが深まる。学ぶことについて考えさせられた。

.....

【資料3-2】（3年P27）

（回想を織り込んだ展開のしかたー読者が読む作品の展開）

.....

1 「握手」

「現在」（上野）の場面

回想

「現在」（上野）の場面

回想…

「現在」（上野）の場面

語り手の「現在」（一年後）

2 「少年の日の思い出」

ア. 前半（現在）

語り手ー私

「客は、夕方の散歩から…」

（←語り手の変更）

イ. 後半（客（僕）の回想）

語り手ー僕

「僕は、八つか九つのとき、…」

.....

【資料3-3】（3年P28）漢字に親しもう1

（新しく習う漢字）

1. 次の「」で示した熟語を読もう。

（1）「報酬」を受け取る。

（2）提案が「却下」される。

- (3) どの「派閥」にも入らない。
- (4) 「賠償金」を支払う。
- (5) 裁判所が「管轄」する区域。
- (6) 速やかに大臣を「更迭」する。
- (7) 文化「勲章」を授かる。

2. 次の空欄に合う熟語を語群から選び、四字熟語を作ろう。また、できた四字熟語を読もう。

- (1) 順風
- (2) 情状
- (3) 深山
- (4) 換骨

(語群) 幽谷 奪胎 満帆 酌量

3. 次の「」で示した部分は、水が部首の漢字である。それぞれの熟語を読もう。

- (1) 追って「沙汰」する。(「さ」と「た」)
- (2) 「漏」電による火災。
- (3) 川が「濁流」となる。(「だく」と「りゅう」)
- (4) 「湾」岸道路を走る。

(新しく習う音訓)

4. 次の「」で示した部分は同じ漢字を用いる。語の意味を考えながら読もう。

- (1) ア. 包丁を「研」ぐ。           イ. 「研」磨
- (2) ア. 呉服を「商」う。       イ. 「商」売
- (3) ア. 「己」の姿を省みる。   イ. 自「己」紹介
- (4) ア. 「公」の施設を利用する。イ. 「公」共
- (5) ア. 技の美しさを「競」う。   イ. 体操「競」技

【資料3-4】 (3年 P29)

(聞き取りメモの例)

.....

(意見・根拠とその適切さ)

意見ー中学生は全員、ボランティア活動をするべきだ。

→ (三角) 「全員」する「べきだ」→・・・

根拠1ーボランティアの体験・・・

→・・・

根拠2ーボランティア活動に参加したい中学生は・・・

→・・・

.....

【資料3-5】 (3年 P33)

.....

最初の構成メモ (尾括型)

1. 話題提示

手紙やはがきについて

2. 説明・根拠

(1) 統計資料1 (文化庁2001)

(2) 統計資料2 (個人ブログ)

(3) 統計資料 3

(4) 実体験

3. 主張

手紙文化をみんなで守ろう

推敲メモ

ア. 導入を追加 (興味を引く)

イ. 話題提示の「について」は、漠然とした印象? 最初に意図を明確に

ウ. 統計資料の発信時期・発信者に問題→統計資料を変更

エ. 同じ種類の根拠が多すぎる→心に訴える具体例に変更

オ. 主張が抽象的な内容→具体的な内容に

推敲後の構成メモ (双括型)

1. 主張

(1) 聞き手への問いかけ

(2) 手紙やはがきのよさを大切に

2. 説明・根拠

(1) 統計資料 1 (文化庁 2015)

(2) 統計資料 2 (総務省 2017)

(3) 手紙にまつわる具体例

(4) 実体験

3. 主張

手紙やはがきを使ってみよう

.....

【資料 3-6】 (3年 P51)

(論理の展開を捉える)

.....

具体と抽象を行き来することで説得力をもたせる論理展開

1. 事例

観察の結果 (具体例)

抽象化 (行動の意味づけ)

2. 抽象化—複数の具体例に共通する意味や性質を導き出す。

3. 一般化・まとめ—人間に共通する性質

4. 具体化—意味や性質が、行動や状況として表れた例を示す。

.....

【資料 3-7】 (3年 P56)

.....

(資料 2) 電子書籍の利用経験 (単位は%)

(ア) 読んだことがある

(イ) 読んだことはないが読んでみたい

(ウ) 読んだことはないし読みたいとも思わない

(エ) 不明

	小学生	中学生
(ア)	35.9	47.1
(イ)	38.9	29.7
(ウ)	24.0	21.7
(エ)	0.2	0.5

.....

(資料3) 本を読む主なきっかけ (単位は%)

きっかけ	小学生	中学生
表紙	43	54
本の題名	63	56
友達の薦め	26	23
世の中の人気や評判	26	36
好きな作家	22	25
映画やテレビの原作	27	36
その他	59	43

.....

【資料3-8】 (3年 P59)

複数の読み方をする熟語

- (1) ネンゲツ としつき
- (2) ミョウニチ あす
- (3) うわて (彼のほうが一枚「上手」だ)  
かみて (舞台の「上手」に立つ)  
じょうず (姉は「上手」な字を書く)

(1)や(2)は、いずれの読み方でも同じ意味を表すが、(3)は、同じ漢字を用いても読み方によって意味が異なる。

【資料3-9】 (3年 P59)

練習問題

1. 次の「 」で示した熟語を読もう。なお、重箱読みは(4)(10)(12)、湯桶読みは(3)(6)である。

- (1) 「峡谷」を探検する。
- (2) 「干潟」にすむ生物。
- (3) 「喪中」のはがき。
- (4) 藍色の「反物」を贈る。
- (5) 川の「浅瀬」を渡る。
- (6) 「錦絵」の展覧会。
- (7) まっすぐで「純粹」な瞳。
- (8) 国王に「謁見」する。
- (9) 「繭玉」を飾り付ける。
- (10) 「錠前」を取り付ける。
- (11) 患者を「治療」する。

(12)「基石」を並べる。

2. 次の「 」で示した部分は、ア. は音で、イ. は同じ漢字が含まれる熟字訓で読もう。

- (1)ア. 甲「乙」      イ. 「乙女」(おつ、おんな)
- (2)ア. 「崩」壊      イ. 「雪崩」(ゆき、くず\_\_れる)
- (3)ア. 「冶」金      イ. 「鍛冶」(きた\_\_える、や)
- (4)ア. 「硫」酸      イ. 「硫黄」(りゅう、こう)

【資料3-10】(3年 P60) 漢字に親しもう2

(新しく習う漢字)

1. 次の「 」で示した言葉を読もう。

- (1) 都内「某所」で撮影が行われる。
- (2) 洗剤がよく「泡立つ」。
- (3) 友達と「親睦」を深める。
- (4) 「同僚」と昼食を取る。
- (5) 炭には「臭い」を消す効果がある。
- (6) 「紙幣」を硬貨に両替える。

2. 次の「 」で示した部分は、同じ音をもつ異なる漢字である。

(1)

- ア. 山で「遭」難する。
- イ. 水「槽」で魚が泳ぐ。

(2)

- ア. 「懇」談会がある。
- イ. 荒地を開「墾」する。

(3)

- ア. 「捕」獲する。
- イ. 「哺」乳類。

(4)

- ア. 小遣いを「儉」約する。
- イ. 夢の冒「険」物語。

(5)

- ア. 実力が「伯」仲する。
- イ. 貴重な「舶」来品。

3. 次の「 」で示した部分は、人が部首の漢字である。

- (1) 「偉人」の伝記を読む。(「い」と「じん」)
- (2) 「僧侶」が読経をする。(「そう」と「りよ」)
- (3) 親の模「倣」をする。
- (4) 食品「偽」装が問題になる。

(新しく習う音訓)

4. 次の「 」で示した部分は同じ漢字を用いる。語の意味を考えながら読もう。

- (1) 「発」端      「発」言
- (2) 「宗」家      「宗」派

- (3) 実「兄」と出かける。 「兄」弟  
(4) 「石」高 宝「石」  
(5) 現金を出「納」する。 「納」得

【資料3-11】 (3年P82)

(観点)

1. 報じられている事実
2. 記者の立場が読み取れる記述
3. 記事から読み取れる記者の立場

記事A

1. 観光客の減少…
2. 「保全と観光 どう両立」「観光客増加による経済効果…伸び悩む。」…
3. この記事は、□を重視する立場から書かれている。

記事B

1. 外来種の侵入状況…
2. 「生態系保護へ 『観光公害対策』」「貴重な生態系を守るために…」…
3. この記事は、□を重視する立場から書かれている。

【資料3-12】 (3年P127~128)

練習問題

1. 次の熟語の意味として合うものを、あとのア. ~カ. から選ぼう。

- (1) 理性
- (2) 倫理
- (3) 普遍
- (4) 契約
- (5) 利潤
- (6) 猶予

ア. 人としてあるべき生き方や道徳。

イ. 物事を決行する時を先に延ばすこと。

ウ. 物事を筋道立てて考え、判断する能力。

エ. 全てのものに当てはまること。

オ. 売買や貸し借りの約束を交わすこと。

カ. 企業などが得る利益。

2. 次の「 」で示した熟語の意味を、熟語を構成している言葉に注意して考えよう。

(例) 少子高齢化→しょうし こうれい か

- (1) 食品の「消費期限」を確かめる。
- (2) 議会は「民主主義」の中核である。
- (3) 「産業廃棄物」を処分する。
- (4) 日本の「食料自給率」を会議の議題に上せる。
- (5) 「生物多様性」を維持する取り組みを支持する。

(6) 国の「重要無形文化財」である歌舞伎を鑑賞する。

3. 次の「 」で示した熟語の類義語をあとのア. ～ケ. から選ぼう。

- (1) 休憩を取り、体力の「消耗」を抑える。
- (2) 他人に「隷属」することをよしとしない。
- (3) 事実を「克明」に描いた戯曲。
- (4) 「侮辱」を受けて激怒する。
- (5) あの作品は、他の「凡庸」な作品とは一線を画する。
- (6) 暴君が国外へ「放逐」される。
- (7) 政治家は「庶民」の訴えに耳を傾けるべきだ。
- (8) 不祥事を起こした委員の「罷免」要求が出される。
- (9) 政府によって反乱が「鎮圧」される。

ア. 武力「制圧」

イ. 「恥辱」に堪える。

ウ. 「丹念」な仕事ぶり。

エ. 「追放」される。

オ. 懲戒「免職」

カ. 一般「大衆」

キ. 「平凡」な作品。

ク. 「消費」期限

ケ. 「従属」関係

4. 次の「 」で示した熟語の対義語をあとのア. ～サ. から選ぼう。

- (1) 「静脈」注射をする。
- (2) 「既知」の概念。
- (3) 人口が「漸増」する。
- (4) 施設が「閉鎖」された。
- (5) 地面が「隆起」する。
- (6) 「叙情」的な文章。
- (7) 犯人を「逮捕」する。
- (8) ご「令嬢」。
- (9) 「特殊」な原理。
- (10) 市町村が「合併」する。
- (11) 「確信的」に述べる。

ア. 叙事

イ. 釈放

ウ. 懐疑的

エ. 開放

オ. 漸減

カ. 普遍

キ. 令息

ク. 陥没

ケ. 動脈

コ. 分離

サ. 未知

5. 四字熟語になるように、次の□に合う言葉を、語群から選ぼう。また、できた四字熟語を読もう。

- (1) 戸籍 □
- (2) 満場 □
- (3) 和洋 □
- (4) 綱紀 □

語群

一致 折衷 肅正 臆本

6. は、原典同様。

【資料3-13】 (3年 P229 中4-9 下1-9)

1. 自立語と付属語

自立語 単独で文節を作ることができる。

付属語 単独では文節を作ることができない。

2. 活用の有無

活用 文の中で使われるとき、単語の形が規則的に変化すること。

用言 活用し、単独で述語になることができる自立語 (動詞・形容詞・形容動詞)

体言 活用しない自立語のうち、「が・わ・も」などを付けて主語となる単語 (名詞)

(例) 山の上に涼しい風が吹く。

(自立語と付属語)

自立語—山 上 涼しい 風 吹く

付属語—の に が

(活用の有無)

活用がある—涼しい 吹く

活用がない—山 の 上 に 風 が

【資料3-14】 (3年 P232 下)

練習

次の1. 2. の俳句について、「 」で示した助詞をそれぞれあとのア. イ. に置き換えて比較し、意味や表現効果について考えよう。

1. 米洗うまえ「に」 蛍の二つ三つ

作者未詳

ア. まえ「を」

イ. まえ「え」

2. 6月「を」 奇麗な風の吹くことよ

正岡子規

ア. 6月「に」

イ. 6月「わ」

【資料3-15】 (3年 P239)

主な助詞と用例 (意味)

格助詞

「が」—鳥が飛ぶ。(主語)

「を」—本を読む。(対象)

...

「や」—これは手厳しいや。(詠嘆)

【資料3-16】 (3年 P250)

(使用例)

「精を出し」で練習する。  
「骨身を惜しまない」で努力する。

・・・

計画は「順風満帆」だ。

【資料3-17】（3年P253上）  
（使用例）

この町は、環境保全に積極的だ。「具体的には」太陽光発電や植林に  
取り組み、ごみを減らす努力もしている。  
太陽光発電や植林に取り組み、ごみを減らす努力もしている。  
「つまり」この町は、環境保全に積極的だ。

【資料3-18】（3年P253下）  
（使用例）

「全校生徒の五十八パーセントが市立図書館を利用している。」という状況について  
「多いな」と考える場合  
市立図書館を利用している生徒は、全体の六割近くに「上る」。  
「少ないな」と考える場合  
市立図書館を利用している生徒は、全体の六割に「満たない」。

【資料3-19】（3年P267上）

- 1 アイデアを広げたいとき
  1. ブレーンストーミング（グループ）
  2. ワールド・カフェ（全体）
- 2 一定の結論を出したいとき
  1. グループ・ディスカッション（グループ）
  2. 会議（全体）
- 3 多角的に捉え、考えを深めたいとき
  1. ディベート（二つの立場）
  2. パネルディスカッション（三つ以上の立場）

【資料3-20】（3年P304～P305上）

次の同音異義語は、それぞれ意味を補足した。

- 戴「冠」式
- 法「曹」界
- 嗣子（あととり）
- 「毀」損（こわす）
- 禁「錮」刑
- 少「尉」（将校の位）
- 元「帥」（総大将）
- 「咽」喉（のど）

汗「腺」(汗を分泌する腺)  
「矯」正(欠点を直す)  
「硝」酸銀  
「蛮」勇(向こう見ずの勇ましさ)  
「通」信(郵便や電信を送り伝える)  
一「隻」(船を数える単位)  
老「翁」(年老いた男)  
鼻「孔」(鼻の穴)  
食「糧」(食物)  
甲乙「丙」(第3の順位)  
「憧」憬(あこがれ)  
右「舷」(右の船べり)  
覚「醒」(目を覚ます)  
失「踪」(行方をくらます)  
「妖」怪(化け物)  
「艦艇」(大小各種の軍用船舶の総称)  
「儒」教(孔子に始まる中国古来の政治・道徳の教え)  
「殉」職(職務のために死ぬこと)  
「逝」去(他人の死の尊敬語)

【資料3-21】(3年p135 中 図)

批判的に読み、評価する観点の例

.....

- (1) 筆者の立場
    - 賛成・肯定(推進・支持・容認)
    - 中立・保留
    - 反対・否定(抑止・懐疑)
  - (2) 論理の展開
    - 論理の展開に無理や飛躍はないか。
    - 原因と結果(小見出し符)
    - 因果関係はあるか(偶然ではないか)。
    - 別の要因は考えられないか。
    - 意見と根拠(小見出し符)
    - 意見を裏付ける根拠として適切か。
    - 意見と根拠の結びつき(「理由付け」)に無理はないか。
    - 具体と抽象(小見出し符)
    - 一般化やまとめ方に無理はないか。
    - 具体例は適切か。他の例も示せるか。
  - (3) 情報の信頼性
    - 根拠となる事実の正確性・客観性(誰が見ても同じ結果になるか)。
    - 示されていない情報はないか。
  - (4) 叙述の適切さ
    - 事実と意見を書き分けているか。
  - (5) ものの見方・考え方
    - 自分の知識や経験、他の人の考えと比較して、納得できるか。
- .....

【資料3-22】(p137 下図)

批評文の例(p)の展開や表現の工夫

.....

目的(小見出し符) 広告を批評し、その広告の価値を力強く訴える。

## 1. 論理の展開

具体例を複数挙げて、伝えたい内容（抽象）の妥当性を示す。

### (1) 序論 —— 抽象

「知ること」の大切さを伝えている

### (2) 本論 —— 具体

分析（キャッチコピー、写真の構図の効果、色使いの効果）

引用（当事者の声）

### (3) 結論 —— 抽象

「知ること」の大切さがまっすぐに心に届く

## 2. 表現

### (1) 文体

常体（簡潔さ・力強さ）

### (2) 文末表現

・・・だ（である）。（断定）

・・・なのだ。（強調）

・・・社会。（体言止め）

### (3) 語句

明らか（である）

まっすぐに（心に届く）（力強い語感の語句）

### (4) その他の表現

「知ること」（強調）

まるで・・・のように（比喩）

.....

## 【資料3-23】（p138 上ポスター）

（題材の例）

.....

### 1. 題材

ヘルプマークについての広告ポスター。写真（ヘルプマークを付けたカバンを持った女性がうずくまっており、その女性に手を差し伸べる誰かの後ろ姿の様子）と、それに関するキャッチコピーや文章が掲載されている。写真は白黒だが、ヘルプマークのみ本来の赤色。

### 2. ポスター内のキャッチコピー

助けてくれたのは、知らない人。だけど、知ってくれていた人。

### 3. ポスター内の文章

ヘルプマーク。それは、内部障害や難病、義足や人工関節、妊娠初期の方など、外見からは分からないけれど、助けが必要な方のためのマーク。

私は病気を抱えています。めまいを起こすことがあります。横になるなどして、休ませてください。（ヘルプマークの裏面）

知ってください。ヘルプマークのこと。

.....

## 【資料3-24】（p138 下）

.....

（分析する）

観点ごとに、問いとそれに対する自分の考えを書き出す。

### 観点1 キャッチコピー

1. 「知らない人」とはどのような人か。

- 日常生活で出会う見ず知らずの人。
- 2. 「知ってくれていた人」とはどのような人か。
- 自分が抱える困難を理解してくれていた人。

観点2 写真の構図

- 写真の構図にはどのような効果があるか。
- 広告を見た人は、現場に居合わせた当事者と同じ視点で、広告の内容を受け止められる。

観点3 広告のねらい

- 何をいちばん伝えたかったのか。
- 社会生活に困難を抱えた人々と共生していくうえで、適切な知識をもつことの大切さ。
- ...
- .....

【資料3-25】 (3年 P140) 漢字に親しもう3

(新しく習う漢字)

1. 次の「 」で示した言葉を読もう。
  - (1) 「閉塞感」を打開する。
  - (2) 激しい「葛藤」が生じる。
  - (3) その発言は「辛辣」だ。
  - (4) 雨が続き、「憂鬱」だ。
  - (5) 侮辱を受けて「憤慨」する。
  - (6) 「甚だ」遺憾である。
  
2. 次の「 」で示した部分は、同音異義語である。それぞれの熟語の意味を考えよう。
  - (1)
    - ア. 「周知」の事実。
    - イ. 「羞恥」を感じる。
  - (2)
    - ア. 「意匠」を凝らす。
    - イ. 「衣装」を着る。
  - (3)
    - ア. 資料を「添付」する。
    - イ. 「天賦」の才。
  - (4)
    - ア. 家族を「扶養」する。
    - イ. 「不要」なものを片付ける。
  - (5)
    - ア. 「寡黙」な人。
    - イ. 必修「科目」を履修する。
  
3. 次の「 」で示した熟語を読もう。
  - (1) 「適宜」休みをとる。
  - (2) 「学生寮」に入る。
  - (3) 劇団を「主宰」する。
  - (4) 「静寂」に包まれる。

(新しく習う音訓)

4. 次の「 」で示した部分は都道府県名に使われている漢字である。読み方の違いに注意して読もう。
  - (1) 「滋」養 「滋」賀県
  - (2) 彼女は才「媛」の誉れが高い。 愛「媛」県



「徒然草」兼好法師（鎌倉）－作者の兼好法師は、「枕草子」をお手本にした。

（紀行文）

「おくのほそ道」松尾芭蕉－作者の松尾芭蕉は、李白、杜甫らを敬愛した。また、平泉を訪れ、「平家物語」の中でその活躍が描かれる源義経の最期に思いをはせた。

（和歌）

「万葉集」（奈良）

「古今和歌集」紀貫之ら撰（平安）－「古今和歌集」の代表的歌人である在原業平が、「伊勢物語」の「男」のモデルとされる。

「新古今和歌集」藤原定家ら撰（鎌倉）－「古今集」や「源氏物語」の歌を元にした歌（本歌取り）がある。

（漢文）

「論語」（紀元前）

「韓非子 矛盾」（紀元前）

「漢詩」孟浩然、李白、杜甫（唐）

.....

【資料3-29】（3年 p180～181）漢字のまとめ

1. 次の「 」で示した部分は、同じ部首の漢字である。

(1) きへん

- ア. 小説の「梗概」。（「こう」と「がい」）
- イ. 「橋桁」を架ける。（「はし」と「げた」）
- ウ. 「栈橋」を渡る。（「さん」と「ばし」）

(2) かい

- ア. 「貪」欲に知識を吸収する。
- イ. 収「賄」罪で捕まる。
- ウ. 本を「購」入する。

(3) こころ

- ア. 「悦」楽に浸る。
- イ. 「怨念」を抱く。（「おん」と「ねん」）
- ウ. 選手を「慰」労する。

(4) ごんべん

- ア. 「詐」欺をはたらく。
- イ. 「訃」報が入る。
- ウ. 根掘り葉掘り「詮」索する。

(5) て

- ア. 罾で「捕」獲する。
- イ. 身柄を「拘」束する。
- ウ. 組織を「掌」「握」する。

2. 次の「 」で示した部分は同じ漢字である。ア. は訓読み、イ. は音読みである。

(1)

- ア. 空が「紅」に染まる。
- イ. 「紅」茶を飲む。

(2)

- ア. 血「眼」になって探す。
- イ. 「眼」科に通う。

(3)

- ア. 「氏」神様の祭り。

イ. 「氏」名を記入する。

3. 次の「 」で示した部分は異なる漢字である。

(1)

弾「効」裁判所

「該」当する項目

「骸」骨の模型

(2)

体の抵「抗」力を高める。

炭「坑」で働く。

太平洋を「航」海する。

4. 次の(1)～(5)の熟語について、( )内を参考にして同じ構成の熟語をア.～コ.から選ぼう。

(1) 豊富 (豊かと富む)

(2) 表裏 (表と裏)

(3) 頭痛 (頭が痛い)

(4) 譲位 (位を譲る)

(5) 軒下 (軒の下)

ア. 有無 (有りと無し)

イ. 象牙 (象の歯)

ウ. 包含 (包むと含む)

エ. 損得 (損失と利益)

オ. 氷解 (氷が解ける)

カ. 船出 (船が港を出る)

キ. 融点 (融ける温度)

ク. 握手 (手を握る)

ケ. 嫉妬 (妬みと嫉み)

コ. 解雇 (雇用を解く)

5. 次の三字熟語や四字熟語の意味を調べよう。

(1) 式次第

(2) 茶飯事

(3) 一朝一夕

(4) 傍若無人

(5) 言語道断

(6) 当意即妙

6. 次の「 」で示した部分は異なる漢字である。

(1)

川に橋を「架ける」。

壁に絵を「掛ける」。

(2)

「得る」ところが多い講義。

不用品を「売る」。

(3)

「生い」立ちを記す。

「老い」も若きも踊りだす。

「追い」打ちをかける。

(4)

事態を「收拾」する。

ゴミ「収集」車

(5)

商品が「驚異」的に売れる。  
核の「脅威」にさらされる。

7. 次の「 」の言葉の意味を調べよう。

- (1) 自然を「畏れる」。
- (2) 準備に時間を「費やす」。
- (3) 夜が明け「初める」。
- (4) ありがたい言葉を「賜る」。
- (5) 仕事を「辞める」。

8. 次の「 」には、重箱読み・湯桶読みの熟語が含まれる。

- (1) 「長唄」を聴く。(「なが」と「うた」)
- (2) 「窮状」を強く訴える。(「きゅう」と「じょう」)
- (3) 「豚肉」をいためる。(「ぶた」と「にく」) 湯桶読み
- (4) 不正を「糾弾」する。(「きゅう」と「だん」)
- (5) 「玩具」を与える。(「がん」と「ぐ」)
- (6) 「額縁」を選ぶ。(「がく」と「ぶち」) 重箱読み
- (7) 「中州」に渡る。(「なか」と「す」)
- (8) 相手を「翻弄」する。(「ほん」と「ろう」)
- (9) 麦が「黄金」色になる。(「おう」と「ごん」)
- (10) 「神主」の話聞く。(「かん」と「ぬし」)

9. 次の「 」で示した部分は、ア. は音で、イ. は同じ漢字が含まれる熟字訓で読む。

- (1) ア. 木「刀」 イ. 「竹刀」
- (2) ア. 店「舗」 イ. 「老舗」
- (3) ア. 「おうとつ」 イ. 「でこぼこ」
- (4) ア. 黄「砂」 イ. 「砂利」
- (5) ア. 「残」念 イ. 「名残」
- (6) ア. 「最」短 イ. 「最寄り」

10. 四字の熟語になるように、□に入る語句を後の語群から選ぼう。また、できた熟語の意味を調べよう。

- (1) 感慨□
- (2) 万有□
- (3) 廃藩□
- (4) 外科□
- (5) 武者□
- (6) 近畿□

(語群)

修行 引力 無量 置県 手術 地方

【資料3-30】「漢字に親しもう4」 (3年 p182)

1. 次の「 」で示した熟語を読もう。

2. 次の熟語と同じ構成の熟語を、( )内の説明を参考にして、後のア. ~エ. からそれぞれ選ぼう。

- (1) 詠唱 (詩歌をよむと唱える)
- (2) 山麓 (山のふもと)
- (3) 吉凶 (縁起の良いことと悪いこと)
- (4) 募金 (寄付金を募る)

ア. 緩急 (緩やかなことときびしいこと)

イ. 造幣 (貨幣を製造する)

- ウ. 苦杯 (苦い液をいれたさかずき)
- エ. 怠惰 (怠けると<sup>おこた</sup>惰る)

3. 次の「 」で示した熟語には「心」が部首の漢字が含まれる。それぞれの熟語を読もう。

- (1) 「郷愁」を誘う夕焼け空。
- (2) 「哀悼」の意を表する。
- (3) 「恣」「意」的に作り出す。
- (4) 我々を「戦慄」させた事件。

4. 次の「 」で示した部分は同じ漢字であり、ア. は音読み、イ. は訓読みである。確かめよう。

- (1)
  - ア. 「守」備位置につく。
  - イ. 子「守」り歌を歌う。
- (2)
  - ア. 「声」援をおくる。
  - イ. 「声」色が変わる。
- (3)
  - ア. 寝「室」で休む。
  - イ. この山には岩「室」がある。
- (4)
  - ア. 耳「鼻」科に通う。
  - イ. 「鼻」歌を歌う。

【資料3-31】 (3年 p184 下)

話し合いを効果的に進めるために効果的な工夫

.....

... p\_\_\_の :... :...: 部分を参照

(進行役)

- 1. 話し合いの初め
  - (1) これまでの話し合いの経緯を確認する。
  - (2) 今回の話し合いの目的や条件を確認する。
- 2. 話し合いの途中
  - (1) 参加者の発言のよい点を取り上げる。
  - (2) 必要に応じて、意見を取捨選択したり、結びつけたりするための基準となる見方や考え方を示す。  
(例) 「〇〇という観点から考えると、どうですか。」
  - (3) 参加者の意見を整理し、案を絞り込んだり、結びつけたりすることで合意形成につなげる。

(全員)

- 1. 話題や展開、話し合いの中で出てきた観点などを意識して話し合いに参加する。
- 2. 多様な考えを認め合いながら、話し合いを進める。  
→互いの立場や考えを認め合う。  
→互いの発言を生かしながら話し合う。

.....

【資料3-32】 (3年 p194)

(中村さん関連年表)

... 年表中の (a) ~ (d) は、(中村哲さんの本) (P L ) と対応。

... 年、出来事の順に記載。

.....

1978 登山隊に参加し、アフガニスタンとパキスタンの国境地帯を初めて訪れる。(a)

- 1984 パキスタンの病院に赴任する。
- 1991 アフガニスタン国内に診療所を開設する。
- 2000 干ばつに対処するため、井戸を掘り始める。(b)
- 2003 マルフリード用水路の建設を始める。
- 2007 マルフリード用水路(第1期)開通。
- 2009 マルフリード用水路(第2期)開通。(c) (d) →p 「天、共に在り」
- 2019 12月4日、武装勢力に銃撃され死去(享年73)。

現在も、中村さんの志を受け継いだ人たちによって、現地での活動が続けられている。

.....

(中村哲さんの本)

(a) 「アフガニスタンの診療所から」(自伝)

私を最初にこの地と結びつけたのは、雄大なカラコルムの自然と・・・

(b) 「わたしは『ゼロ弾きのゴーシュ』」(インタビュー)

私たちとしては、まず、病気の予防という意味から始まって・・・

【資料3-33】(3年 p222 上)

(1) 内容と文章の種類を考える。

(大竹さんの内容と文章の種類)

.....

(内容)

中学校生活で出会った忘れられない言葉。

困難にぶつかったときに、それらの言葉が自分を支えてくれた。

(目的と文章の種類)

体験を通して感じたことを伝えたい。→種類「随筆」

気持ちや場面を生き生きと伝えたい。→種類「物語」

根拠をもって物事の特長や価値を伝えたい。→種類「批評文」

.....

【資料3-34】(3年 p222 下)

3. 冊子を作る

(大竹さんの冊子)

.....

三年間の歩み 「言葉」でたどる私の学び  
三年一組 大竹良太

心の支えになった言葉

「大丈夫、きっとなんとかやっつけていける。」——『星の花が降るころに』(一年)

父の仕事の都合で転校することになったとき、新しい学校になじめるか不安だったけれど、.....

.....

「まだ日は沈まぬ。」——『走れメロス』(二年)

部活動の試合で負けそうになったとき、この言葉を自分に言い聞かせることで、.....

.....

「困難は分割せよ」——『握手』(三年)

理科の自由研究がなかなか思うように.....

「知らないことに気付くのが学びの始まりだ。」——『続けてみよう』の記録

友達と美術館に行ったとき、.....

.....

【資料3-35】漢字に親しもう5 (3年 p226)

1. 次の「 」で示した部分は異なる漢字である。

(1)

- ア. 「暫」定的な計画。
- イ. 「斬」新なデザイン。
- ウ. 景気が「漸」次上昇する。

(2)

- ア. 敵国に「征」服される。
- イ. 印鑑「証」明
- ウ. 時間に「正」確な人。

(3)

- ア. 鍛「鍊」を積む。
- イ. 深く「陳」謝致します。
- ウ. 本番に向けて「練」習する。

2. あとの「 」で示した熟語の音訓の組み合わせは、次のア. ～エ. の4つに分けられる。

- ア. 音と音 (例) 同僚 (「どう」と「りょう」)
- イ. 訓と訓 (例) 岩肌 (「いわ」と「はだ」)
- ウ. 音と訓 (例) 歩幅 (「ほ」と「はば」)
- エ. 訓と音 (例) 奥地 (「おく」と「ち」)

- (1) お寺で「座禅」する。(「ざ」と「ぜん」) ア.
- (2) 夏の夕方に「蚊柱」が立つ。(「か」と「はしら」) イ.
- (3) 「朱色」の鳥居。(「しゅ」と「いろ」) ウ.
- (4) 市民の「胃袋」をみたす。(「い」と「ふくろ」) ウ.
- (5) 「渋柿」をほす。(「しぶ」と「かき」) イ.
- (6) 「瓦版」を読む。(「かわら」と「ばん」) エ.
- (7) 「石碑」に刻む。(「せき」と「ひ」) ア.
- (8) 何かと「難癖」をつける。(「なん」と「くせ」) ウ.
- (9) マイホームの「建坪」を考える。(「たて」と「つぼ」) イ.
- (10) 洋楽より「邦楽」を好む。(「ほう」と「がく」) ア.

3. 次の「 」で示した熟語には「土」が部首の漢字が含まれる。それぞれの熟語を読もう。

- (1) 粘土で「塑像」を作る。
- (2) 金「塊」を掘り当てた。
- (3) 「墮」落した生活。
- (4) 年齢の「垣根」を越える。

4. 次の熟語と構成が同じものを、後のア. ～エ. からそれぞれ選ぼう。

- (1) 忘恩 (恩を忘れる)
- (2) 花園 (花の園)
- (3) 今昔 (今と昔)
- (4) 引率 (引きつれること)
  - ア. 貸与 (貸し与えること)
  - イ. 退職 (職を退く)
  - ウ. 深淺 (深いと浅い)
  - エ. 雄姿 (雄々しい姿)